

GA79
22



0056489-000

GA79-22

欧洲戦ニ於ケル遭遇戦ノ趨勢

参謀本部・〔編〕

偕行社編集部

1929. 12

AJD

日本將校ノ外閱覽ヲ禁ス

GA79
22

戰史叢書第九號

歐洲戰ニ於ケル遭遇戰ノ趨勢

序言

本叢書ハ内外ノ戦史ニ關スル研究資料ヲ我軍事界ニ供スルヲ目的トス而シテ
本號ハ當部職員中戦史ヲ研究セルモノノ作業トス

參謀本部

序言

一



85W35824

209.71

前 言

這次歐洲大戰ノ經過ヲ顧ルニ開戰ノ初年東西戰場ニ於テ大小幾多ノ遭遇戰ノ演出ヲ見タリ茲ニ是等遭遇戰ノ實相ヲ討ネ其經驗ニ徴シ一般ノ趨勢ニ就テ總括的觀察ヲ試ミントス

歐洲戰ニ於ケル遭遇戰ノ趨勢

目次

第一款 總括的觀察.....	一頁
第一 遭遇戰ノ發生.....	一
第二 遭遇戰ヲ發生セシ一般作戰情況.....	三
第三 遭遇戰ノ一般特性.....	五
其一 情況ノ不明確.....	五
其二 連絡ノ困難.....	九
其三 先制ノ利.....	一〇
其四 各個戰發生ノ傾向.....	一二
其五 交戰時間.....	一三

其六 損害	二四
第四 遭遇戦ノ指導	一五
其一 軍ニ就テ	一五
其二 師團ニ就テ	一九
一、戦鬪ノ爲ノ前進	一九
二、接 觸	二〇
三、攻撃ト秩序	二一
四、攻撃部署ニ就テ	二三
五、戦鬪搜索及連絡	二四
六、砲兵ノ用法	二五
第五 遭遇戦ト指揮官及軍隊	二七
第六 遭遇戦ニ關スル平時訓練	二八
第七 將來ノ遭遇戦ニ關スル二、三ノ觀察	三一

第二款 戦 例	三五
第一 一九一四年八月東普「グンピンネン」附近獨第八軍ノ遭遇戦	三五
第二 一九一四年八月獨佛國境會戦ニ於ケル「ヌーフシャール」附近獨第四軍ノ遭遇戦	五三
第三 一九一四年八月獨佛國境會戦後ニ於ケル「サン・カンタン」附近獨第二軍ノ遭遇戦	六九
第四 一九一四年八月東普「グンピンネン」附近ニ於ケル獨第十七軍團ノ遭遇戦	九一
第五 一九一四年八月「タンネンベルヒ」會戦ニ於ケル獨第八軍東部兵團ノ「グロース・ベッサウ」附近ノ遭遇戦	一〇五
第六 一九一四年八月「ヌーフシャール」附近佛植民地旅團ノ遭遇戦	一二三

第七	一九一四年九月「マルヌ」會戰ニ於ケル獨第十七師團ノ「エステルネイ」附近遭遇戰……………	一四七
第八	一九一四年九月「マルヌ」會戰ニ於ケル獨近衛豫備第一師團ノ「シャルルヴィル」附近遭遇戰……………	一七三
第九	一九一四年十一月「ロツヅ」會戰中「ブレジヌイ」南方地區ニ於ケル西伯利狙擊第六師團ノ遭遇戰……………	一九五

歐洲戰ニ於ケル遭遇戰ノ趨勢

第一款 總括的觀察

第一 遭遇戰ノ發生

遭遇戰トハ本來ノ任務若ハ臨機ノ企圖ニ基キ、兩軍共ニ攻撃ノ手段ヲ取り成立スル戰鬪ニシテ、其發生當時ニ於ケル彼我兩軍ノ態勢ノ異ルニ從ヒ戰鬪推移ノ情況モ亦各々特異ノ經過ヲ辿リ、時トシテ戰鬪準備ノ外觀ニ於テハ陣地ニ對スル計畫攻撃ト區別シ得サルモノアルモ、多クハ其指導ノ精神ニ於テ相違ヲ有スルモノナリ。

遭遇戰ト云ヘハ直ニ兩軍運動ノ態勢ヨリ發生スル戰鬪ヲ回想スルモノアラシ、斯ノ如キ場合ニ於テハ遭遇戰ノ特色最モ顯著ナルヲ認ムルモ、交戦前ノ態勢カ運動中ナルコトハ必スシモ遭遇戰ノ條件トスヘキモノニアラス、一方軍カ敵軍ノ前進ニ關スル情報ヲ獲ルコト遅ク、停止若クハ休止ノ狀態ヨリ直ニ攻撃展開

若ハ展開準備ノ態勢ニ移轉セルカ如キ場合、尙、遭遇戦ト稱スルヲ得ヘシ、歐洲戦ノ研究ニ依レハ此種遭遇戦ノ實例尠カラス。

戦闘ノ發生ハ正對シテ行ハルルアリ、斜前方ニ行ハルルアリ、稀ニ一方軍敵ノ側面ニ向フカ如キ態勢ヨリ戦闘發展スルモノアリ、而シテ兩軍戦闘準備ノ程度ヲ比較スルニ敵情知得ノ程度、遭遇時ニ於ケル一般態勢等ヨリ形而上下ニ於テ多少ノ差異ヲ生起スルヲ通常トス。

歐洲戦ノ遭遇戦中豫期戦多キヤ不期戦多キヤノ問題ニ關シテハ、彼我兩軍ノ間ニ多少ノ差異コソアレ一般ニ不期的傾向ヲ有スルモノ比較的多キヲ認ムルモノナリ、平時演習ニ於テハ想定ノ示ス敵情、實際ト懸隔セサルヲ以テ、遭遇戦ハ多ク事實豫期戦トシテ演練セラルルノ觀アルモ、這次大戰ノ諸戦例ニ鑑ルニ指揮官ノ豫期スル敵情ト實際トノ間ニハ時トシテ多大ノ相違ヲ存スルカ故ニ遭遇戦ハ多少豫期ニ反シテ演出セラルルヲ常トスルノミナラス、純然タル不期戦ヲ惹起セシ例亦乏シカラス、不期戦ハ兩軍ニ共通ナル場合ト單ニ一方軍ノミニ

關スル場合トノ二アリ。

軍ノ如キ大兵團ノ遭遇戦ハ局部的ニ發生ノ狀態區々ニシテ敍上各種ノ狀態ヲ混スルコトアリ、例ヘハ一九一四年東普「グンピンネン」附近露獨第一次會戦ハ大局ヨリ見テ遭遇戦ニ屬スヘキモノナルモ、獨軍側ニ就テ觀察スルニ、左翼第一軍團ハ防禦態勢ヨリ攻勢ニ轉シ、中央第十七軍團ハ攻撃前進ノ態勢ヲ以テ防禦陣地ヲ占領中ノ露軍ニ衝突シ、右翼豫備第一軍團ハ行軍中休憩ノ狀態ニ於テ敵ヨリ側面ヲ急襲セラレ不期戦ヲ演シタルカ如キ是ナリ。

第二 遭遇戦ヲ發生セシ一般作戰情況

歐洲大戰ノ遭遇戦カ如何ナル一般作戰情況ノ下ニ發生セシヤヲ觀察セハ概ネ左ノ如シ。

1 開戦初頭兩軍ノ攻勢前進運動ノ結果生シタルモノ

獨佛白國境地方諸所ニ於テ演セラレシ大規模ノ遭遇戦竝東普地方ノ露獨第一次會戦ノ如キ即チ之ニ屬ス。

2 大兵團ノ作戰ニ方リ諸般ノ企圖ヲ以テ翼側ニ行動スル兩軍ノ兵團相互間ニ生シタルモノ

「タンネンベルヒ」會戰ニ於テ「グロース・ベッサウ」附近獨第八軍東部兵團對露第六軍團ノ遭遇戰、「マルヌ」會戰ニ於ケル「ウルク」河畔佛第六軍對獨豫備第四軍團ノ遭遇戰等此種類ニ屬スル戰例多シ。

3 2ノ場合ニ於テ中央間隙部ニ行動スル兩軍兵團相互間ニ生シタルモノ

一九一四年「エーヌ」河畔ノ會戰ニ於テ獨第一、第二軍間ノ間隙部ニ挿入セラレタル獨豫備第七軍團ノ英第一軍團及佛第十八軍團ニ對スル遭遇戰ノ如キ即チ是ナリ。

4 退却軍攻勢作戰ニ移轉セル結果追擊軍トノ間ニ生タルモノ
一九一四年「マルヌ」會戰中九月六日獨第二軍ニ對スル佛第九軍ノ左翼、同第五軍ノ右翼ノ遭遇戰ノ如キ即チ是ナリ。

5 退却軍ノ追擊軍ニ對スル部分的反擊若ハ退却スル友軍ノ側方ヨリスル牽制攻撃ノ結果生シタルモノ

獨佛白國境地方ノ會戰後追擊中ナル獨第二軍ニ對スル佛第五軍ノ「サン・カンタン」地方ニ於ケル反擊竝同情況獨第一軍ニ對スル「ダマード」兵團ノ「ペロンヌ」地方ニ於ケル牽制攻撃ノ如キ即チ是ナリ。

6 陣地戰ノ攻撃ニ於テ攻者ノ突破前進兵團ニ對スル防者ノ赴援兵團逆擊ノ結果生シタルモノ

一九一八年三月西方戰場ニ於ケル獨軍ノ大攻撃中、「ソンム」河南方ノ突破孔附近ニ一部此種遭遇戰ノ現象ヲ呈セリ。

第三 遭遇戰ノ一般特性

其一 情況ノ不明確

情況ノ明確ヲ缺クハ實戰ノ常態ナルカ、運動戰就中遭遇戰ニ於テ殊ニ其然ルヲ見ル、試ニ歐洲戰ノ遭遇戰ニ於テ戰鬪開始前高級指揮官カ幾何程度ニ敵情ノ實

際ヲ知悉シ在リシヤヲ檢討セハ啓得スル所蓋シ少カラサルヘク、(第二款諸戰例參照)當時(飛行機ノ發達未タ十分ナラス)ノ經驗ニ依レハ平時各種搜索機關ノ成果ニ期待セシ所過大ナルヲ示セリ。

騎兵ノ搜索ハ多クハ其存在スル地方ニ於テ敵軍歩兵ノ前端ヲ確定シ得タルニ過キスシテ能ク敵ノ警戒線ヲ突破シ其背後ニ於ケル敵軍主力ノ情況ニ關シ適時重要ナル搜索成果ヲ齎セシモノ僅少ナリ、一九一四年八月西方戰場ノ獨各軍ノ如キモ騎兵師團若ハ騎兵軍團ノ活動アリシニ係ラス、多クハ當面敵軍主力ノ情況ヲ確知スル程度ニ至ラスシテ國境會戰ヲ演セリ。

航空隊ニ關シテハ歐洲戰開始ノ當時飛行隊ノ用法幼稚ニシテ、現時ノ如ク高級司令部(例ヘハ軍)ニ於テ緊要ナル期間之ヲ掌握シ統一的使用スルノ原則行ハレス、又、能力、機數ノ關係ニ於テモ不十分ノモノアリ、(一軍ヲ通シ若干中隊)從ツテ是等飛行機ハ敵ノ後方ニ關シ屢々有益ナル情報ヲ供給シ得タリトハ云ヘ、其空中搜索ノ成果(軍隊ノ位置、兵力等ニ關スル)ヲ以テ敵ノ戰術戰略的意嚮

ニ關シ的確ニ判斷ヲ下シ得ルノ域ニ達シアラス、而モ天候氣象ノ影響ヲ受ケ緊要ナル時機ニ搜索ヲ中絶セサルヘカラサリシコト一再ニシテ止マラサリキ、「サン・カンタン」、「ヌーフシャートー」會戰前ノ如キ、何レモ緊要ナル一定時期ニ互リ空中搜索ヲ廢スルニ至レリ。

次テ歩騎兵斥候ノ距離搜索ハ實戰場裡ニ於ケル心理作用、軍隊ノ疲勞、輓近ニ於ケル火器威力ノ増大ニ起因シ、一般ニ其成果平時演習ニ比シ更ニ不十分ナルノ感アリ、是等斥候ハ多クノ場合敵ノ遮蔽幕ニ衝突若ハ接觸セルヲ報セルニ過キスシテ、高級指揮官ノ決心ノ憑據タルヘキ資料ヲ齎セシ事尠シ、彼ノ「サン・カンタン」附近ノ會戰ニ於テ獨軍各兵種ノ斥候力敵ノ遮蔽幕ニ妨ケラレテ「オアイズ」南岸ノ敵情ヲ確定スルヲ得サリシカ如キハ(第二款戰例第三參照)同會戰ノミノ特例ニアラス、寧ロ輓近戰ノ端緒ニ通有スル一傾向ニアラサルカ。敵情ハ時トシテ敵方夜間ノ機動ヲ以テ接敵、轉進等ヲ爲スニ依リ豫想ヲ裏切ラルルコトアリ、「タンネンベルヒ」戰場北翼「グロース・ベッサウ」附近遭遇戰ニ於

ケル露第四師團ノ夜間接敵、一九一四年八月東普「ゲンピンネン」附近遭遇戰前獨第八軍主力（就中步兵第二師團）ノ夜間接敵ノ如キハ何レモ當面敵軍ノ判斷ニ影響ヲ與ヘ、敵ヲシテ多少形而上下ニ於テ不利ナル情勢ノ下ニ戰鬪セシムルノ結果ヲ見タリ。

更ニ戰線背後ニ於ケル鐵道及發動器輸送機關ノ利用ハ兵團ノ機動ヲ便ニシ、不注意ナル對者ノ敵情判斷ヲ誤ラシメタルコトアリ、彼ノ「マルヌ」會戰前ニ於テ獨右方諸軍司令官カ九月四日ニ至ルモ敵情ノ變化ヲ知得セサリシカ如キ即チ是ナリ。

戰後獨軍ノ編纂ニ成レル「連合兵種ノ指揮及戰鬪」カ遭遇戰ノ冒頭ニ、空中搜索ヲ缺ク場合ニ於ケル敵情ハ敵ト接觸スルニ依リ初メテ稍々明カナルヲ得トセルハ、蓋シ實戰真相ノ一面ヲ語レルモノト謂フヘシ、而モ十分ナル敵情ハ單ニ敵ト接觸スルノミナラス、一部ノ交戰ヲ見タル後初メテ分明スルコト少カラサルナリ。

其二 連絡ノ困難

情況ノ不明確ニ加ヘテ連絡ノ不十分ナルハ亦遭遇戰ノ一常態ナリ、蓋シ軍隊ノ疲勞ハ暫ク措クモ行動及戰鬪經過ノ迅速ナル進展ニ基キ、通常連絡ニ關スル諸施設ヲ整備スルノ餘裕ニ乏シキヲ以テナリ、十四年西方戰場ノ遭遇戰ニ於テ獨軍司令部間ノ連絡ハ主トシテ自動車ニ搭乘セル參謀將校ニ依テ行ハレ、電話連絡ハ多クハ開通シアラサル状態ニ在リ、然レトモ斯ノ如キ状態ニ於テハ上級司令部ニ於ケル情況ノ理解自ラ不十分ナリ、屢々情況判斷ノ正鵠ヲ失シ、適時的確ナル指揮ノ如キハ殆ト之ヲ望ムヲ得ス。

一九一四年八月「サン・カンタン」會戰ノ當日獨第二軍司令部ト第十、近衛兩軍團司令部間竝兩軍團司令部ト隸下師團司令部間ノ連絡上ノ不備カ軍司令官ノ情況判斷ヲ誤ラシメ、累々其統帥ニ及ホセシコト第二款戰例第三ニ述フル所ノ如シ。

斯ノ如キ連絡上ノ不備ノ裏面ニハ獨軍通信部隊ノ編制、用法上ニ缺陷アリシヲ

否ム能ハス、即チ敍上ノ景況ヲ以テ直ニ遭遇戰自然ノ現象ナリトハ認ムルヲ得サルモ、遭遇戰ノ情況ニ於テ諸連絡カ一般ニ困難トナルハ爭フヘカラサル事實ナリ。

尙、戰鬪圈内ニ於ケル命令、報告等ノ傳達力著シク困難トナレルハ、「マルヌ」會戰ノ諸戰鬪ニ於テ獨軍カ親シク經驗セシ所ニシテ、近時火器威力ノ増大ニ伴フ當然ノ現象ナリ。

其三 先制ノ利

遭遇戰ハ兩軍運動ノ態勢ヨリ發生スルト一方軍ノ停止狀態ヨリ發生スルトヲ間ハス、双方共ニ一般ニ不十分ナル戰鬪準備ノ態勢ヨリ攻撃展開ニ發展スルモノナルカ故ニ、敵ニ先ンシテ優越ナル戰鬪準備ヲ整ヘ先制ノ利ヲ占ムルコトニ重要ノ價值ヲ有ス。

兩軍戰鬪準備ノ程度ハ多クハ敵情知得ノ程度、遭遇前ノ一般態勢等ヨリ既ニ遭遇ノ當初ニ於テ若干ノ差異ヲ有シ、爾後兩軍指揮官ノ決心、部署、軍隊ノ行動等ニ依リ更ニ優劣ノ狀態ニ變化ヲ生スルモノトス、而シテ戰役ノ經驗ニ依レハ近時ニ於ケル火器威力ノ増大ハ戰鬪ヲ秩序的ニ遂行スルノ意義ヲ増大シ、徒ニ運動ノ迅速ヲ期セル猛烈果敢ナル突進主義ノミヲ以テシテハ先制ノ利ヲ獲得シ得サルヲ示セリ、即チ遭遇戰ニ於ケル先制獲得モ畢竟敵ニ先ンシテ火力組織ノ優越ヲ期スルノ意義ヲ多分ニ含有セシメサルヘカラサルヲ知ル。

然レトモ他面火力組織ノ完備ノミニ腐心センカ、勢ヒ歩兵ノ攻撃前進開始ノ時機ヲ遅延シ、且事實ニ於テ彼我ノ戰鬪準備ノ程度ハ適時適切ニ比較考量シ難キヲ以テ、刻々變化スル情況ニ對シ戰機ヲ逸シ却テ先制ヲ敵手ニ委スルノ弊ヲ招クニ至ルヘシ。

是ニ於テカ指揮官ハ全般ノ情況ヲ判斷シ、攻撃準備ノ程度ト攻撃遂行ノ神速トヲ如何ニ調和セシムヘキヤヲ洞察シ、明確ナル方針ノ下ニ戰鬪ヲ指導スルノ著意ヲ必要トス、是即チ遭遇戰指導ノ難事ト稱セララルル所以ナリ。

就中、戰鬪ノ初動ニ方リ敵ノ戰鬪準備既ニ我ニ優レルモノアリト判斷セララルル

場合ニ於テハ、持ニ明確ナル方針ヲ確立シ統一アル戰鬪ヲ指導シ戰勢ノ優越ヲ挽回増進スルノ考慮ヲ要ス、然ルニ戰例ノ實情ニ鑑ミルニ、此ノ如キ際多クノ指揮官ハ戰鬪ノ突發的惹起ト情況ノ不明トニ依リ倉皇其度ヲ失スルカ、然ラスンハ猪突猛進ヲ以テ局面ノ打開ヲ圖ラントシ、戰鬪ハ遂ニ秩序ト統一トヲ缺キ戰況ノ推移ニ追隨シ、前衛又ハ敵ニ近接セル部隊ハ自然ニ戰鬪ノ渦中ニ投シ、後方ノ部隊ハ逐次且彌縫的ニ戰線ニ注入セラレ、終始優勢ナル兵力ト對戦スルカ、或ハ敵ノ包圍ニ陥ルカ如キ失態ヲ演セルコト其例ニ乏シカラサルナリ。

其四 各個戰發生ノ傾向

陣地ニ對スル攻撃戰ニ比較シ、遭遇戰ノ顯著ナル特性ノ一ハ時トシテ高級指揮官自ラ戰鬪ノ開始ヲ律シ得サルノ點ニ在リ、遭遇戰ト雖モ爲シ得レハ統一指揮ノ下ニ遂行セラルルヲ可トスルコト言フ俟タサル所ナルモ、接觸及戰鬪開始ニ方ツテハ屢々下級單位ハ上級指揮官ノ命ヲ受クルノ暇無ク、獨斷ヲ以テ處斷セサルヘカラサル場合ヲ生ス、此傾向ハ兵團ノ大トナルニ從ヒ益々顯著ニシテ、軍

ノ如キ大兵團ノ戰鬪ハ通常各兵團長ノ獨斷ヲ以テ開始スルニ至ルモノトス、而モ戰鬪發生當時ニ於ケル彼我一般ノ態勢ハ豫メ軍司令官ノ期待セシ所ト趣ヲ異ニスルモノアルヲ以テ、各兵團長ノ部署ハ必スシモ直接軍司令官ノ企圖ニ應スルヲ得ス、斯クシテ會戰ハ軍司令官ノ意外ニ發展シ、全般ノ統一ヲ失セル個々ノ戰鬪各方面ニ於テ惹起セラルルコト少カラス。

其五 交戰時間

近時火器效力ノ増大ニ伴ヒ一般ニ正面戰鬪鞏強ノ勢ヲ致シタリト雖モ、翼ニ溢出シ側背ニ迫ラントスル努力アリ、又拙劣ナル戰術的動作ニ起因スル火力損害大ナルモノアリテ、一方軍ノ戰意喪失ヲ促シ、從テ戰鬪ノ開始ヨリ勝敗ノ決ヲ見ル迄ニ要セシ時間ハ區々ナリ。

開戦ノ當初兩軍共ニ精銳ナル軍隊ヲ持シ、比較的蔭蔽セル地形ニ於テ勇往邁進セシ時期(國境戰)ニ於テハ、四、五軍團ヨリ成ル大ナル軍ノ遭遇戰ニ於テモ、多クハ主力交戦ノ第一日ニ所々敵線ヲ擊退シ、同日夜乃至第二日夜ヲ以テ敵ノ戰

意ヲ打破スルヲ得、又、二、三師團以下ノ遭遇戰ニ在リテハ多クハ一日ヲ以テ戰鬪ノ決ヲ見タリ、然レトモ兵團ノ損傷疲勞加ハリ攻撃精神ノ活躍減スルカ、一方軍守勢的態度ヲ持シテ對者容易ニ其火力ヲ壓倒シ得サルカ、或ハ包圍ノ效果ヲ收メ得サルカ如キ場合ニハ交戰時間一般ニ延長シ、時トシテ勝敗ヲ決シ得サリシコト無キニアラス、「マルヌ」戰、「エーヌ」戰中ノ遭遇戰ニ於テ此ノ如キ現象ヲ認メ得ヘシ。

附表第一ハ遭遇戰ノ交戰時間ニ關スル若干ノ統計ナリトス。

其六 損害

一般ニ運動戰ニ於ケル損害ハ陣地戰ニ於ケル損害ニ比シ小ナルヲ常態トスルモ、遭遇戰ト雖モ兩軍共ニ旺盛ナル志氣ヲ持シ猛烈ニ勝敗ヲ爭ヒシ場合ニハ、其死傷數敢テ陣地戰ニ讓ラス、特ニ指揮及戰鬪動作上ニ缺陷アル場合ニ於テ然リトス、附表第二ハ遭遇戰ノ死傷數ニ關スル一部ノ統計ニ過キサレモ、(損害ノ大ナルモノヲ比較的多少掲ケタリ)近代戰ニ於ケル趨勢ノ一斑ヲ窺知スルニ足ルヘシ。

第四 遭遇戰ノ指導

其一 軍ニ就テ

遭遇戰ニ於テハ軍司令官カ直接戰鬪ノ開始ヲ命シ、或ハ交戰當日適時戰鬪ノ部署ヲ爲サントスルモ實施困難ナルコト多シ、而モ戰鬪ハ此間前線ニ於テ進行シ師團ノ戰鬪ハ既ニ其第一日中ニ大勢ヲ決シタル場合尠カラス。(遭遇戰ノ交戰時間參照)

故ニ歐洲戰ノ經驗ニ從ヘハ敵ト遭遇ヲ豫期スル場合ニ於テハ、軍司令官ノ如キ高級指揮官ハ豫メ能ク會戰ヲ準備シ、假令適時軍ノ命令無クモ隨時隨所ノ戰鬪ニ於テ各兵團各々主動ノ地位ヲ占メ、相協同シテ軍ノ攻勢威力ヲ最有利ニ發揚セシムル如ク前進ヲ部署スルヲ有利トスルコト多シ、而シテ機動前進間ニ於テ如何ナル時機ヲ以テ戰鬪部署ニ轉移スヘキヤハ、實際問題トシテ其判定容易ナラス、情況ノ不明(時トシテ任務ノ多端)ハ動モスレハ之カ準備ノ徹底ヲ缺キ、

屢、過度ニ保留的態度ヲ保持シタル儘會戰ニ入ルニ至ル。(例へハ兵力ノ集結不十分ナル或ハ重點成形ノ不徹底ナルカ如キ)
奈翁ノ所謂「到ル處戰鬪ヲ開始シ然ル後觀察ス」ナル原則ニ依リ情況ノ闡明ヲ待ツテ決セントスルカ如キ考案ハ、近世軍ノ如キ廣大ナル正面ニ於テ交戦スルモノニ對シテハ、之ヲ適用シ難キコト多ク、情況ノ不明ハ遭遇戰ノ常態ニシテ、其戰鬪ハ多ク前線ヨリ發動シ而モ決戦ノ進行必スシモ常ニ緩徐ナラサルニ想到セハ大部隊ニ在リテハ機ニ遅ルルコト無ク我企圖スル決戦方面ヲ定メ、豫メ之ニ十分ノ兵力ヲ集中シ、衝突ノ初動ヨリ敵ニ必勝ノ壓力ヲ加フルノ著意ヲ必要トスヘシ。

歐洲戰ノ遭遇戰ハ多クハ軍ノ戰鬪部署完成セサルニ早クモ衝突ヲ惹起セリ、斯ノ如キ場合ニ於テ戰況ハ戰場ノ局部ニ於テ急迫ノ觀ヲ呈スルコト多キヲ以テ、軍司令官ニシテ之ニ刺激セラレ、未タ全局ノ形勢ヲ洞察シ得サルニ輕卒ナル部署ノ變更ヲ敢テシ、爲ニ大局ノ指導ヲ誤リシコトアリ。(第二款戰例第二、第三參

照)是等ノ弊ハ軍司令官戰鬪開始ニ方リ猥リニ某方面第一線ニ近ク占位スル時ニ發生シ易シ。

近時正面戰鬪ハ靱強ニシテ恰モ鋼鋌ニ壓力ヲ加フルノ感アリ、蓋シ鋼鋌ハ壓力ニ依リ後屈スルコトアルモ容易ニ破斷スルコト無シ、是ニ於テ側面ノ意義ハ一層增大セリ、試ニ遭遇戰ニ於ケル勝利ノ動機ヲ通觀セハ、兵團ノ大小ヲ問ハス、局部的若ハ全般的ニ包圍セル成果ニ因ル所大ナルヲ識得シ得ヘシ、殊ニ敵ニ對スル潰滅的打撃ハ眞ニ敵ノ側背深く進入スル徹底的包圍ヲ敢行スルニ依ツテ初メテ其成果ヲ期シ得ヘシ、(「ゲンピンネン」附近遭遇戰ニ於ケル露軍北翼ノ崩壞―第二款戰例第一竝「ロツツ」附近會戰ニ於ケル露西伯利狙擊第六師團ノ潰滅―第二款戰例第九)實ニ戰例ノ示ス所ニ依レハ大兵團ノ不期戰ト雖モ尙且戰捷ハ努メテ翼側ノ包圍ニ之ヲ求ムルヲ可トス。
故ニ遭遇戰ノ終始ヲ通シ、指揮官ハ如何ニシテ包圍ヲ企圖シ、之ヲ成就スヘキヤヲ考慮スルヲ要ス。

包圍ノ爲、相隔離セル地方ヨリ敵ノ正面及側面(側背)ニ向ツテ夫々兵團ヲ分進セシムル場合ニ於テハ、是等兵團ヲシテ戰場到着ノ時期及場所ノ關係宜シキヲ得、行動上ニ調和アラシムルコトヲ以テ特ニ緊要ナリトス、而シテ是等ノ部署ヲ適當ナラシムルハ實ニ軍司令官及其以上ノ兵團指揮官ノ任ニ屬ス。敵ノ正面及側面ニ向フ包圍運動カ戰略態勢ニ於テ準備セラレアラサル場合ニ於テハ、軍ノ重點ヲ敵ノ翼側ニ指向センカ爲、機ヲ失セス兵團ノ機動ヲ必要トスヘク、(戰例第一ノ觀察參照)時宜ニ依リ豫メ一翼ヲ梯進シ以テ衝突ノ初動ヨリ包圍ノ態勢ヲ形成セシムルヲ可トスルコトアリ。(戰例第五ノ觀察參照)敵ヲ捕捉シ包圍ノ目的ヲ獲得センカ爲ニハ、敵ト交戦後ニ於テモ機ヲ見テ兵團ノ斜方若ハ側方移動ヲ行ヒ、以テ益々深ク敵ノ側背若ハ退路ニ迫進スルノ著意ヲ必要トス。

一般ニ敵ノ側面(側背)ニ向フ運動ハ企圖ヲ秘匿シ爾後ノ攻撃ヲ急襲的ニ開始センカ爲屢々夜間ニ於テ之ヲ遂行スルヲ有利トスルコトアリ。(「グンピンネン」)

會戰ニ於ケル獨第二師團ノ夜間機動—戰例第一—

其二 師團ニ就テ

一、戰鬪ノ爲ノ前進

現時火器ノ精銳化ニ伴ヒ、組織的火力ノ準備ヲ整ヘタル敵ニ對スル不用意ナル猪突前進ハ、其急襲的集中火力ニ依リ壓倒セラレ、重大ナル損害ヲ蒙ルノ危険性ヲ有ス、此種實例ハ最近戰史上ニ散見スル所ニシテ、「サン・カンタン」附近ノ會戰ニ於ケル獨第十軍團ノ「オアーズ」渡河ノ如キ此例ニ洩レス、故ニ敵ノ主力若ハ有力ナル部隊カ近ク存在スヘキ印象ヲ得タル場合ニハ、適時戰鬪ヲ準備シツツ敵ニ近迫スルノ用意ヲ必要トスヘシ。然レトモ情況眞ニ之ヲ切要トセサルニ、過早ニ此種ノ部署ヲ取り、絶エス戰鬪準備ノ態勢ニ在ツテ敵ト會センコトヲ期センカ(地區躍進)前進ノ速度自ラ緩慢トナリ、機動性ヲ減シ、機會捕捉ノ妙機ヲ逸スルノミナラス、僅少ノ敵ノ爲無用ノ展開ヲ反復スルノ弊アルニ注意スルヲ要ス。

一、接觸

敵ト接觸シ若ハ之ト一部ノ交戦ヲ見ルニ方リ、爾後發生スヘキ戰鬪カ果シテ遭遇戦ナルヤ、又遭遇戦ナリトセハ敵軍戰鬪準備進捗ノ度如何ナルヘキヤ等ヲ、的確ニ判斷スルハ實際問題トシテ決シテ容易ナルモノニアラス、蓋シ地上搜索ノ成果ハ平時演習ニ比シ一層不十分ナルヲ免ルル能ハスシテ、判斷ノ爲十分ナル資料ヲ齎サス、而モ實戰場裡ノ敵ハ凡ユル手段ヲ盡シテ行動ノ遮蔽ニ努ムルカ故ニ、戰場ハ時々砲彈ノ炸裂スルヲ除ケハ、屢々空漠ノ觀ヲ呈スルヲ以テナリ、而モ此時ニ於テ情況判斷ノ正鵠ヲ得、處置ノ迅速適切ナルコトハ極メテ緊要ナルカ故ニ、高級指揮官カ機ヲ失セス十分前方ニ進出シアリテ、其經驗ト眼識トニ依リ當面ノ情況、地形ヲ判斷スルコトハ特別ノ價值ヲ有ス、此際敵情ニ關シテ多クノ情報ヲ蒐メタル後初メテ處置セントスルカ如キハ、徒ニ敵ニ戰鬪準備ヲ整フルノ餘裕ヲ與ヘ、或ハ前衛等ヲシテ此間意圖外ノ行動ニ移ラシメ延イテ之ヲ窮地ニ陥ラシムル等、多クノ場合失敗ニ終ルモノトス、故ニ當面ノ敵ニ

關スル若干ノ情況ヲ得ハ他ハ全般ノ形勢ト地形トニ稽ヘ斷乎トシテ神速ニ處置スルヲ要ス。

既述ノ如ク單ナル斥候等ノ地上搜索ハ敵ノ遮蔽幕若ハ警戒幕ニ妨ケラレ、背後ノ情況ニ及ハサルコト多キヲ以テ、戰鬪ノ爲ノ前進、接觸ノ機ヲ通シ、小部隊ノ攻撃動作ニ依リ（砲兵ノ一部ヲ參加セシムルヲ有利トスルコトアリ）搜索目的ヲ達成スルノ著意ヲ必要トスル場合アリ。

三、攻撃ト秩序

獨佛兩軍ハ大戰初頭ノ遭遇戦ニ於テ奮進的氣勢ヲ以テ迅速猛烈ニ戰鬪ヲ遂行セシカ、此際前衛等ノ猪突攻撃ニ次テ主力ノ逐次加入ト爲リ、砲兵ハ敵火ノ中ヲ不統一ニ進出シ、各部隊ノ團結混亂シ、歩砲ノ協同破壊シ、其結果ハ縦ヒ辛ウシテ勝利ヲ獲タル場合ニ於テモ、尙且甚大ナル損害ヲ招ケリ、而シテ統一展開ノ場合ニ於テモ不秩序ニシテ躁急ナル攻撃ハ之ト類似ノ現象ヲ呈ス、殊ニ敵ノ戰鬪準備ニシテ多少優越シアル場合ニ於テ然リトス。

抑、奮進的氣勢ヲ以テ迅速果敢ナル攻撃運動ヲ行ハントスル思想ハ其意氣固ヨリ可ナリト雖モ、近代戰鬪ニ於ケル火力組織ノ威力ト之カ秩序アル運用トヲ輕視シ、徒ラニ躁急果敢ナル前進ノミヲ以テ攻撃ノ成果ヲ獲得シ得ヘシトナスモノアラハ、是最近戰役ノ經驗ニ相反スルモノナリト謂ヒ得ヘシ。

敵軍我ニ先ンシテ戰鬪準備ヲ爲セル場合ニ於テ、最モ顯著ナル徵候ハ戰場空漠ナルモ敵砲兵カ活躍シテ接敵、接觸ノ時機ヨリ攻者ヲ惱スコトニ在リ、斯ノ如キ場合ニ在リテハ當初敵歩兵ノ位置ヲ確認スルヲ得ス、敵ニ近接シテ初メテ不明ノ箇所ヨリ敵ノ機關銃火ヲ受クルノ現象ヲ生スルコト屢ナリ、國境會戰後獨軍ハ佛軍ヲ追撃シ、九月六日第二軍ハ「ブチー・モラン」河畔、第一軍左翼ハ「格蘭・モラン」河畔ニ於テ佛軍ノ攻勢移轉ニ遭遇セシカ、佛軍ハ概シテ戰鬪準備ニ於テ優越シ、而モ獨軍ハ所々追撃戰ニ類スル戰鬪ヲ以テ攻撃セシヲ以テ大ナル損害ヲ受クルニ至レリ、當時佛軍歩兵ノ攻撃力十分ナラサリシヲ以テ、佛軍側ニ於テモ斷然タル成果ニ達セサリシカ、其砲兵ハ遮蔽セル位置ヲ占メ、良好

ナル觀測所（時トシテ寺院ノ高塔ヲ利用セシコトアリ）ト十分ナル連絡トニ依リ猛烈ナル威力ヲ發揮シ、殆ト到ル處獨軍歩兵ノ活躍ヲ制壓セリ、是ヲ以テ獨軍歩兵ハ自軍砲兵ノ無力ヲ感シ、遂ニ時々小部隊ヲ以テ直接敵砲兵ヲ急襲センコトヲサヘ企圖セシカ、後ニ至リ當面佛軍カ尙戦力ヲ有シ諸多ノ準備ヲ盡シテ攻勢ニ轉セルノ事實ヲ知ルニ及ヒ、追撃戰ニ類スル戰鬪ヲ以テ攻撃セルノ非ヲ悟ルニ至レリ。

四、攻撃部署ニ就テ

歐洲戰ノ經驗ニ從ヘハ遭遇戰ニ於テハ動モスレハ我第一線敵線ニ達スル以前ニ於テ攻撃ノ一般秩序ヲ著シク混亂スルノ現象ヲ呈セリ、蓋シ近時ノ砲兵火及機關銃火ハ之ヲ制壓スル手段ノ講セラレサル限り猛烈ナル威力ヲ發揚シ、攻撃部隊ヲシテ時トシテ本能的ニ其掃射地域ヲ避ケテ他ニ轉セシメ、又一局部ニ起レル戰鬪熱鬧ノ響キハ戰場ノ空漠、情況ノ不明裡中ニ行動中ノ攻撃部隊ヲ牽制シ、之ヲシテ不知不識ノ間ニ本來ノ前進方向ヲ轉セシムル等意外ノ波瀾ヲ生

シ、延イテ攻撃勢力ヲ散逸スルト共ニ、他面敵火ノ状態、地形ノ關係等ハ各方面毎ニ攻撃進捗ノ度ヲ著シク區々ナラシメ、既述ノ原因ト相俟ツテ戦線ノ錯綜ヲ來スコト少カラサレハナリ。

尙遭遇戦ニ於テハ指揮官ハ屢々情況ノ切迫ヲ感スルカ故ニ、部隊ノ逐次戦闘如入トナリ、前衛ノ廣正面占領、下級指揮官ノ獨斷ト相俟ツテ建制ノ破壊、指揮系統ノ紊亂ヲ生セントスル傾向アリ、斯ノ結果ハ到ル處ニ團隊ノ固有能力ヲ失墜セシメ全般ノ成果ニ不利ナル影響ヲ與フルモノトス。

紋上ノ如キヲ以テ攻撃ニ秩序アラシメントセハ、遭遇戦ニ於テモ攻撃部署ニ於テ攻撃前進方向(攻撃目標)、攻撃前進開始ノ時機ヲ規正シ、戦闘地境ヲ確定スル外努メテ建制ノ保持ニ注意スルコト必要ナリトス。

五、戦闘搜索及連絡

敵軍ノ企圖及實狀ハ戦闘ニ依リ初メテ闡明スルコト少カラサルカ故ニ、各級指揮官ハ戦闘間ト雖モ、凡ユル手段ヲ盡シテ不斷ノ搜索ヲ續行シ、且連絡ノ施設

ヲ講シ、機ヲ失セス其成果ヲ上級指揮官ニ齎ササルヘカラス。搜索及連絡上ノ缺陷カ累ヲ上級ノ指揮ニ及ホセル事例ニ乏シカラス。

六、砲兵ノ用法

東西戰場ニ於ケル國境會戰ヨリ「マルヌ」會戰ニ至ル諸戦闘ニ於テ、獨軍ノ攻撃ハ砲兵ノ協力不十分ナル爲、歩兵ヲシテ獨リ攻撃ノ重荷ヲ負ハシメ、其犠牲ヲ大ナラシタリ、此結果ハ軍隊ノ志氣ニモ感響ヲ與ヘ、爾後ノ活躍力ヲ害セシコト一、二例ニシテ止マラス。(サン・カンタン)會戰後ニ於ケル獨第二軍左方兵團ノ追撃ノ遲緩―第二款戰例第三竝「グンペンネン」會戰後「グロース・ベッサウ」附近ニ於ケル獨第十七軍團ノ攻撃―第二款戰例第五) 攻撃ニ於テ獨軍砲兵ノ協力不十分ナリシ原因ヲ考フルニ概ネ左ノ如シ

- 1 砲兵ノ戦闘準備ノ状態ヲ顧慮セス第一線ノ攻撃前進ヲ見タルコト
- 2 砲兵ヨリ歩兵ニ對スル連絡不十分ナリシコト
- 3 砲兵遠隔觀測ニ熟シアラサリシコト

4 砲兵ノ戰鬪加入不用意ナリシコト

5 時トシテ敵砲兵ノ制壓不十分ナリシコト

左ニ4、5ニ就テ若干ノ説明ヲ加ヘントス。

獨軍砲兵ノ戰鬪加入ハ勇敢ニ實行セラレシモ概シテ不用意ニ行ハレ、觀測、連絡殊ニ地形、敵火ノ狀態等ヲ深ク考慮セサリシ過失ヲ認メサルヲ得ス、陣地進入後初メテ陣地ノ目的ニ適セサルヲ發見セシ如キ、或ハ陣地ノ選定及進入ニ方リ遮蔽ノ念慮ニ乏シク、爲ニ進入中若ハ陣地占領後短時間ニ於テ既ニ戰鬪力ヲ失セルカ如キ即チ是ナリ。第一線歩兵部隊ニ配屬セラレタル砲兵ノ動作ニ於テモ、動モスレハ敵火ヲ無視シ、損害ノ爲却ツテ友軍ニ對スル支援ニ任シ得サリシ傾向無キニアラス。

要スルニ獨軍砲兵ハ單純ナル拙速主義勇往邁進主義ニ禍セラレ、到ル處ニ其戰鬪力ヲ發揮シ得スシテ一般ノ戰鬪ニ不利ノ影響ヲ與ヘタル事例ヲ遺セリ、此傾向ハ大戰初期ニ於テ特ニ顯著ナリトス。

而シテ國境會戰以後殊ニ「マルヌ」戰ニ於テ獨軍歩兵カ佛軍砲兵ノ有效ナル火力ニ惱サレ、前進力ヲ制セラレタル場合甚タ多キ事實ハ他面、遭遇戰ニ於テモ多クノ場合敵砲兵ノ制壓ヲ必要トスル理由ヲ語ルモノト謂フヘシ。故ニ當初ヨリ砲兵ヲ敵歩兵ニ對スル直接支援射撃ニノミ服セシメテ事足レリトスルハ一般ノ場合ニ通スルノ部署ニアラサルナリ。

第五 遭遇戰ト指揮官及軍隊

彼我情況ノ不明確、連絡ノ困難ニ加フルニ錯誤ノ發生アリ、情況ハ屢々豫期ニ違ヒ、戰況亦急調ヲ呈ス、故ニ指揮官ノ精神力ヲ要スルコト遭遇戰ニ於テ一層大ナリト謂フヘシ。平時有名ノ指揮官ニシテ絃上ノ困難ヲ制御スルヲ得ス、或ハ局部ノ現象ニ捉ハレ大局的殲滅意思ヲ失ヒ、或ハ尙戰勝ニ努力スヘキ情況ナルニ係ラス、過早ニ戰意ヲ喪失セル等統帥ノ適正ヲ失セルノ事例ニ乏シカラス。

又遭遇戰ニ於ケル斷然タル成果ハ軍隊ノ精銳ニ待ツ所大ナルモノアリ、一九一

四年開戰初頭ニ於ケル獨軍軍隊ハ各地ノ遭遇戰ニ於テ多大ノ損害ヲ顧ミス、能ク旺盛ナル攻撃精神ト敢行力トヲ發揮シ、殆ト到ル處ニ勝利ヲ獲、時トシテハ優勢ナル敵軍ヲモ擊攘スルニ成功セリ。勿論其戰法ニ於テ未タ近代戰ノ實相ニ適應セス、爲ニ無益ノ損害ヲ増大シタル傾向ナキニアラスト雖モ、此成果ヲ獲タルハ即チ平時練成ノ賜ナリト謂フヘシ。然レトモ素質低下セルカ或ハ既ニ精氣ヲ消耗セル軍隊ニ在テハ此種ノ活躍力ヲ示スコト無ク、能ク遭遇戰ノ諸困難ヲ凌駕シテ指揮官ノ期待スル如キ斷然タル成果ヲ獲得スルヲ得サリキ。

第六 遭遇戰ニ關スル平時訓練

從來平時ニ於ケル遭遇戰ノ研究訓練ニ關シテハ演習ハ勿論圖上戰術、兵棋等ニ於テモ戰況結構ノ骨子ハ多クノ場合概ネ彼我同等ノ兵力竝同様に條件ノ下ニ相對抗シテ前進スル情況ニ限定セラレ、研究ノ主眼ハ展開完了ノ時機ヲ以テ終了スルカ如キ觀ヲ呈セリ。是遭遇戰ノ特性ヲ理解スル基礎的演練トシテハ固ヨリ必要ナル處ナリト雖モ、

之ヲ以テ直ニ戰場ノ實相ニ即シタル實際的訓練ヲ盡シタリトハ認メ難シ。蓋シ遭遇戰ノ戰術指導カ指揮官ノ試金石ナリト稱道セラレアル所以ハ、適時所望ノ情況ヲ知り得タル場合單ニ行軍縱隊ヨリ直ニ展開スヘキ手順方法ヲ施スノ困難ナルニ存セスシテ、遭遇戰ノ特性即チ敵情竝友軍ノ情況不明ナルノミナラス、時トシテ突發的ノ戰術ヲ惹起シ、多クノ場合彼我ノ戰術準備ニハ多少ノ懸隔アリ、而モ刻々變化スル彼我ノ狀態等ニ處シテ適時斷乎タル決心ヲ爲シ、神速ナル處置ヲ決行スルノ容易ナラサルニ在リ。

是ニ於テカ平時訓練ニ於テモ前述ノ特性ヲ斟酌加味シ、實戰ノ真相ニ近似シタル霧圍氣ニ於テ各種ノ情況判斷ト之ニ基ク戰術指導トヲ演練スルヲ要ス。

然ラスンハ遭遇戰ノ指導ヲ以テ一種ノ模型ニ陷ラシメ、甚シキハ遭遇戰ノ特性ヲ以テ直ニ彼我中間ノ要點ニ向フマラソン競争ナリト速斷シ、或ハ猪突猛進ヲ以テ攻撃成功唯一ノ要素ナリト思惟スルカ如キ弊ヲ馴致シ、有事ニ方リ再ヒ諸戰例ニ示スカ如キ覆轍ニ際會スルコトナキヲ保シ難シ。

戰		遇		遭		遺
「ロツツ」會戰中「ブレ ジヌイ」南方地區ノ戰 關 一九一四年十一月二 十三、二十四日		「エーヌ」河畔會戰ニ於 ケル「シユマンデダム」 附近ノ戰關 一九一四年九月十三、 十四日		「マルヌ」會戰ニ於ケル 「モー」北方「ウルク」川 附近ノ戰關 一九一四年九月五日		一九一四年八月二十 九日
露	獨	佛 英	獨	佛	獨	佛 佛
(一師團)	西伯利狙擊第六 師團	英第一軍團 佛第十八軍團 (四師團)	豫備第七軍團 (二師團弱)	當初第六軍團ノ一 部(約二師團半) 爾後佛第六軍ノ 殘餘	豫備第四軍團 (二師團)	第三十九、同第五十 三師團(四師團)
敗	勝	交關無ル斷不獨 綏漸ク勝然利軍 ス次戰敗タ側	主トシ	却由シヲ勝獨 退自持勢軍	敗	敗
二日	二日	二日	半日	二日	二日	二日
減ニセ勢露 ス至ラ軍側 獨リレ殘獨ト 軍再ヒ兵軍シ 側亦獨軍ノテ 損軍第一爲不 害ニ日兩翼的 多シ包夜ヲ遭 シテ包圍ス セラレ後方ニ 支離減止セシ 裂ニ陷リ殆ト 潰	ニセ勢露 ス至ラ軍側 獨リレ殘獨ト 軍再ヒ兵軍シ 側亦獨軍ノテ 損軍第一爲不 害ニ日兩翼的 多シ包夜ヲ遭 シテ包圍ス セラレ後方ニ 支離減止セシ 裂ニ陷リ殆ト 潰	綏ニ保メナ ス及持リシ ヒ危ス其左 機ル翼ヲ以 去ヲ小テ占 リ爾後戰離 況第ニ日退 發左セル擊 展翼ニ大部 ヲ見第十五 ルコト軍ヲ 無ク來團戰 ク著著位ニ 關スル置置 交	「シユマンデダム」附近要地ノ爭奪戰ニシテ獨軍側先 ンシテ之ヲ占領セシモ戰關正面擴大シテ獨軍側優勢 ナリシヲ以テ其左翼ヲ擊破セラレ獨軍側防戰ニ努 メ其左翼ヲ得交戰後第二日左翼ニ於テ軍團戰著スル 保持スルヲ得爾後戰況發展ヲ見ルコト無ク來關交 綏ニ及ヒ危機去リ爾後戰況發展ヲ見ルコト無ク來關交	獨軍威力ヲ以テ佛軍ノ遮蔽幕ヲ突破シ其背後ノ情況 ヲ明ナラシメント欲シテ獨軍側ト遭遇ス獨軍側トシテ不 ナリシ佛第六軍團右方兵團ト遭遇ス獨軍側トシテ不 ナリシ佛第六軍團右方兵團ト遭遇ス獨軍側トシテ不 知佛軍ヲ遠ク追撃セシモ佛軍ノ他ノ兵力小距離退却ス 佛軍ヲ遠ク追撃セシモ佛軍ノ他ノ兵力小距離退却ス	東ニ於ケル獨軍ノ壓力ニ依リ戰意消耗シ「オアーズ」 東南岸ニ退却ス	方ニ、三軍附近ニ新正面ヲ形成スルヲ得增加兵團ヲ 方ニ、三軍附近ニ新正面ヲ形成スルヲ得增加兵團ヲ

一九一四年八月二十二、二十三、二十四日「ロッシニョル」及「ロンギイ」附近會戰	獨第十二師團	約一日	將校 七四 下士卒一、六〇〇	
獨第十一師團	約一日	將校 一一〇 下士卒三、〇〇〇		
獨豫備第六軍團	約一日	將校 一二三 下士卒四、〇〇〇		
獨豫備第十八軍團	約一日	將校以下戰死一、三〇〇 負傷三、〇〇〇以上		
佛植民地第五旅團	約一日	將校 六七 下士卒三、〇四二		
獨豫備第七軍團	約一日半	將校 一七五 下士卒四、二〇七		
獨豫備第十軍團	約二日	將校 一一〇 下士卒三、〇七〇		
露西伯利狙擊第六師團	主トシテ約二日	死傷將校六〇乃至五〇%、下士卒約五〇%、捕虜將校四四、下士卒三、五〇〇	殆ト潰滅ス	
一九一四年九月十三、十四日「シユマンデダム」附近戰團				
一九一四年八月二十二、三日「サンブル」河畔會戰				
一九一四年十一月二十三、二十四日「ロツズ」東方「ガルコフ」附近戰團				

軍ニ捕虜トナル

會澤善ハ...

附表第二

遭遇戰損害一覽表

會戰若ハ戰闘	兵團	損害ノ生 セル期間	損	害	摘要
一九一四年八月二十日東普「グンビンネン」附近會戰	獨第八軍(三軍團半)	約一日	死傷 將校 三九七 下士卒 七二六 失綜 將校 三 下士卒 六九五	右第八軍ノ全損害ノ少クモ五分ノ三	一部露軍ニ捕虜トナル
	獨第十七軍團	約一日			
	露第二十八師團	一日半	將校 一〇四 下士卒 六、九四五		有力ナル一部獨軍ニ捕虜トナル
	露第二十五師團	約一日	將校 三五 下士卒 三、一四九		
	露第二十七師團	約一日	將校 二一 下士卒 九五〇		
	露第四十師團	約一日	將校 三一 下士卒 二、〇二二		
	獨第十九師團	約二日	將校 五八 下士卒 一、九〇八		
	獨第二十師團	約二日	將校 三八 下士卒 一、三二五		
	獨近衛第一師團	約二日	將校 七四 下士卒 二、六五一		
	獨近衛第二師團	約二日	將校 一五 下士卒 三八五		
一九一四年八月二十六日「グロース・ベツサウ」附近會戰	獨豫備第六十九旅團	約半日	將校 一八 下士卒 約一、〇〇〇		
	獨後備第六旅團	約半日	將校 三八 下士卒 四七〇		
	露第六軍團	約一日	將校以下 五、三〇〇	一、七〇〇ハ獨軍ニ捕虜トナル	
	獨第十二師團	約一日	將校 七四 下士卒 一、六〇〇		
	獨第十一師團	約一日	將校 一一〇 下士卒 三、〇〇〇		
	獨豫備第六軍團	約一日	將校 一二三 下士卒 四、〇〇〇		
	獨豫備第十八軍團	約一日	將校以下戰死一、三〇〇 負傷 三、〇〇〇以上		
	佛植民地第五旅團	約一日	將校 六七 下士卒 三、〇四二		
	獨豫備第七軍團	約一日半	將校 一七五 下士卒 四、二〇七		
	獨豫備第十軍團	約二日	將校 一一〇 下士卒 三、〇七〇		
一九一四年八月二十二、二十三日「サンブル」河畔會戰	獨西伯利狙擊第六師團	約二日	死傷將校六〇乃至五〇%、下士卒約五〇%、捕虜將校四四、下士卒三、五〇〇	殆ト潰滅ス	
	一九一四年十一月二十二、二十四日「ロツズ」東方「ガルコフ」附近會戰	主トシテ約二日			
一九一四年九月十三、十四日「シユマンデダム」附近會戰	獨豫備第七軍團	約一日			
	佛植民地第五旅團	約一日			
	獨豫備第十八軍團	約一日			
	獨豫備第七軍團	約一日半			

將來進路上ニ豫期セサル敵ノ抵抗ヲ發生スルト共ニ作戰ノ各期ヲ通シ我側背ヲ急襲セラルルノ公算ヲ大ナラシムルヲ以テナリ。
將來不期戰豫防ノ爲警戒、搜索ノ處置ニ特別ナル工夫ヲ要ス。

二、機 動

歐洲戰ノ事例ヨリ推スニ夜間利用ノ傾向ハ兵力ノ大小ヲ問ハス將來一層顯著トナルヘシ、會戰前及會戰間ヲ通シ速ニ敵ノ弱點ニ乘シ先制ノ利ヲ占メントシ、或ハ祕カニ包繞運動ヲ行ヒ急襲的ニ敵ノ側背ヲ衝カントスルカ如キ場合ニ於テハ特ニ之カ利用ニ著意スルナラン。

晝間ノ行動ハ敵ノ空中活動盛ナルニ從ヒ其上空ヨリスル諸般ノ企圖ニ對シ之ヲ掩蔽シ且危害ヲ避クルノ用意ハ益々精到ナルヲ要ス、之カ爲前進地區乃至道路ノ選定、行軍縱隊ノ疎開等ニ關シ特別ナル考慮ヲ要ス。

三、先 制

火力效力ノ進歩ハ戰略單位以下ノ戰鬪ノ爲ノ前進及戰鬪ノ部署ニ於テ火力ノ關係ヲ輕視スルヲ許ササラシム、遭遇戰ニ於ケル先制獲得モ畢竟、敵ニ先ンシテ我火力組織ノ優越ヲ期スルノ意義ヲ多分ニ含有セシメサルヘカラス、早急ニ失シ秩序ヲ失ヘル突進主義ハ先制ノ利ヲ獲得スル所以ニアラス。
敵ノ遮蔽警戒幕ヲ突破シテ搜索ノ目的ヲ達スルハ上級指揮官ヲシテ機ニ投シテ其決心ヲ確立セシメ、先制獲得ノ端緒ヲ得シムル點ニ於テ其價值大ナリ、之カ爲一部ノ威力ヲ使用スルノ價值ヲ増大セリ。

四、機械化軍隊

現時發達ノ途ニアル列強ノ機械化軍隊ハ遭遇戰ノ情況ニ於テ特ニ有利ナル用途ヲ發見シ得ヘシ、即チ要スル場合ニ威力搜索ノ敢行、敵ニ先ンシテ要點ノ占領、展開ノ支撐、戰線ノ某所ニ發生セシ危機ノ救援、敵ノ側背ニ對スル攻撃ニ依ル決勝ノ促進、戰果擴張、側方ヨリ追撃ニ參與シテ敵軍退路ノ遮斷等是ナリ、尙一般軍隊ヲ以テスル包圍カ既ニ戰場ニ向フ前進ニ於テ準備セララルルヲ可トスルニ對シ、機械化軍隊ヲ以テスル包圍ハ其機動性ノ利用ニ依リ敵ト觸接後ノ期

間ニ於テ隨時敵ノ側背ニ向ツテ移動スルノ自由ヲ保有シ得ヘシ。
然レトモ機械化軍隊ハ現時尙地形ノ影響ヲ受クルヲ免レ難シ、對者トシテ輕砲ヲ以テ對抗スルノ外地形殊ニ天然障礙ノ利用ノ著意必要ナリ。

要スルニ將來ノ遭遇戰ハ既述歐洲戰初年ノ狀態ニ比シ多少面目ヲ異ニスヘキハ豫想スルニ難カラス、從ツテ之カ指導ニ當リ特ニ考慮ヲ要スル點尠カラスト雖モ、其根本原則ニ至ツテハ容易ニ變動スルコト無カルヘク、就中卓拔剛毅ナル指揮ト精練ニシテ攻撃精神充溢セル軍隊トハ相俟ツテ特ニ此種戰鬥ニ缺クヘカラサル最大ノ要素ナリ。

第二款
戰
例

第二款 戰例

第一 一九一四年 東普「グンビンネン」附近獨第八軍ノ遭遇戰

一、前言(附圖第一參照)

一九一四年八月上旬獨第八軍ハ東普國境ニ沿ウテ廣正面ニ集中シ、之ニ對シ露西北軍ハ其第一軍ヲ以テ概ネ「グロドノ」⁽¹⁾、「コヴノ」⁽²⁾間ノ地域ニ、其第二軍ヲ以テ「グロドノ」以西「ナレウ」⁽³⁾河畔ニ集中セリ。

八月中旬露西北正面軍ハ「マツール」⁽⁴⁾湖沼地帯ノ南北兩側ヨリ東普ニ侵入セントシ、獨第八軍ハ先ツ北方ヨリ侵襲スル露第一軍ヲ擊破センカ爲主力ヲ同湖沼地帯北側地域ニ集結シ、其近接スルヲ待ツテ攻勢ニ移轉セリ、斯クテ八月二十日⁽⁵⁾「グンビンネン」地方ニ於テ兩軍ノ遭遇ヲ見、所謂「グンビンネン」附近ノ會戰ヲ演セリ。

一、會戰ノ端緒(附圖第一乃至第三參照)

第一一九一四年八月東普「グンビンネン」附近獨第八軍ノ遭遇戰

一九一四年八月「フオン・ブリットウイッツ」大將ノ指揮スル獨第八軍(第一、第十七、第二十軍團、豫備第一軍團、豫備第三師團及騎兵第一師團ヲ主體トス)ハ獨東部諸州ヲ保全シ且墺匈軍ノ攻勢ヲ援助スヘキ任務ヲ有シ、平時計畫ニ基キ先ツ東普國境ニ沿ウテ廣ク第一次集中ヲ行ヒ、八月十日ヲ以テ概ネ其配置ヲ完了セリ。

八月十四日早朝獨第一軍團長ノ報告ニ依レハ「⁽¹⁾マルグラボワ」東方ノ有力ナル敵ハ二十五吉ノ正面ヲ以テ國境ヲ超エ前進シ來レリ、「⁽²⁾ウイシチニエツ」以北ニ於テ敵ヲ見ス「ト、獨第八軍司令官ハ茲ニ於テ露第一軍ノ前進開始、同第二軍ニ先ンスヘキヲ信シ、先ツ露第一軍ニ對シ攻勢ヲ取ルヘキ方針ヲ確立シ、軍ノ主力ヲ北境方面ニ集結スルニ決シ、大要左ノ部署ヲ爲セリ。

- 1 豫備第三師團及後備第六旅團(以上八月九日ノ部署ニ依リ既ニ「⁽³⁾レツツエン」地方ニ移動シアリ)ヲ依然「⁽⁴⁾レツツエン」地方ニ位置セシム。
- 2 豫備第一軍團ヲシテ差シ當リ「⁽⁴⁾アングラップ」川ノ線ヲ保持セシム。

3 第一軍團(騎兵第一師團ヲ屬ス)ヲシテ「⁽¹⁾グンビンネン」「⁽¹⁾インステルブルグ」附近ニ、新編成「⁽²⁾ケーニヒスベルグ」總豫備(微弱一師團)ヲシテ「⁽³⁾インステルブルグ」附近ニ位置セシメ、後備第二旅團ヲシテ北方「⁽³⁾メーメル」川ノ線ヲ保持セシム。

4 第十七軍團ヲ「⁽⁴⁾ドイツチアイラウ」附近ヨリ「⁽⁵⁾インステルブルグ」附近ニ輸送シ「⁽⁶⁾ダールケーメン」附近ニ集合セシム。

5 右第十七軍團ニ代フルニ「⁽⁶⁾ワイクゼル」諸要塞ヨリ約一師團ノ兵力ヲ抽出シ第二十軍團及後備第七十旅團ト共ニ南境ニ於テ軍ノ側面ヲ掩護セシム。

右ノ配備ハ當時獲タル敵情ニ依リ敵ノ前進カ「⁽⁷⁾ロミンテ」森林南方ニ向フヘシト判斷シ、豫備第三師團、後備第六旅團ヲシテ「⁽⁸⁾ニコライケン」「⁽⁸⁾レツツエン」ノ線ニ於テ敵ノ攻撃ニ對抗セシメ、此間軍主力ヲ以テ「⁽⁴⁾アングラップ」河畔ヨリ敵ノ右翼ニ向ヒ突出セントスル考案ニ基クモノナリ。

獨第八軍司令官ニ對シテ
露第一軍司令官ニ對シテ
樹方軍針ヲヘ
キ方取ルヘ
力ヲ取ルヘ
北境方面ニ
集結スル

- (1) Marggrabowa
- (2) Wyschtynjez
- (3) Lützen
- (4) Angerapp

- (1) Insterburg
- (2) Königsberg
- (3) Memel
- (4) Dtsh. Eylau
- (5) Darkehmen
- (6) Weichsel
- (7) Rominte
- (8) Nikolaiken

攻勢ノ考案

軍主力ノ北境方面集結ハ豫定ノ如ク進捗中ニ在リ。

十六日夕刻迄ニ到達セル諸情報ニ依レハ露第一軍ハ「スワルキイ」ヨリ「ウイ
ル」ニ互ル正面ニ在リテ四軍團ニ屬スル部隊ノ外騎兵五師團半ヲ有セリ、
越エテ十七日到達セル情報ニ從ヘハ敵軍ノ北翼ハ「シレーネン」迄延長シ獨第
一軍團ハ「スタルペーネン」附近ニ於テ意外ニモ既ニ敵ト交戦セリ、(是レ第一軍
團長カ獨斷ヲ以テ曩ニ祕カニ軍團主力ヲ國境附近ニ配置セシカ爲ニ生セルモ
ノトス)而シテ「ナレウ」正面ノ敵ニ關シテハ未タ何等前進ヲ報スルモノ無シ。
紋上ノ如クシテ敵ノ北翼ハ今ヤ「コヴ」ノ鐵道線以北ニ達シ其國境通過ハ十七
日即チ豫想ヨリ遅ルルコト三日ニシテ行ハレ、其前進ハ更ニ第一軍團專恣ノ行
動ニ依リテ遲滞セシメラレタリ、現在ノ情況ハ十四日ニ於ケル判斷トハ空間的
ニモ將又時間的ニモ大ニ相違スル所アリ、然レトモ軍司令官ハ是等情況ノ推移
ニ大ナル顧慮ヲ拂ハス、之ニ依リテ決心ニ影響ヲ及ホスコト無カリシモノノ如
シ。

- (1) Suwalki
- (2) Wirballen
- (3) Schlehnen
- (4) Stallupönen

敵ノ北翼
伸方ニ延

十八日軍主力ハ豫定ノ集結ヲ了シ第一軍團亦此日午前中ニ「グンピンネン」附
近ニ後退セリ、情報ニ依レハ當面ノ敵ハ附圖第二ノ如ク前線ヲ以テ「リツク」
「ゴルダーブ」⁽²⁾「グリューンホーフ」ノ線ニ達シ、「ナレウ」河畔ノ敵ハ已ニ「オスト
ロレンカ」⁽⁵⁾「ロンシャ」ノ線ヨリ前進ヲ開始セルモノノ如シ、内線軍タル獨第八
軍ノ戰機ハ切迫セリ、而モ軍司令官ハ荏苒トシテ尙處置スル所無シ。
此日第一軍團長ハ北方ヨリスル露軍ノ包圍ヲ顧慮シ軍團ノ右翼第一線タル歩
兵第二師團ヲ左翼後ニ移動セント欲シ、軍司令官亦之ニ同意シ、十八日夕「イン
ステルブルグ」南方ニ在リシ「ケーニヒスベルグ」要塞豫備隊ヲ第一軍團長ニ與
ヘ、以テ右翼ノ補填ヲ爲セリ。

十八日
タル敵

- (5) Lomsha
- (6) Mallwischken

- (1) Lyck
- (2) Goldap
- (3) Grünhof
- (4) Ostrolenka

十九日
タル敵

十九日第八軍主力ハ依然「アングラツプ」河畔ニ於テ敵ノ攻撃ヲ豫期シ工事ヲ
續行セリ、敵ハ第一軍團正面ニ於テ漸次近接シ步兵第一師團ノ北翼ニ對シ「マ
ルウイシケン」方面ヨリ包圍攻撃ヲ準備シツツアルモノノ如ク既ニ同方面兩軍
間ニ砲戦ヲ交フルニ至レリ。

第一軍團長ノ意見具申

第一軍團長ハ翌朝歩兵第二師團ヲ以テ「マルウイシケン」ヲ經テ「カッテナウ」方面ニ進出シ敵ノ北翼ヲ攻撃セント欲シ、情況及企圖ヲ具申シ軍ノ殘餘モ亦此機ニ於テ攻勢ニ移轉センコトヲ請ヒシモ、軍司令官ハ先ツ「ロミンテ」森林南方ヲ前進中ナル敵ノ情況ヲ明カナラシメントシテ決セス。

十九日夕軍司令官ノ情況判斷

此日夕刻迄ニ軍司令官ノ知得セル情況別紙附圖第二ノ如シ、軍司令官ノ情況判斷ニ依レハ「ゲンビンネン」附近ニハ爾餘ノ部隊ト分離シテ有力ナル敵ノ一兵團アリ、爾餘ノ兵團ハ遠ク「ロミンテ」森林南方ニ後退シアリ、故ニ先ツ「ゲンビンネン」附近ノ敵ヲ擊破シ次テ「ゴルダーブ」方向ノ敵ニ向フヲ可トス、而シテ後者ニ對シテハ當初右翼後ノ梯次配置ヲ以テ備フヘシト。

攻撃ノ決心及部署ノ大要

此ノ如クシテ軍司令官ハ攻撃ニ前進スヘク決セリ、該決心ハ第一軍團長ノ刺激與リテ力アリシモノナリ、攻撃部署ノ大要左ノ如シ。(附圖第三參照)

1 豫備第一軍團ヲシテ「ゴルダーブ」方面ノ敵ニ對シ軍ノ側面ヲ掩護セシム。

豫備第三師團ハ先ツ「クッテン」ニ向ヒ前進セシム。

2 第一軍團ヲシテ現陣地ノ左翼ヨリ攻勢ニ移轉セシム。

3 第十七軍團ヲシテ第一軍團ノ右側ヨリ「ゲンビンネン」方面ノ敵ノ左翼ヲ攻撃シ得ル如ク即時出發ニ縱隊トナリ「ワルテルケイメン」⁽¹⁾「ベルカレン」⁽¹⁾「ブリッケン」ノ線ニ向ヒ前進セシム。

露軍ノ情況
露第一軍ニアリテハ十九日既ニ軍ノ主力(第二十軍團及第三軍團)ヲ以テ獨第一軍團ノ陣地前ニ達シ、殘餘ヲ以テ「ゴルダーブ」附近ニ達シ、翌二十日休憩ヲ實施セントセシカ、偶々同日早朝ヨリ獨軍ノ攻撃ヲ受クルニ至レリ。

三、會戰(附圖第三參照)

第一軍團方面

第一軍團ノ歩兵第二師團ハ十九日夜其現在地(軍團左翼後)ニ終夜露營火ヲ點シテ師團ノ行動ヲ秘匿シ、暗黒ヲ冒シ「ツルキン」森林ヲ經テ十五吉餘ヲ夜行シ拂曉攻撃準備ノ位置ニ到達、午前四時三十分攻撃ニ前進セリ、此攻撃ハ敵ノ意

第一軍團ノ戰況
(1) Kutten
(2) Walterkehmen
(3) Perkallen
(4) Plicken

(5) Tzullkin

表ニ出テタルモノノ如ク有利ニ進展セリ、歩兵第一師團及「ケーニヒスベルグ」要塞總豫備ハ當初前日來ノ陣地⁽¹⁾「バックカルニシケン」ヨリ以南⁽²⁾「アウグストペーネン」西方ニ互ルニ在テ守勢ニ立チシカ、第二師團攻撃ノ進捗ニ伴ヒ之ニ連繫シ左翼ヨリ攻勢ニ轉セリ。

第一軍團長ハ歩兵第二師團ノ攻撃成功セルヲ見ルヤ、敵ハ退却中ナリトノ感ヲ抱キ、午前八時三十分南方ヲ前進中ナル第十七軍團ニ之ヲ通報シ、且該軍團ノ攻撃方向ヲ「スチルグベーン」ニ取ランコトヲ希望セリ。

- (1) Packallnischken (5) Kussen
- (2) Augstupönen
- (3) Stirgupönen
- (4) Kattenau

第一軍團長ハ當面ノ敵再ヒ「カッテナウ」附近ニ於テ抵抗スヘキコトヲ豫期シ、正午新ニ兩師團ニ攻撃目標ヲ配當シ且「ケーニヒスベルグ」總豫備ニ對シテモ攻撃前進ヲ命セリ、此間第一師團ニ於テハ友軍第二師團砲兵ノ誤射ニ起因シ一部ノ恐慌ヲ惹起セシカ、師團長以下ノ努力ニ依リ退走兵ヲ停止セシムルヲ得、午後二時三十分ニハ再ヒ攻撃前進ニ移ルコトヲ得タリ。

獨軍ノ前進ハ午後三時「グンビンネン」⁽⁵⁾「クッセン」街道上ニ達セシモ、部隊ノ

獨軍ノ勝利及戰闘中止

混淆、疲勞並戰闘ノ爲攻撃力減退セシヲ以テ、第一軍團長ハ當日ノ戰闘ヲ中止シ翌日更ニ攻撃ヲ再興スルニ決セリ、當時迄ニ鹵獲セルモノ砲十門、俘虜約六千ニシテ内四千強ハ歩兵第二師團ノ獲ル所ナリ。

騎兵師團ノ行動

騎兵第一師團ハ露軍右翼ノ退却ヲ知り、第二師團ノ左翼ニ近ク行動シテ追撃ニ協力スルコト無ク、「ビルカレン」方向ニ側方追撃ヲ行ヒ、次テ「シレニンケン」ニ向ヒ南轉シ退却中ノ露第二十八師團ノ縱隊ヲ襲ヒ其一部(一聯隊長以下歩兵約二中队)ヲ捕虜トシ他ヲ潰走セシメタリ、此間第一軍團方面ノ戰聲止ミ、之ニ對シ連絡ヲ圖リシモ其目的ヲ達セサリシヲ以テ「ビルカレン」附近ニ於テ休宿ニ就ケリ。

- (1) Schilleningken
- (2) Girnen

第十七軍團

第十七軍團方面ノ戰況

第十七軍團ハ夜半「ダールケーメン」附近ヲ發シニ縱隊トナリ東北進シ、天明前「ギルネン」⁽²⁾「ブリッケン」ノ線ニ達シ、拂曉頃東北方ニ攻撃前進ヲ開始セリ、攻撃前進ハ當初ノ數吉間ニ互リ順調ニ進捗シ且第一軍團ヨリ其前面ノ敵退却ス

第一一九一四年八月東普「グンビンネン」附近獨第八軍ノ遭遇戰

- (1) Schwentischke
- (2) Kleszowen

第十七軍團
退却

ルヲ報シ來リシヲ以テ、軍團長ハ當面ノ敵兵退却セリトノ印象ヲ得シカ、第一線⁽¹⁾「シュウエンチシユケ」川ヲ越ユルニ及ヒ、豫期ニ反シテ既ニ略々展開ヲ了シ一部工事ニ據レル敵ニ遭遇セリ、獨軍ノ諸隊ハ既ニ疲勞シ不十分ナル攻撃準備ノ下ニ早急ナル攻撃ヲ實施シ、且其戰鬪動作モ亦拙劣ナリシ爲、遮蔽シテ優越ナル火力組織ヲ整ヘル敵ノ爲甚大ナル損害ヲ以テ擊退セラレ、退却ハ第三十五師團及第三十六師團ノ左翼ニ互リ一般化シ、一部恐慌狀態ニ陥リシモ、當面ノ敵ハ何レノ方面ヨリモ追撃セサリシヲ以テ、軍團ハ夕刻「ロミンテ」河畔ニ停止スルヲ得タリ。

豫備第一軍團方面

豫備第一軍團方面
ノ情況

豫備第一軍團ハ第十七軍團ノ戰鬪ニ參加スルカ、或ハ「ゴルダープ」方面ノ敵兵北進スル場合ニ之ヲ抑留スヘキ企圖ヲ以テ「クレスツォーウエン」附近ヲ經テ東北進セシカ、軍命令ニ依リ停止シ、恰モ「ゴルダープ」方面ヨリ前進シ來レル敵ト不期戰ヲ演シ、夕刻迄ニ漸次敵ヲ壓迫スル情況ニ在リ。

豫備第三師團
露ニ
於テ
拂曉
ヨリ
攻撃
ヲ
企圖
ス

軍司令官ハ午後豫備第一軍團方面ノ戰況ヲ知り豫備第三師團ニ命シ「クレスツォーウエン」附近ニ戰鬪中ナル露軍ノ背後ニ向ハシメシモ該師團ハ此日敵ト衝突セサルニ日没ト爲リシヲ以テ、師團長ハ敵ノ側面ニ對スル攻撃ヲ準備シ、翌拂曉ヲ以テ奇襲的ニ攻撃ヲ開始センコトヲ企圖セリ。

二十日夕ニ於ケル軍司令官

軍司令官ハ午前中第一軍團ノ成功ト第十七軍團ノ急進ノ報ニ依リ戰捷ヲ確信シアリシカ、第一軍團攻撃ノ頓挫ヲ知り、次テ第十七軍團敗退ノ報ニ接スルヤ、急激ナル情況ノ變化ニ心理ノ平靜ヲ失シタルカ如ク、情況ヲ悲觀シ、北翼ニ於ケル騎兵第一師團カ朝來消息ヲ斷テルコトヨリ同方面ニ於ケル敵騎兵團ノ活動ヲ推測シ憂慮スル所アリ、夕刻軍司令部ニ到著セル第十七軍團連絡將校ノ悲痛ナル言容ヲ以テ爲シタル同軍團ノ報告ハ特ニ軍司令官ノ腦裡ニ刺激ヲ與ヘタルモノノ如シ、軍司令官ハ前途ノ勝利ヲ疑ヒツツアルノトキ、恰モ「ナレウ」正面ヨリ優勢ナル敵兵國境線附近ニ到達セルノ飛報アリ、茲ニ軍司令官ハ遂ニ戰鬪ヲ

二十日夕
軍司令官
ノ情況
ノ斷及
決心

中止シ「ワイクゼル」河左岸ニ退却スルニ決セリ、參謀副長「グリューネルト」少將、作戰主任參謀「ホフマン」中佐等攻撃繼續ヲ主張セシモ容レラレス、此日露軍司令部ニ於テモ幕僚舉ツテ軍ヲ潰滅ニ陷ラシメサル爲退却ヲ進言セシモ軍司令官「レンネンカンブ」大將ハ之ヲ容レサリシト云フ。

四、獨軍ノ損害及退却

諸兵團ハ軍命令ニ依リ二十日夜乃至二十一日朝戰場ヲ去リ「アングラップ」川西方地域ニ退却シ翌日更ニ背進ヲ繼續セリ。

露軍ハ二十日受ケタル震駭ト損失ノ爲二十一日天明後情況ノ一變セルヲ見テ寧ろ意外ノ感ニ打タレ、追撃ノ如キハ之ヲ考慮スルノ餘裕無カリキ、

獨露兩軍ノ損害

本會戰ニ於ケル獨軍ノ損害ハ甚大ニシテ

死	一、二五〇
傷	六、四一四計
失	六、九四三
綜	一四、六〇七

露軍ノ損害亦之ト大差ナシ。

五、本遭遇戰ニ關スル觀察

1 豫期戰及不期戰

本遭遇戰ハ獨軍司令官ニ取り豫期的ナリシモ露軍司令官ニ取り不期的ナリ、戰場ノ北翼及南翼ニ發生セル戰鬪ハ夫々露第二十八師團及獨豫備第一師團ニ取り純然タル不期戰ノ性質ヲ帶ヘリ。

2 主動攻勢ニ就テ

露第一軍カ漸次獨軍ニ近接スルニ當リ獨軍司令官ハ早期ニ攻撃ノ決心ヲ確立シ所要ノ部署ヲ爲シ以テ主動攻勢ノ利ヲ收メサルヘカラス。十七日軍司令官ハ露第一軍カ「スワルキイ」ヨリ「シレーネン」ニ互ル全正面ヨリ前進シ獨第一軍團カ「スタルベーネン」附近ニ於テ既ニ交戰ニ陥レルヲ知リシモ、第一軍團ヲシテ「ゲンピンネン」附近ニ後退セシメタル外何等處置スル所無ク、爾後敵情日ヲ追ウテ益々明瞭トナリ、此間第十七軍團ノ集結モ

亦既二十八日ヲ以テ完了セントスルニ係ラス、尙在再敵ノ來攻ヲ待チ、殊ニ十九日ニ於テモ尙「ロミンテ」森林南方ノ敵狀ノ判明ヲ待タントシテ攻勢移轉ニ關スル決心ヲ躊躇セリ。抑、此種戰鬪ニ於テ十二分ニ鮮明ナル敵情ヲ獲ンコトハ過望ニ屬ス、而シテ攻勢ニ決心スルコト遲キニ從ヒ受動ノ不利ヲ脱越シテ先制ノ利ヲ占ムルコト益々困難トナルハ明カナリ、軍司令官タルモノ宜シク大局ヲ明察シ適時戰鬪ヲ準備シ以テ主動攻撃ノ利ヲ收メサルヘカラス、當時ノ軍司令官ハ此點ニ於テ機眼ト決斷トヲ缺如セリトノ評ヲ免ルル能ハス。

3 兵力ノ集結並重點ノ形成

八月十四日ヲ以テ部署セラレタル「グンビンネン」及「アングラップ」河畔ニ於ケル獨軍ノ配備ハ露軍カ「ロミンテ」森林南方ヨリ前進シ來ルヘシトノ判斷ニ基キ、「グンビンネン」「インステルブルグ」間ノ地區ヨリ敵ノ北翼ヲ包圍セントスル企圖ノ下ニ成レルモノニシテ、情況ノ變化ニ際シテハ變更ヲ要ス

ルコト勿論ナリトス、然ルニ十七日闡明セル所ニ依レハ露軍ノ北翼ハ「グンビンネン」「インステルブルグ」道以北ニ延長シアルカ故ニ企圖セル獨軍ノ攻勢ハ正面攻撃トナルノ外ナク、戰鬪最モ有利ニ進展シタル場合ニ於テモ單ニ露第一軍ヲ擊退シ得ルニ過キス、實ニ「ニーメン」軍ヲ先ツ徹底的ニ擊破セサルヘカラサル第八軍ハ今ヤ最モ重大ナル問題ニ逢會セルモノナリ、サレハ此際時日ノ尙之ヲ許スヲ幸ヒ獨軍モ亦其左翼ヲ延長シ且之ヲ增強セサルヘカラス、湖沼間竝「アングルブルグ」河畔ノ兵力ハ根本的ニ之ヲ減少スルモノナリ、此ノ如クセハ現役「二軍團」ヲ「ゲーニヒスベルグ」「コヴノ」鐵道沿線及其北方ニ配置シ攻撃ヲ準備スルコト敢テ不可能ニ非サリシナリ、然レトモ軍司令官ハ此ノ如キ情況ノ推移ニ對シ大ナル顧慮ヲ拂ハサリシモノノ如ク十九日夕初メテ早急ニ戰鬪部署ニ移レリ、斯カルカ故ニ兵力ノ集結ハ聊カ機ヲ失シ（豫備第二師團ハ遂ニ戰鬪ニ參加セス）重點ノ形成モ亦徹底セサル憾ミヲ殘セリ。

4 軍豫備ニ就テ

遭遇戰ニ於テハ情況ノ變轉性比較的大ナルヲ以テ戰鬪ノ初期高級指揮官トシテ一部ノ豫備ヲ控置スルヲ有利トスルコト多シ、本情況ニ於テ守勢任務ノ兵團中ヨリ一旅團ヲ割イテ軍豫備タラシメ「ゲンビンネン」西方ニ控置セシナランニハ、之ニ依リ軍司令官トシテ戰鬪ノ進捗ニ影響ヲ與ヘ利スル所鮮少ニアラサリシナルヘシ。(例ヘハ北翼ニ於ケル勝利ヲ利用スルカ如キ)

5 軍騎兵ノ戰鬪參與ニ就テ

此日歩兵第二師團ノ戰鬪ヲ援助スヘカリシ騎兵師團長ハ歩兵第二師團前面ノ敵兵退却シツツアルヲ認め、「ピルカレン」ニ通スル大街道ヲ側方追撃ヲ行フニ決セリ、本決心カ果シテ至當ナリシヤ、或ハ近ク第二師團前面ノ敵ノ側背(「カ」テナウ「北側」)ニ突進シ戰場ニ於テ敵ヲ殲滅センコトヲ努ムヘキヤハ戰況有利ナル程度ノ判斷竝地形等ニ關スルコト大ナリト雖モ、小ナル部隊ヲ以テ過早ニ決戰場ヲ去り徒ニ遠大ナル追撃目標ヲ選フハ考慮ヲ要スル問題

ナリ、事實騎兵第一師團ニシテ直接歩兵第二師團ノ戰鬪ニ參與セハ此日ニ於テ「カ」テナウ「西方」ニ決戰ヲ招來シ得ヘキ望アリキ。

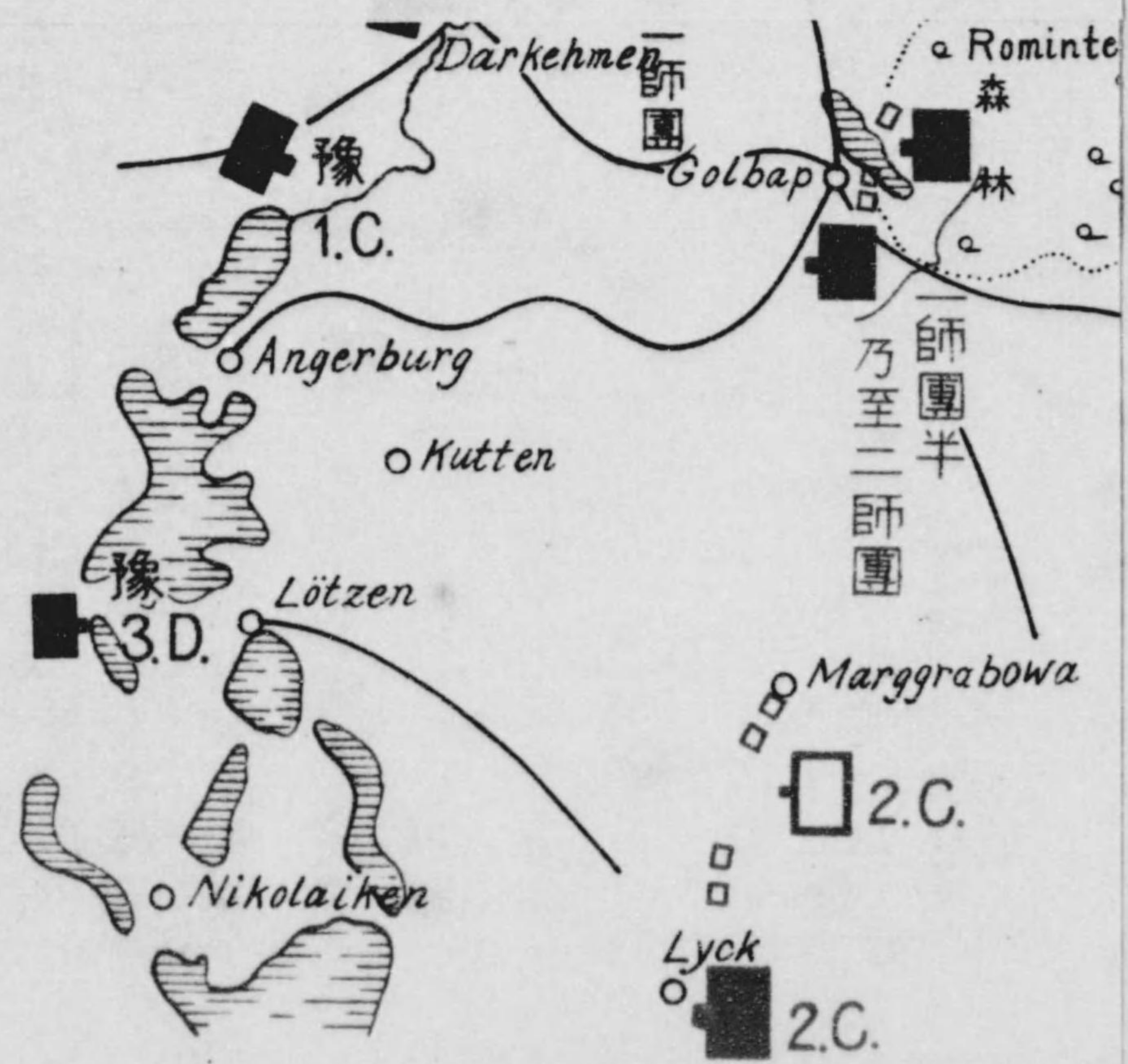
6 獨第一軍團ノ攻勢移轉ニ就テ

獨第一軍團左翼師團ノ攻勢移轉ハ夜暗ヲ利用シテ祕カニ兵力機動ヲ行ヒ、拂曉ト共ニ急襲的ニ深ク敵ノ側面ニ向ヒ攻撃ヲ遂行シタル點ニ於テ注目ノ價値アリ、同師團ノ攻勢移轉カ良成績ヲ收メタル故ナキニアラス。

7 軍司令官ノ退却決心ニ就テ

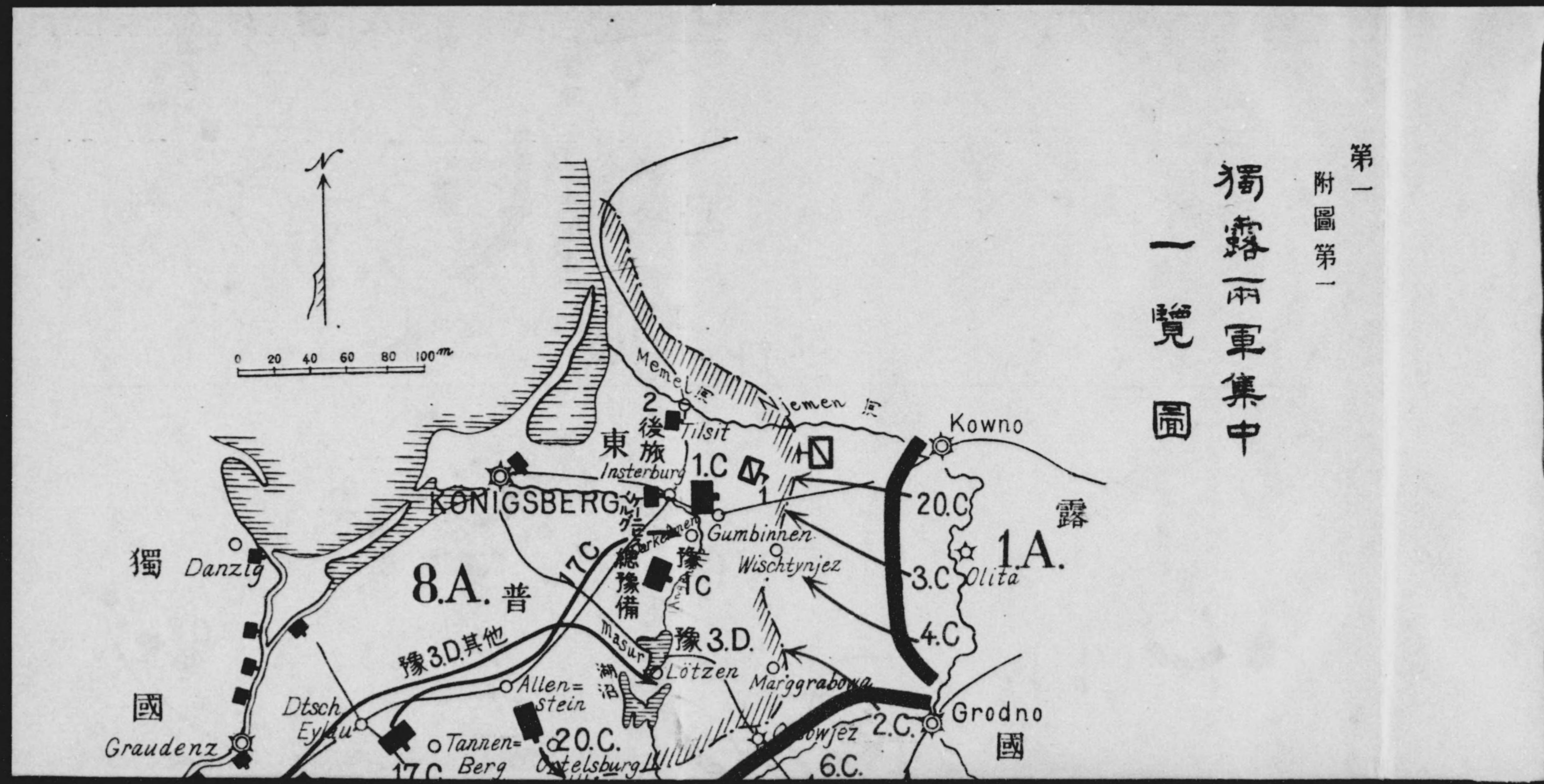
二十日夕ニ於ケル獨軍司令官退却ノ決心ハ彼我共ニ苦境ニ在ルノトキ最後ノ五分間ニ堪フル意氣アルモノ遂ニ勝者タルヘキコトヲ訓フルモノナリ、即チ戰後ノ研究ニ依レハ本戰鬪ニ於ケル兩軍ノ兵數ハ殆ト伯仲シ互ニ一勝一敗ノ間ニ浮沈シ同様ニ大ナル損害ヲ惹起セリ、此時ニ方リ獨軍司令官ノ神經感傷ニ過キ過早ニ意思力ヲ失ヘルカ故ニ遂ニ敗者タルノ地位ニ立ツニ至レリ、惟フニ當時獨軍ノ戰況其兩翼ニ於テ好望ヲ呈セシハ人意ヲ強ウスルニ足

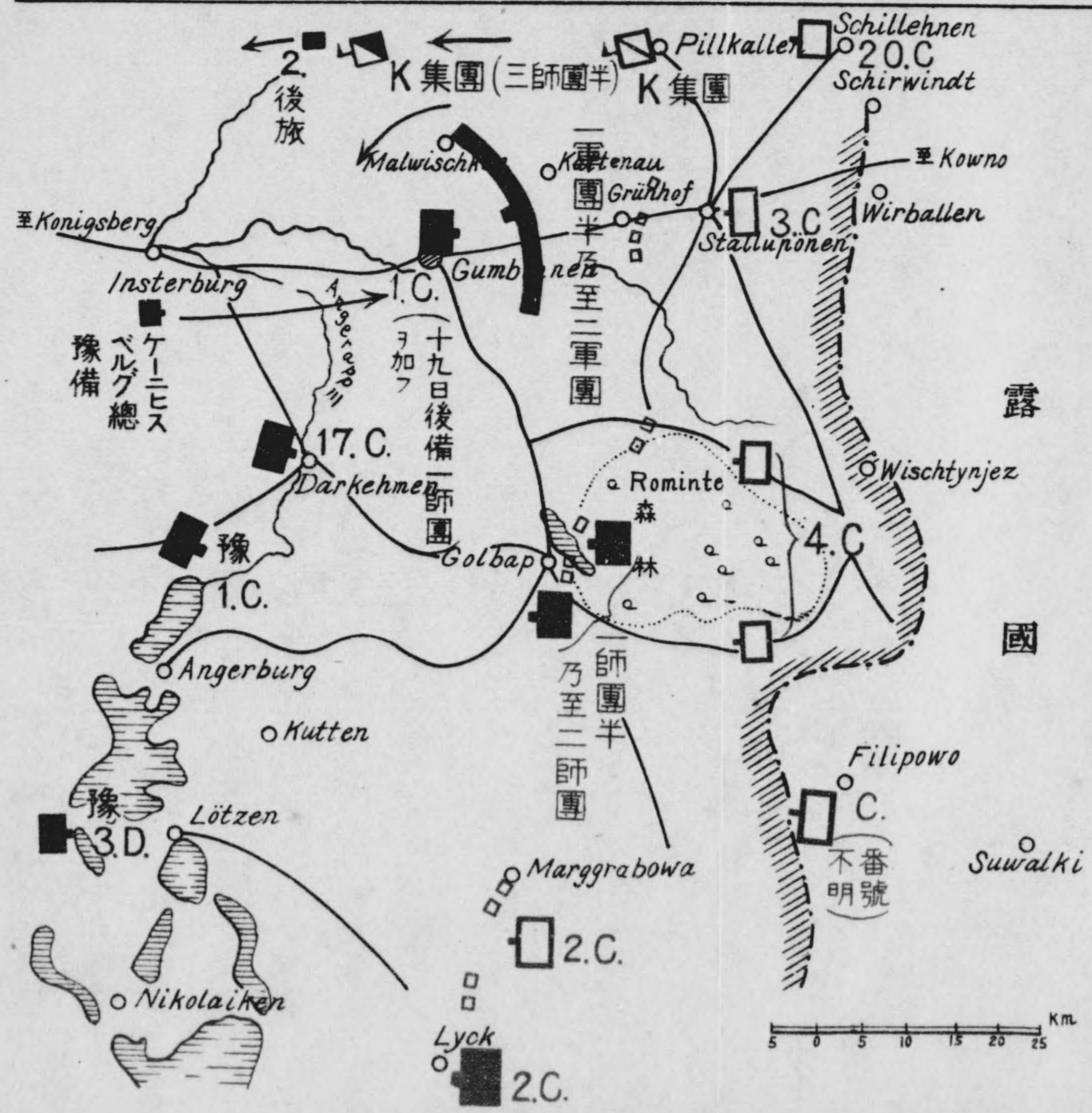
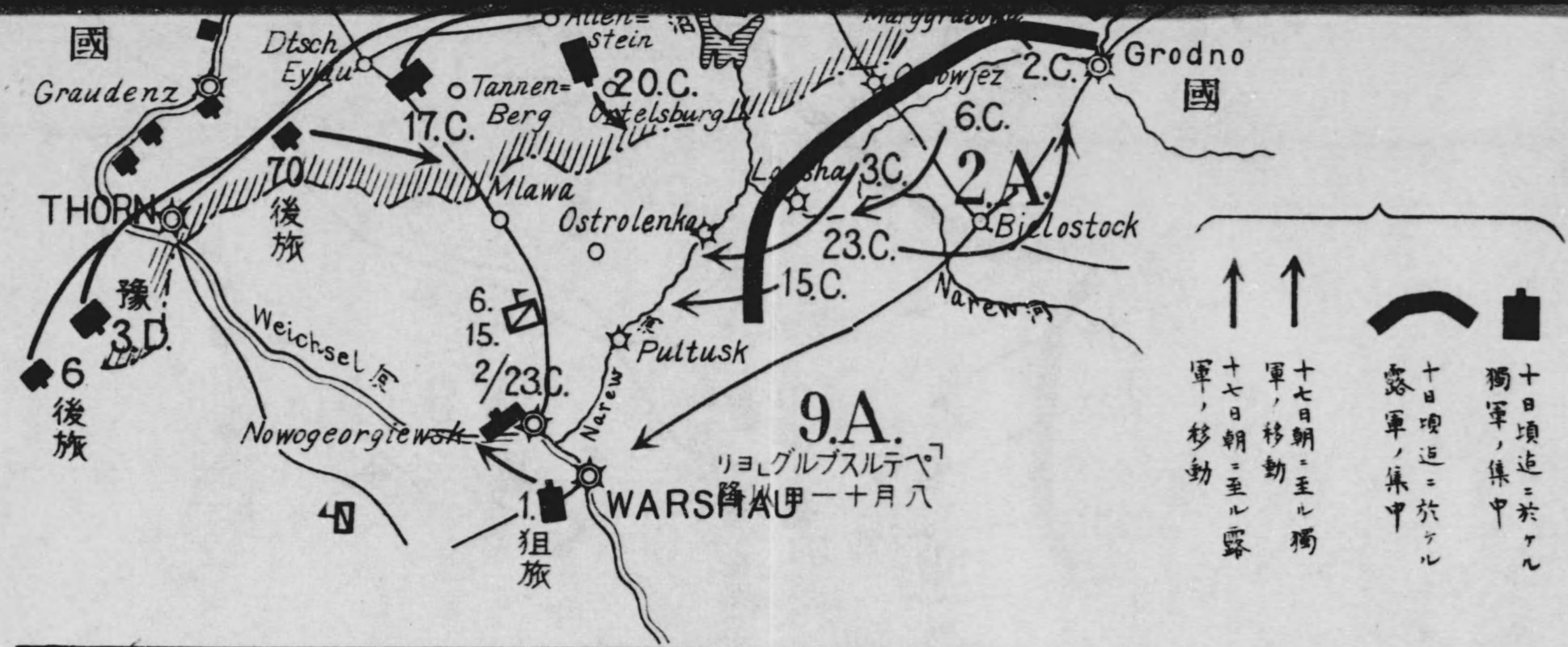
ルモノアリ、即チ北翼ニ於テ露第二十八師團ハ晝間ノ打撃ニ依リ僅ニ殘骸ヲ保ツノミ、而モ直ニ増加隊ヲ豫期シ得サル情況ニアリ、又南翼ニ於テハ獨軍ハ新銳一師團(豫備第三師團)ヲ有シ之カ參戰ト共ニ能ク形勢ヲ一變シ得ルノ見込アリ、故ニ全般ニ於ケル態勢ハ寧ロ獨軍側ニ有利ナリト謂フヘシ。獨軍司令官ニシテ若シ隷下諸兵團ノ戰鬪意思ヲ正當ニ認識シ堅忍不拔ノ精神ヲ以テ戰勝ニ努力セシナランニハ、翌日ヲ以テ勝利ノ大勢ヲ獲ルコト難キニアラサリシナラシ。



第一
附圖第一

獨露兩軍集中 一覽圖

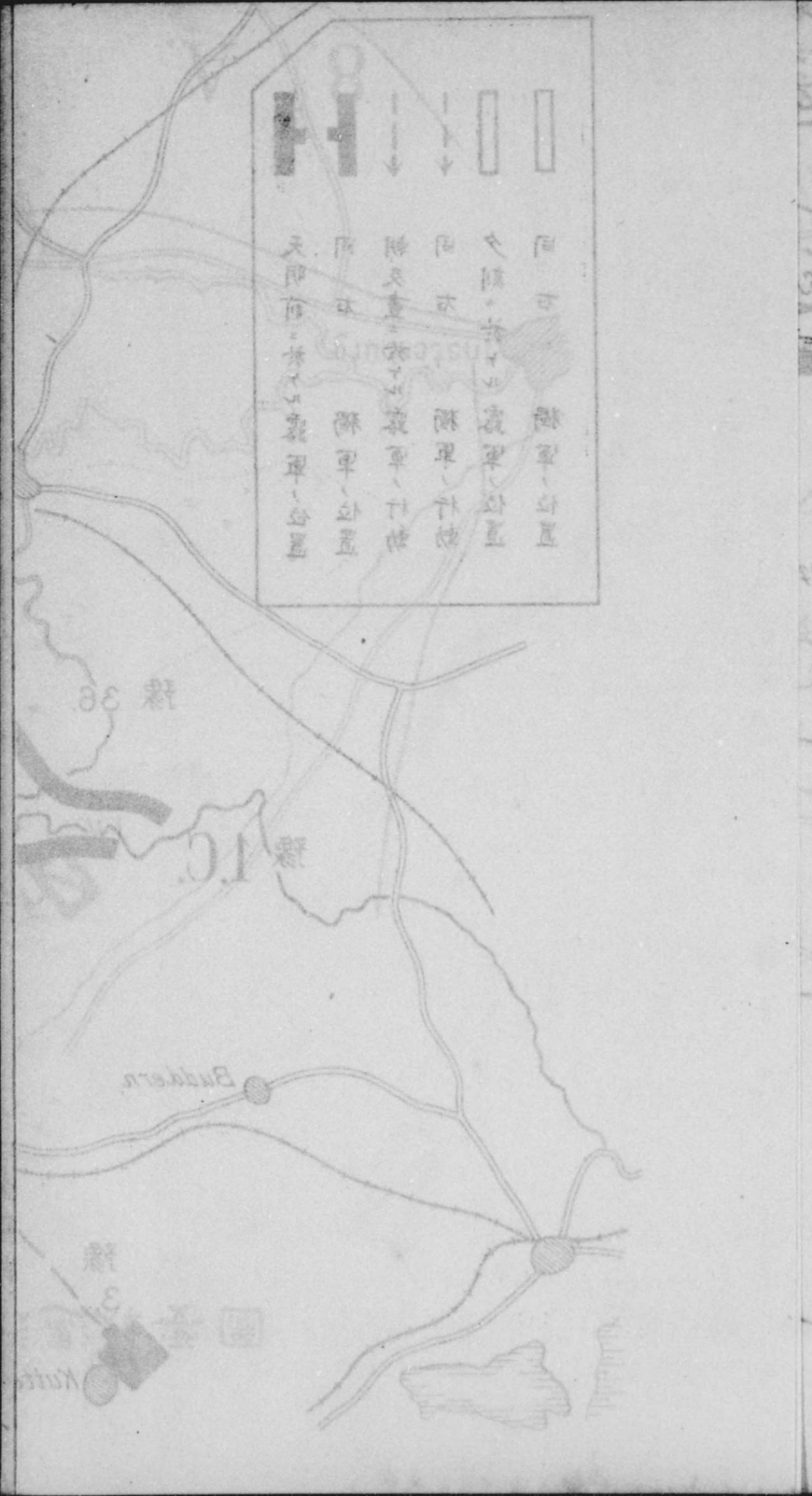




第一
附圖第二

八月十八、十九日獨軍司令部ニ於テ知得セル敵情要圖

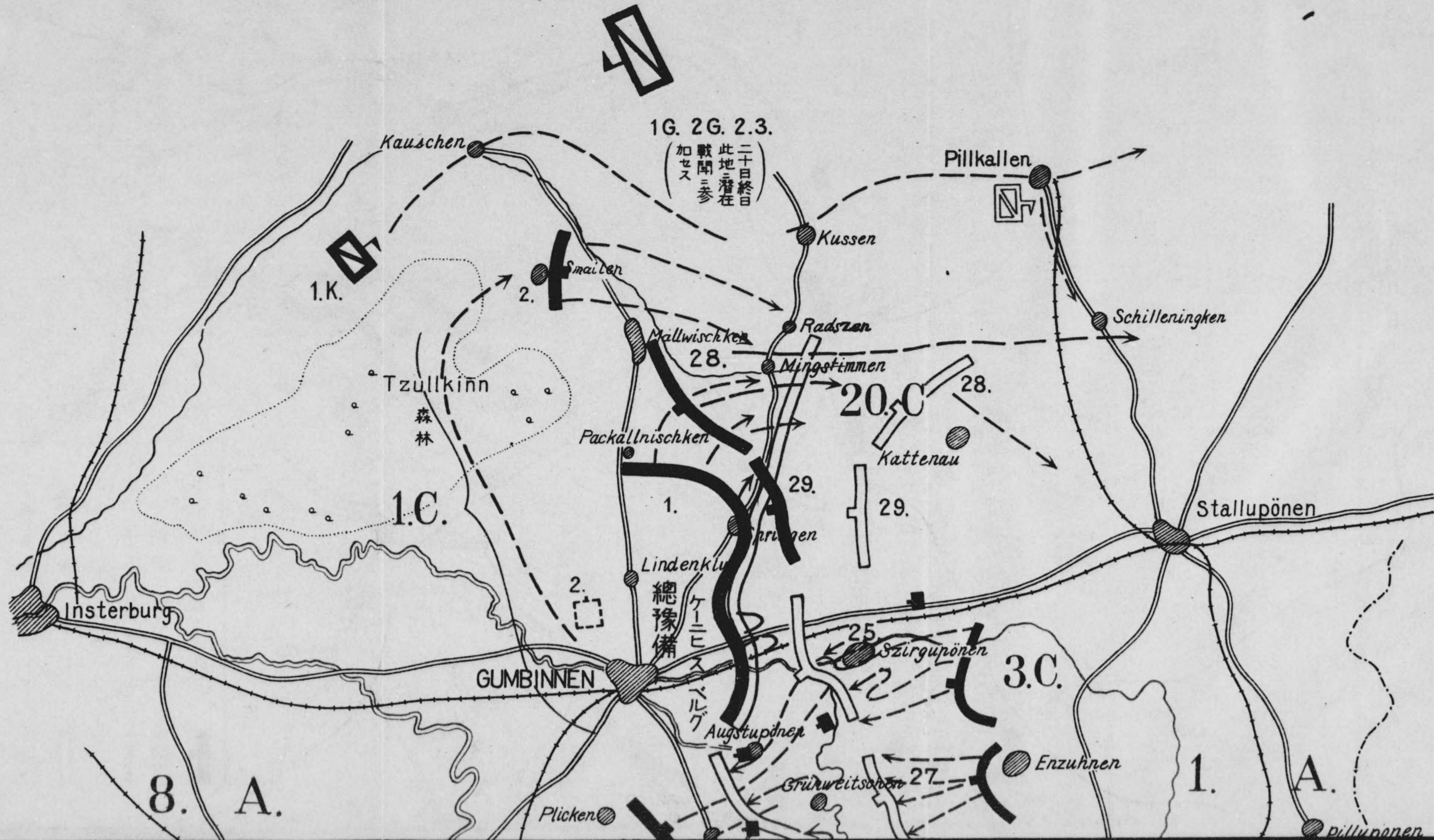
天印	天印	天印	天印	天印	天印
天印	天印	天印	天印	天印	天印
天印	天印	天印	天印	天印	天印
天印	天印	天印	天印	天印	天印



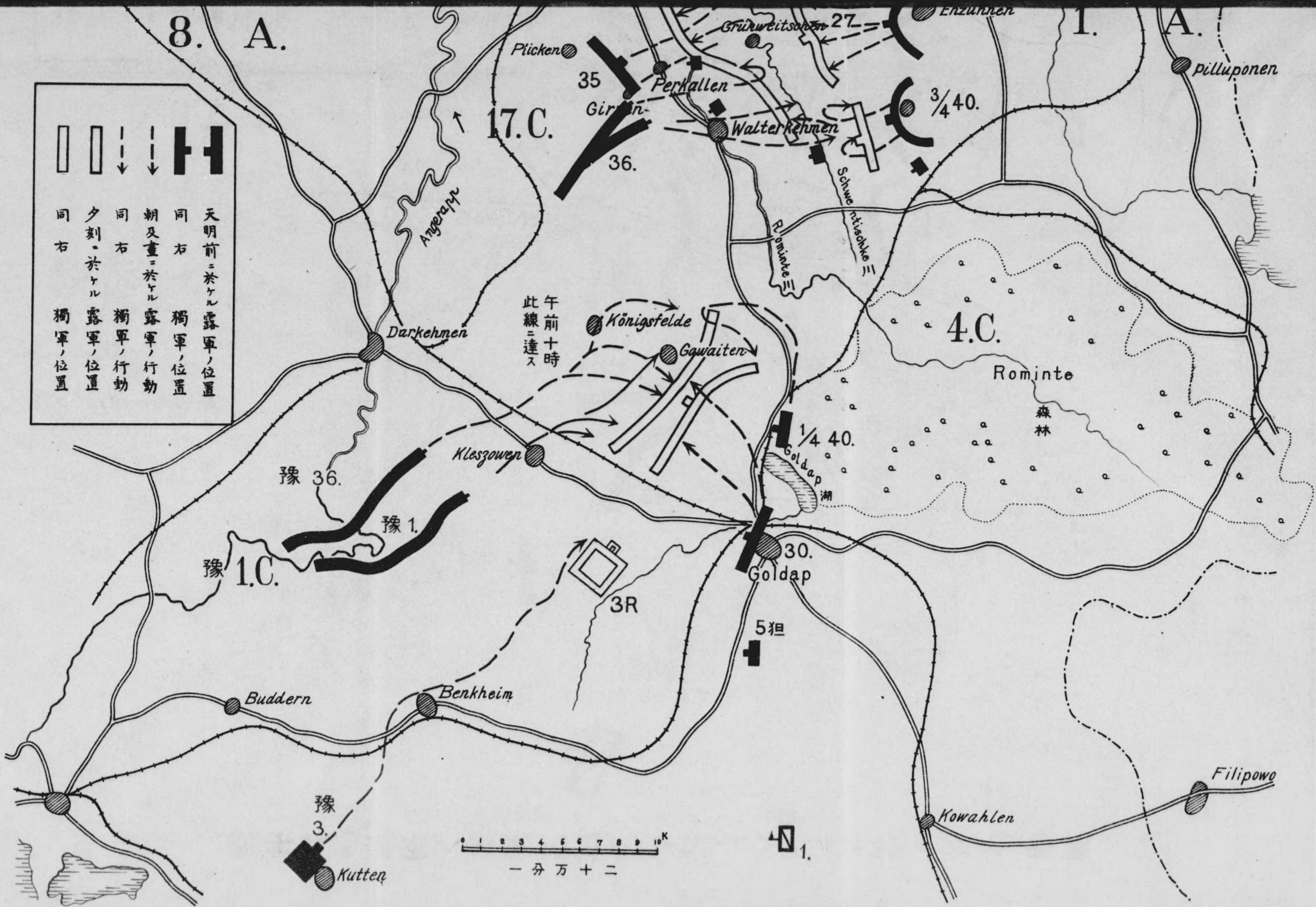
東普地方ニ於テブルグレン近獨第八軍遭戰要圖

(一九一四年八月二十日)

第一
附圖第三



同右	夕刻に於ケル露軍ノ位置	同右	朝及晝に於ケル露軍ノ行動	天明前に於ケル露軍ノ位置



ノ關係上縱深大ナル配置ヲ以テ行フノ已ム無キ状態ニ至リ、八月二十日附圖第二(二十日獨軍)ノ態勢ニ在リ。

獨西方軍ノ作戰方針

- (5) Florenville
- (6) Fumay
- (7) Semois

獨第四軍ノ任務

- (1) Diedenhofen
- (2) Metz
- (3) Namur
- (4) Givet

獨西方軍ノ作戰方針ハ「⁽¹⁾デューデンホーフエン」⁽²⁾メッツノ線ヲ確保シツツ西南方ニ旋回シ、其運動ハ右翼ヲ基準トシ、内翼ハ「⁽³⁾デューデンホーフエン」メッツノ線トノ連鎖ヲ失ハサルニ在リ、乃チ此作戰方針ニ基キ第三軍ハ「⁽³⁾ナムール」⁽⁴⁾ジヴェー間「⁽⁴⁾マース」川ノ線ニ攻勢前進シ、第五軍ハ「⁽⁵⁾デューデンホーフエン」ニ連接シツツ「⁽⁵⁾フロランヴェイル」方向ニ前進シ且「⁽⁶⁾ヴェルダン」方向ヨリスル敵ノ攻勢前進ニ對シテハ隨時西南方若ハ南方ニ旋回シテ之ヲ抗拒スヘク、第四軍ハ右兩軍ノ中間ニ在リ兩軍ノ内翼ト密ニ連繫ヲ保持シ、「⁽⁶⁾フェュメイ」ヌーフシャートー」ノ線ニ前進シ且隨時第五軍ノ戰鬪ヲ支援スル爲兵力ヲ南方「⁽⁷⁾スモア」河畔ニ使用シ得ルノ準備ニ在ルヘク、又第三軍ノ「⁽⁷⁾マース」河畔ノ戰鬪ニ際シテハ其左翼側ヲ安全ナラシムルノ任ヲ有セリ。

八月二十日 第四軍司令官ハ八月二十日夕迄ニ空中搜索等ニ依リ敵ノ強大ナル兵團主トシ

日夕迄ニ第四軍司令官ノ知得セル敵情

- (1) Chiers
- (2) Maas
- (3) Dinant
- (4) Bouillon

テ「セダン」附近ヨリ「モンメデー」附近ニ互ル「⁽¹⁾シエー」及「⁽²⁾マース」河畔ニ兵力ヲ集結シ、其前進開始ノ機切迫セルカ如キ徵候ヲ得、又第三軍通報ニ依リ「⁽³⁾ディナン」⁽⁴⁾アイヨン」間ニ有力ナル敵兵アラサルヲ知リシモ、軍前面敵軍ノ企圖果シテ攻勢ニ在リヤニ就テハ疑問ヲ挿ミ、尙此場合敵カ北方獨第四軍ニ向フヘキヤ將タ東方獨第五軍ニ向フヘキヤヲ判知スルヲ得ス。

八月二十日夕迄ニ第四軍司令官ノ知得セル敵情

軍司令官ハ敵ノ前進方向明瞭ヲ缺クノ間、軍左翼ノ前進ヲ控制シ以テ南方或ハ西南方ニ旋回シテ第五軍ノ戰鬪ニ參加シ或ハ本來ノ任務ニ向ヒ西方ニ前進ヲ繼續シ得ルノ自由ヲ保持スルヲ得策ナリトシ、且近ク「⁽⁵⁾マース」西岸ノ敵ニ對シ攻撃ヲ行フヘキ第三軍ノ左側掩護ヲモ顧慮スルノ要アリトシ、此趣旨ノ下ニ二十一日ノ前進ヲ部署セリ。

備考 獨第四軍内飛行中隊計四(内三ハ各現役軍團ニ配屬ス)

二十一日各軍團ハ前進シ敵ト會スルコト無ク所命ノ目標ニ達セリ。

八月二十一日夜ニ 二十一日午前ノ空中搜索ハ約二師團ノ敵「モンメデー」西南地區ヨリ「モンメ

於ケル第
四軍司令
官ノ情況
判斷ヲ關
スル日ニ
部署

- (1) St. Hubert
- (2) Honnay
- (3) Landers
- (4) Etalle
- (5) Virton

「デイ」ニ向ヒ前進中ナルヲ報セシモ、正午以來天候曇鬱トナリ搜索ノ繼續ヲ許サス、斯ノ如クシテ二十一日夜ニ至ルモ軍前面ノ敵情就中其企圖ニ關シテ依然明瞭ナラサルモノアリ、軍司令官ハ敵軍ノ自軍ニ向ヒ前進シ來ルヘキ可能性アルコトヲ顧慮シ併セテ兩隣接軍ノ翼側ヲ掩護スルノ任務ヲ放棄セサランコトヲ肝要ナリトシ、二十二日ノ爲軍ヲ數群トシテ準備ノ配置ニ在ラシメ、以テ隨時發展スヘキ戰況ニ應セントシ、第八及第十八軍團ヲ若干推進シ、第六軍團ヲシテ依然停止セシメ、豫備第十八軍團ヲ第十八、第六軍團ノ間隙部ニ挿入シ、豫備第八軍團ヲ「サン・チュベール」迄推進セリ、次テ軍司令官ハ第三軍カ二十二日左翼ヲ以テ「ジヴェー」北側ニ向ヒ前進シ、二十三日敵ヲ攻撃スヘキヲ知り、第八軍團ニ二十二日「オンネイ」迄前進シ第三軍左翼ヲ掩護スヘキヲ命セリ。此夜軍司令官ハ更ニ採決困難ナル問題ニ遭遇セリ、即チ第五軍ノ右翼第五軍團ヨリ「第五軍ハ「モンメデイ」⁽¹⁾「ランドル」⁽³⁾ノ線ヨリ前進中ナル敵ニ對シ攻撃ニ進發ス、第五軍團ハ午前四時「エタル」⁽⁴⁾出發、西南方「ヴィルトン」⁽⁵⁾ニ前進シ敵ヲ

左方隣接
兵團ヨリ
救援ノ請
求來ル

(1) Tintigny

攻撃スルカ故ニ「フロランヴィル」方面ニ現出セル有力ナル敵ニ對シ第六軍團ヲ「タンテイニイ」ニ向ヒ前進セシメ、第五軍團ノ右翼ヲ掩護セシメラレンコトヲ望ム」旨ノ請求アリ、軍若シ第五軍團ノ請求ヲ容レンカ、敵軍カ攻撃前進スル場合ニ於テ著シク不利ナル態勢ニ陥ルヘク、第六軍團ノ南方旋回ハ軍ノ中央及左翼ニ於テ漸ク準備セル統一アル會戰正面ヲ分裂スルニ至ルヘシ、而シテ第五軍團ハ午前四時出發ノ豫定ナルヲ以テ時機ハ急迫シ迅速ナル決心ヲ要セリ。軍司令官ハ遂ニ左方隣接兵團ノ救援ニ應スヘク責任ヲ負擔セリ。

備考 二十一日夕第四軍司令官ハ最高統帥ヨリ第五軍ハ敵ノ攻撃ヲ豫期ス、第四軍ハ左翼ヲ以テ第五軍司令部ト協調シテ行動スルヲ要スル旨ノ訓令ニ接シアリ。

佛軍ノ情

況 獨第四軍ニ對スル佛軍ハ「ドラングル・ド・カリイ」將軍ノ指揮スル第四軍ニシテ五軍團(後ニ第九軍團ヲ増加セラル)及豫備二師團、騎兵一軍團(二師團)ヨリ成リ、八月二十日「モンメデイ」⁽¹⁾「ブイヨン」ノ線ニ在ツテ「スーフシャートー」ヲ一

般方向トスル前進ヲ準備シアリ、佛第四軍司令官ハ空中搜索ニ依リ獨軍ノ若干
 縱隊自軍正面内ニ、三日行程前方ヲ西北ニ移動中ナルヲ知リ、該獨軍カ西南方
 ニ旋回セサルニ先チ攻勢前進ニ移轉セント欲シ、最高統帥ヲ動カシ、二十日夜
 ヨリ二十一日ニ互リ軍ヲ「スモア」河畔ニ推進シ、次テ二十二日更ニ北進ヲ繼續
 セリ、其前進部署附圖第二ニ示ス如クニシテ重點ハ軍ノ右翼方面ニ保持セラレ
 タリ。

三、會 戰(附圖第二參照)

第六軍團
ノ戰闘

二十二日朝獨第六軍團ハ新命令ニ基キ南進中右方師團(歩兵第十二師團)ハ「ロ
 ッシニヨル」附近、左方師團(歩兵第十一師團)ハ「タンテイニイ」附近ニ於テ敵ト
 遭遇シ戰闘二群ト爲ツテ進展シ正午尙、激戰中ニ在リ。
 軍司令官ハ午前九時參謀長ト共ニ該軍團ノ戰場附近ニ到著シ其戰況ヲ知リシ
 カ、此日朝霧深クシテ直ニ空中搜索ノ成果ヲ期待シ難キモノアリ、敵力強大ナ
 ル兵力ヲ以テ北方ニ向ヒ霧ニ遮蔽シテ軍ノ中央ヲ急襲シ得ヘキ可能性大ナリ

軍司令官
ノ兵力
ヲ左方
ニ集結
ス

- (9) Libramont

正午十二日
司令官ノ軍
タル情報
得

- (5) St. Hubert
- (6) Libin
- (7) Gribomont
- (8) Suxy

- (1) Les Bulles
- (2) Isel
- (3) Bertrix
- (4) Orgéo

トシ、軍ノ兵力ヲ左方ニ集結スルノ必要ヲ感シ、午前十時三十分之ニ關スル命
 令ヲ下シ諸軍團ヲ第六軍團ニ近ク南方ニ轉進セシム、即チ豫備第十八軍團ヲシ
 テ「レ・ビユル」ヲ經テ「イゼル」ニ向ヒ、第十八軍團ヲシテ「ベルトリ」⁽¹⁾「オル
 ジニオ」ノ線ニ向ヒ、豫備第八軍團ヲシテ「サン・チュベール」ヲ經テ「リバン」西
 側ニ向ヒ前進セシム。

正午軍司令官ハ第六軍團長ノ所在地ニ於テ一飛行機報ヲ得タリ、曰ク佛軍約五
 師團午前十一時十五分南方ヨリ「グトリボモン」⁽⁷⁾「シユクシイ」ノ線ニ達セリト、茲
 ニ於テ軍司令官ハ曩ニ第五軍團ニ對シ友誼的部署ヲ取レル結果ノ極メテ重大
 ナルヲ感シ、軍ノ中央正面ニ於テハ彼我ノ衝突目撃ノ間ニ迫リ恐ラク既ニ交戰
 ヲ惹起シアルヘキヲ察シ、軍ノ左翼方面ノ敵ニ關シテハ當分第六軍團獨力ヲ以
 テ處理セシムルノ外無シト認メ、同軍團ニ爲シ得レハ該敵ヲ西方ニ擊攘シ既記
 北進中ナル敵集團ノ側背ニ迫進スヘキヲ命シ、午後一時「リブラモン」⁽⁹⁾ノ豫メ設
 備セル司令所ニ向ヒ急行セリ。

軍司令官ハ「リブラモン」ニ到ルノ途「ヌーフシャートー」ニ於テ親シク豫備第十八軍團長ト會シ、同軍團カ北進中ナル強大ナル敵ト正午以來交戦シ今ヤ苦境ニ在ルヲ知レリ。

豫備第十八軍團ノ戰闘

是ヨリ先豫備第十八軍團ハ「レ・ビュル」ニ向ヒ轉進スヘキ軍命令ニ接セシモ、其豫備第二十一師團ハ午前十一時頃ヨリ「ヌーフシャートー」西方ニ於テ既ニ強大ナル敵ト接觸シ、之ヲ放棄シテ他ニ轉スルヲ得サリシヲ以テ、同師團ヲシテ「ヌーフシャートー」西方及西南高地ヲ保持セシメ、豫備第二十五師團ヲシテ其左方ニ連繫シ展開ヲ準備スヘク命令シ、軍司令官ノ同意ヲ得タリ、當面ノ敵ハ頗ル優勢ニシテ先頭師團ハ後尾師團ノ參加迄非常ナル苦戦ニ陥レリ。

第十八軍團ノ戰闘

(1) Offagne

第十八軍團ニ於テモ其一部ハ既ニ午前以來敵ト接觸セリ、軍團長ハ次テ午後零時半迄ニ飛行機報ニ依リ「オファーニユ」⁽¹⁾「ヴェルトリー」ノ線ニ向ヒ或ハ之ヲ越エテ多數ノ敵縱隊前進中ナルヲ知リシヲ以テ、曩ニ受領セシ轉進ニ關スル軍命令ヲ現況ニ適セサルモノナリト思惟シ、軍團前面ノ敵ニ對シ攻勢前進ヲ命セ

リ。

軍司令官ハ豫備第十八軍團カ異常ナル苦戦ニ在テ之ヲ直接支援スルコト緊急ナルヲ信セシヲ以テ第十八軍團長ノ命令違反ヲ承認セス、午後二時「リブラモン」ニ於テ第十八軍團長ト親シク會シテ之カ履行ヲ要求シ、更ニ筆記文ヲ以テ少クモ軍團ノ一部ヲ「オルジェオ」方向ニ差遣スヘキヲ訓令セリ。

午後三時
軍司令官
ノ部署

軍司令官ハ午後三時第八軍團及豫備第八軍團ニ新ニ命令ヲ與ヘ、第八軍團ヲシテ其一師團ヲ以テ「グレード」⁽¹⁾方向ニ於テ成ルヘク南方ニ前進セシメ、又豫備第八軍團ヲシテ「リバン」西側ニ兵力ヲ集結セシム。

第十八軍團長ハ幾何モ無クシテ今ヤ隷下全兵團カ當面ノ敵ニ對シ既ニ深く交

戦ニ陥レルヲ知リ、左方隣接軍團支援ニ關スル軍ノ訓令ニ應スルヲ得サル旨ヲ軍司令官ニ具申シ、軍司令官亦此ニ至ツテ結局軍團長ノ意見ヲ承認スルノ已ム無キニ至レリ。

斯クノ如クシテ本會戰ハ一般ノ豫想ニ反シテ發展セリ、之ヲ戰場ノ局部ニ就テ

(1) Graide

觀察スルニ各兵團ハ概ネ敵ト接觸スルニ至リ初メテ敵情ヲ知得シ、就中一部ニ於テハ純然タル不期戰ヲ演出セリ。(第六軍團右方師團ノ「ロツシニヨル」附近ノ戰鬪、豫備第十八軍團先頭師團ノ「ヌーフシャート」西南地區ニ於ケル戰鬪)戰鬪ハ各級指揮官ノ獨斷ニ依ツテ遂行セラレ、地形ノ一般ニ蔭蔽セルト相俟ツテ軍團内ニ於テモ數群ト爲ツテ發展セリ。

軍ノ全正面ヲ通シ到ル處激戰進行シ局部ニ於テ互ニ勝敗アリ、而シテ獨軍側ニ於テハ豫備第八軍團參加迄ハ左ノ如キ劣勢ヲ以テ苦戰ヲ交ヘタリ。

兩軍兵力比較

戰場	獨軍	佛軍
「ロツシニヨル」附近	11D 12D 6C	植 3D 4D
「ヌーフシャート」附近	25RD 21RD 18RC	植 23D 24D 12C 植地混成 5iB

- (1) Ochamps
- (2) Maissin

戰場	獨軍	佛軍
「オーシャンブ」附近	21D (18Cノ半部)	34D 33D 17C
「メーサン」附近	25D (18ノ半部)	22D 21D 11C

第十八軍團右方師團(步兵第二十五師團)ノ右翼旅團ハ午後遅ク遂ニ力竭キテ擊退セラレシモ、軍司令官ノ部署ニ依リテ恰モ赴援セシ豫備第八軍團大部ノ參加ニ依リ危機ヲ一掃セリ、結果ヨリ觀察セハ第十八軍團長カ曩ニ正當ト信セシ決心ヲ頑強ニ固執セシコトヲ是認セサルヲ得ス、蓋シ若シ軍團ニシテ南方ニ轉進スルノ舉ニ出テシナランカ、サナクモ危殆ナリシ同方面ノ形勢ハ更ニ一層惡化セシナラン。

二十一日夕刻ニ近ツクニ從ヒ戰場ノ各方面トモ戰況ハ獨軍側ニ有利ニ進展セリ、即チ第十八軍團正面ニ於テハ其南翼ノ成功ハ其北部ニ感響シ步兵第二十一師團全正面ノ勝利トナリ、豫備第十八軍團正面ニ於テハ後方師團(豫備第二十五師團)ノ到

第二一九一四年獨佛國境會戰ニ於ケル「ヌーフシャート」附近獨第四軍ノ遭遇戰

(1) Bievre
 著ト共ニ敵ノ右翼ヲ擊破シ、第六軍團正面ニ於テモ右方師團ハ敵ノ左翼ヲ包圍シテ「ロッシニヨル」ヲ占領シ、此結果左方師團ノ苦戰ヲモ緩和シ、中央ニ突出セシ敵ノ一部(將官三、下士以下二千六百、火炮三九門)ハ獨軍ノ手ニ歸セリ。
 第八軍團ハ此日午後軍命令ニ依リ主力ヲ以テ「ビエーヴル」方向ニ轉進セシモ、行動ノ著手遲延セシ爲夕刻迄ニ特ニ大ナル感響ヲ主力戰場ノ形勢ニ波及スル能ハス。

戰團ノ大勢決ス
 斯ノ如クシテ此日佛軍ハ數多ノ點ニ於テ戰線ヲ突破セラレ、夕刻ニ於テ既ニ戰團ノ大勢ハ決セラレタリ。佛軍司令官ハ翌日ヲ以テ攻撃ヲ再興セントセシモ、多數ノ軍團ハ軍命令ヲ待タスシテ退却シ其一部ハ秩序ヲ亂シテ潰走セリ。

四、追撃及損害

二十三日
 獨軍司令官ハ夕刻「バストーニユ」ノ軍司令部ニ歸還シ、夜ニ入りテ軍力勝利ノ道程ニ在リトノ印象ヲ得、翌日戰團ヲ繼續シ殊ニ深ク敵ノ左翼ヲ包圍スルコトニ依リ決勝ニ達センコトヲ企圖シ、命令スル所アリ、然レトモ獨軍ノ損害頗ル

大ニシテ(例ヘハ第六軍團及豫備第十八軍團共ニ死傷四千以上)苦戰ノ印象深ク二十三日ニ於ケル各軍團ノ攻撃開始若ハ追撃ハ著シク遲延シ、而モ動作活氣ヲ缺キ敵ニ打撃ヲ加フルヲ得サリキ。
 爾後獨軍ハ敵ニ尾シテ二十五日「マース」河畔ニ達セリ。

五、本會戰ニ關スル觀察

- 一、空中搜索十分ナラサル場合ニハ本例ニ於テ認ムル如ク兵團ハ敵ト接觸スルニ至ツテ初メテ急迫セル敵情ヲ知得スルコトアリ、故ニスノ如キ場合ニ於テハ特ニ注意シテ地上搜索ノ周到ヲ期セサルヘカラス。
- 二、二十二日獨第四軍ノ不期遭遇戰ハ各兵團長以下ノ獨斷ヲ以テ進展セリ、此際軍司令官ハ親ラ一部戰場(先ツ左翼第六軍團正面)ニ赴キ彌縫的ニ戰團指揮ヲ行ハントセシモ成ラス、而モ戰局ノ大勢ハ既ニ同日夕迄ニ一決セリ、本例ニ依ツテ推スニ軍ノ如キ大兵團ニシテ遭遇戰ヲ豫期スル場合ニ於テハ隨時ノ戰團開始ヲ用意シ、既ニ其前進部署ニ於テ十分ノ戰團準備(搜索、連絡ノ處

置、兵力ノ集結、重點ノ形成、軍直屬部隊ノ部署等ヲ爲スヲ有利トスルコト多シ、空中搜索ノ十分ヲ期シ難キ場合ニ於テ殊ニ然リ。

三、二十二日獨第四軍ハ數群ト爲ツテ準備陣ノ態勢ニ在リ軍全體トシテ未タ十分戰鬥部署ヲ完成シアラス、故ニ不意ノ交戦ニ方リ豫備第八軍團ノ參戰迄ハ三軍團ヲ以テ佛軍ノ四軍團ト交戦シ苦戦ヲ嘗メタリ、即チ情況ノ不明確、任務ノ多端等ハ屢々軍兵力ノ集結、重點ノ形成等戰鬥部署ノ完成ヲ遲延セシムルコトアルヲ以テ軍司令官ハ能ク大勢ヲ明察シ適時決心ヲ確立シ戰鬥ヲ準備スルコト必要ナリトス。

四、不期的遭遇戦ニ於テ軍司令官ハ當初全般ノ情勢ヲ審ニスルヲ得ス、局部ニ發生セル戰鬥ノ印象ニ捉ハレ易シ、軍司令官ノ位置前線ニ過度ニ近接セル場合ニ於テ殊ニ然リ。

五、正面戦ノ執強ハ益々側翼ノ意義ヲ増大セリ、本會戦ハ軍ヨリ見テ正面戦ナルモ各軍團ノ範圍ニ於テハ局部的包圍行ハレ其效果時ト共ニ現ハレ獨軍勝利ノ一動機ヲ成セリ、

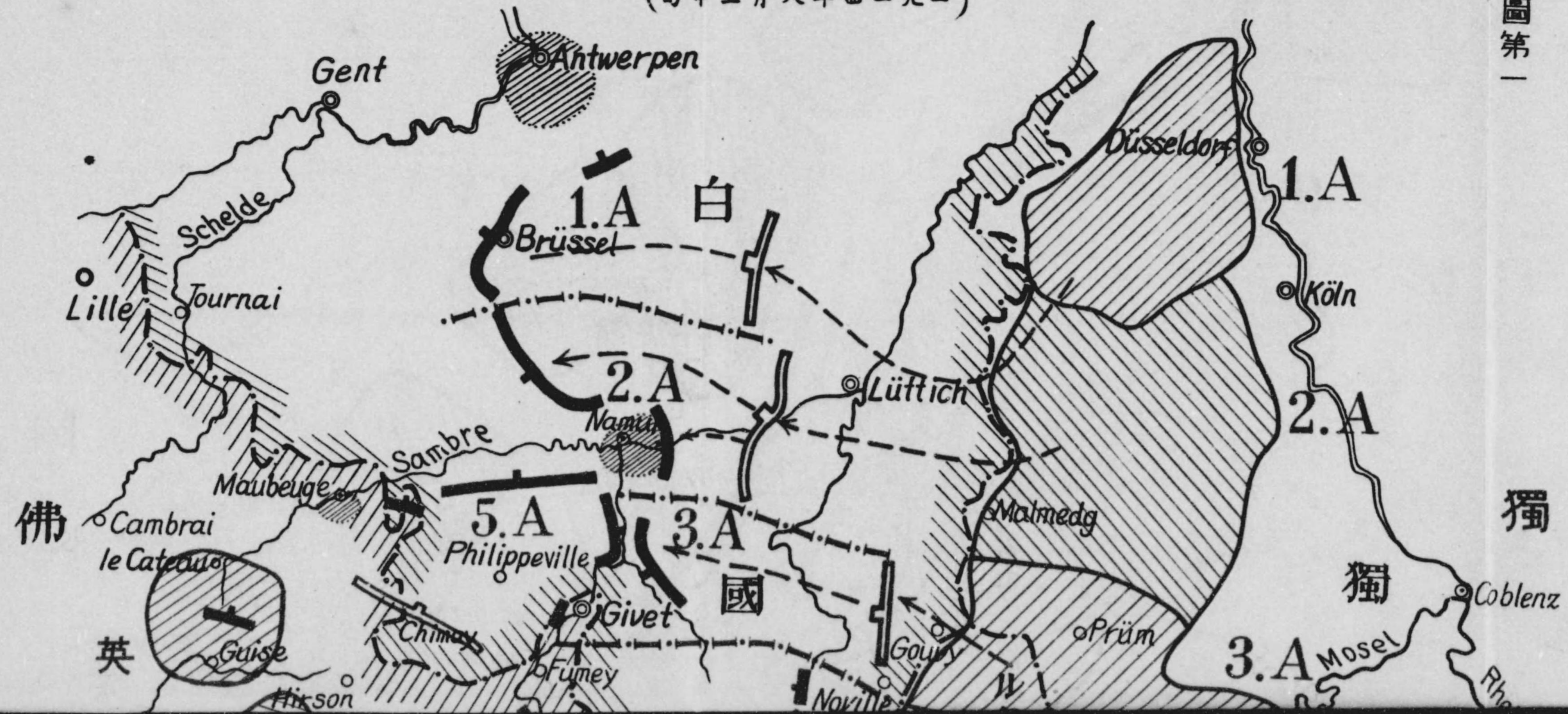
若シ獨軍司令官ニシテ第八軍團及豫備第八軍團ヲ早期ニ參戰セシメ佛軍左翼側ニ對シ包圍ヲ企圖セシナランニハ勝利ノ成果ヲ大ナラシメ佛軍ヲシテ「マース」河畔ニ停止スル能ハサラシメタルヤモ知ルヘカラス、大兵團ノ不期戦ニ於テモ尙且決戦ハ翼側ニ求ムルヲ可トスルヲ推斷シ得。

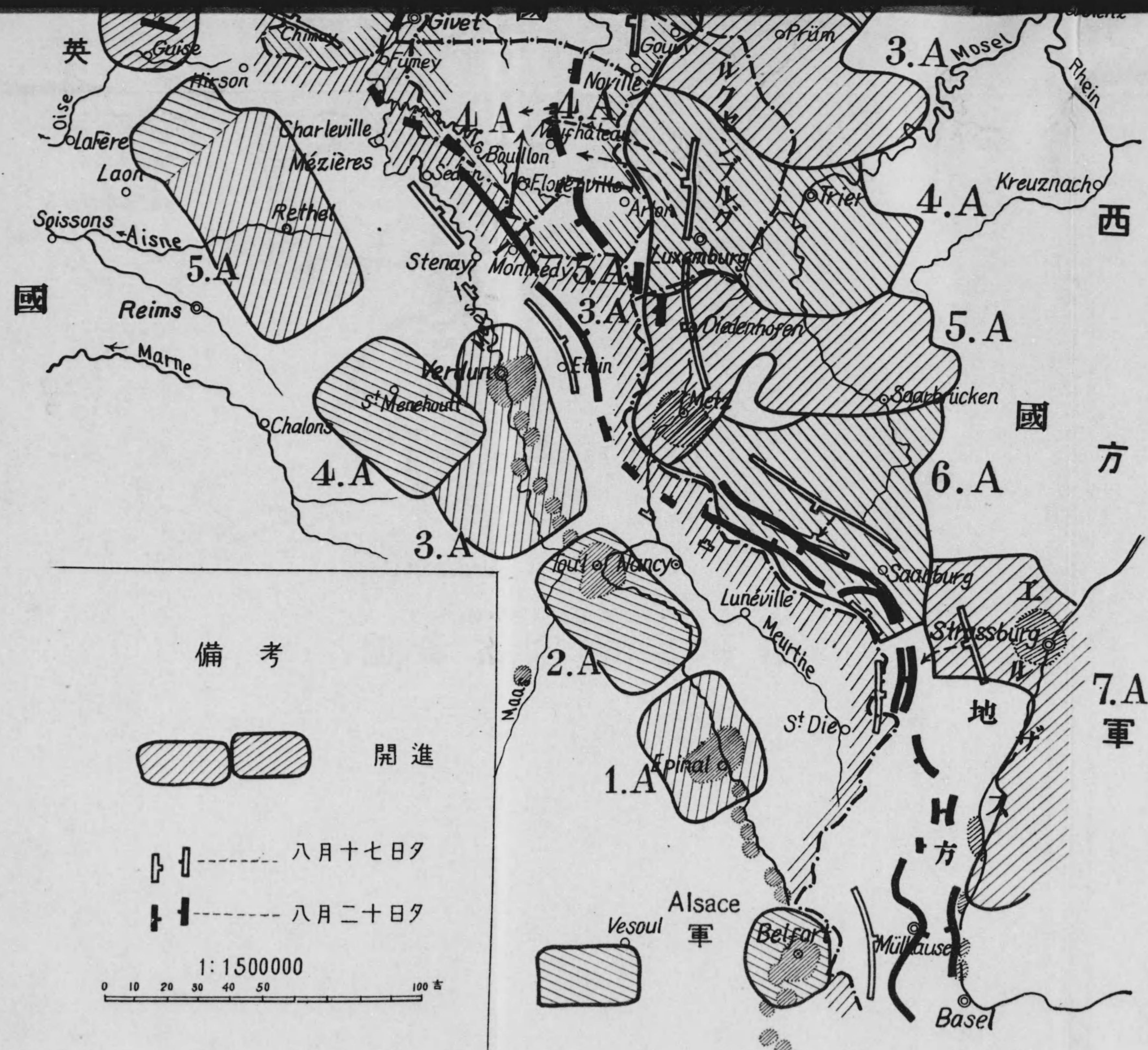
六、爾地ニ於テ獨軍勝利ノ原因ハ軍隊ノ勇敢ナル攻撃精神ト其敢行力ニアリト謂ハサルヘカラス、而シテ其損害ノ大ナルハ二十二日長ク比較的劣勢ヲ以テ猛烈ナル佛軍ノ攻撃ニ對セルト開戦ノ初頭ナリシヲ以テ戰鬥動作上ニ未タ適切ナラサルモノアリシトニ因ルヘシ。

獨佛兩軍態勢要圖

(一九一八年八月八日)

第二
附圖第一





英

西

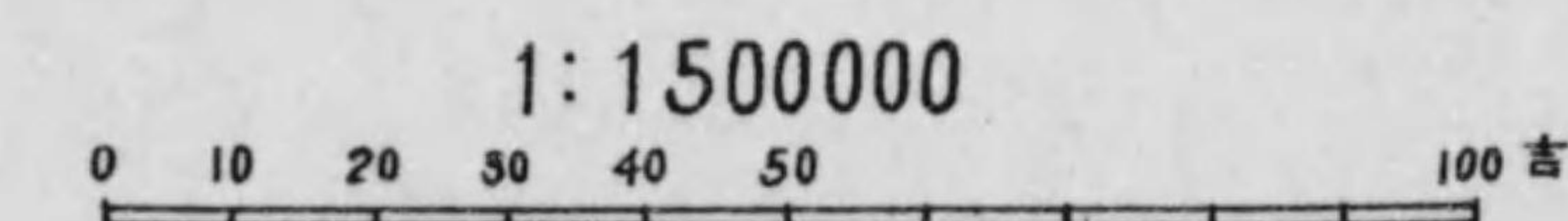
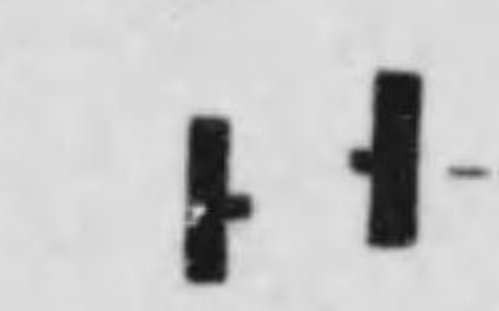
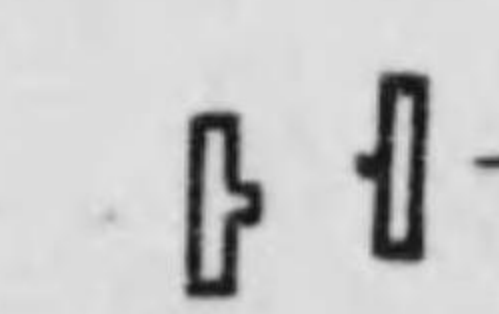
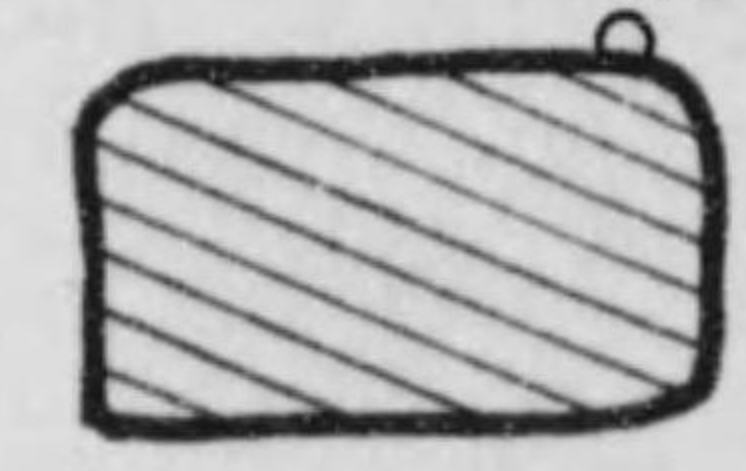
國

方

地

7.A 軍

Alsace 軍





獨佛國境會戰
 ヌーフーシャト一附近獨第四軍遭遇

一九四一年八月二十二日

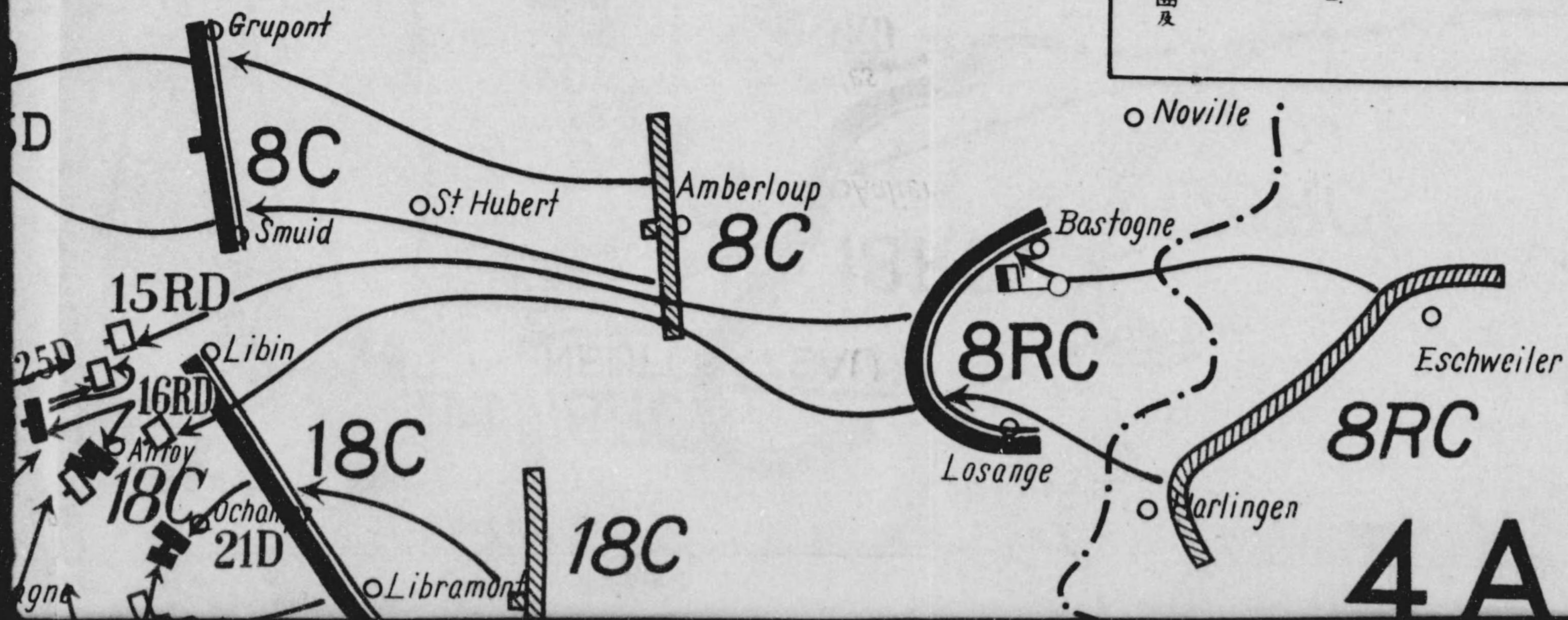
國

3A

左翼

白

兵力計十師團	豫	豫	18C	8C	6C	獨第四軍	本會戰ニ於ケル兩軍編組 (八月二十二日)	
	豫	豫	25D, 21D, 16D, 15D	12D, 11D				
兵力計十四師團及 騎兵一師團	豫	豫	9C	17C	12C	11C	2C	佛第四軍
	KD, 50D, 52D	17D, 34D, 33D, 22D, 23D, 22D, 21D	混成	3D, 2D	4D, 3D			



獨

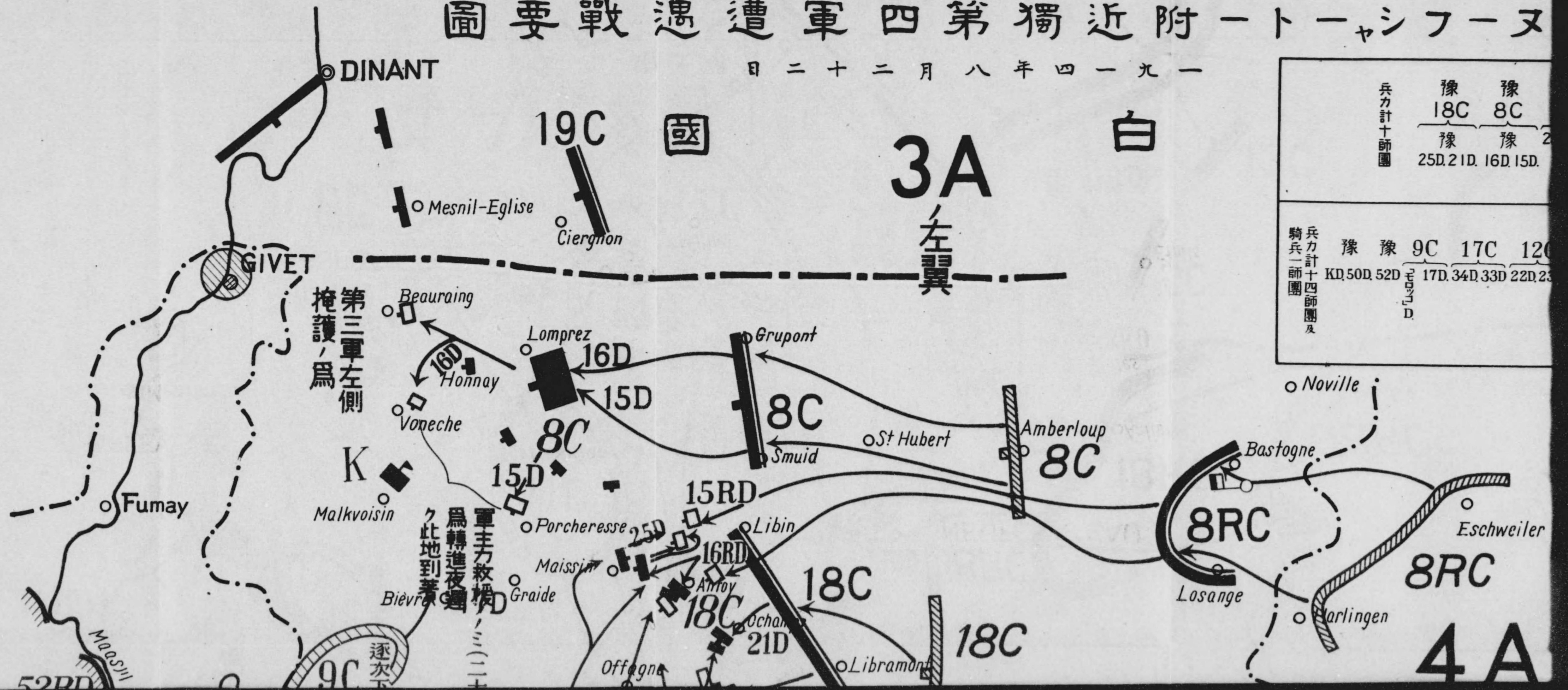
獨

4A

第二
 附圖 第二

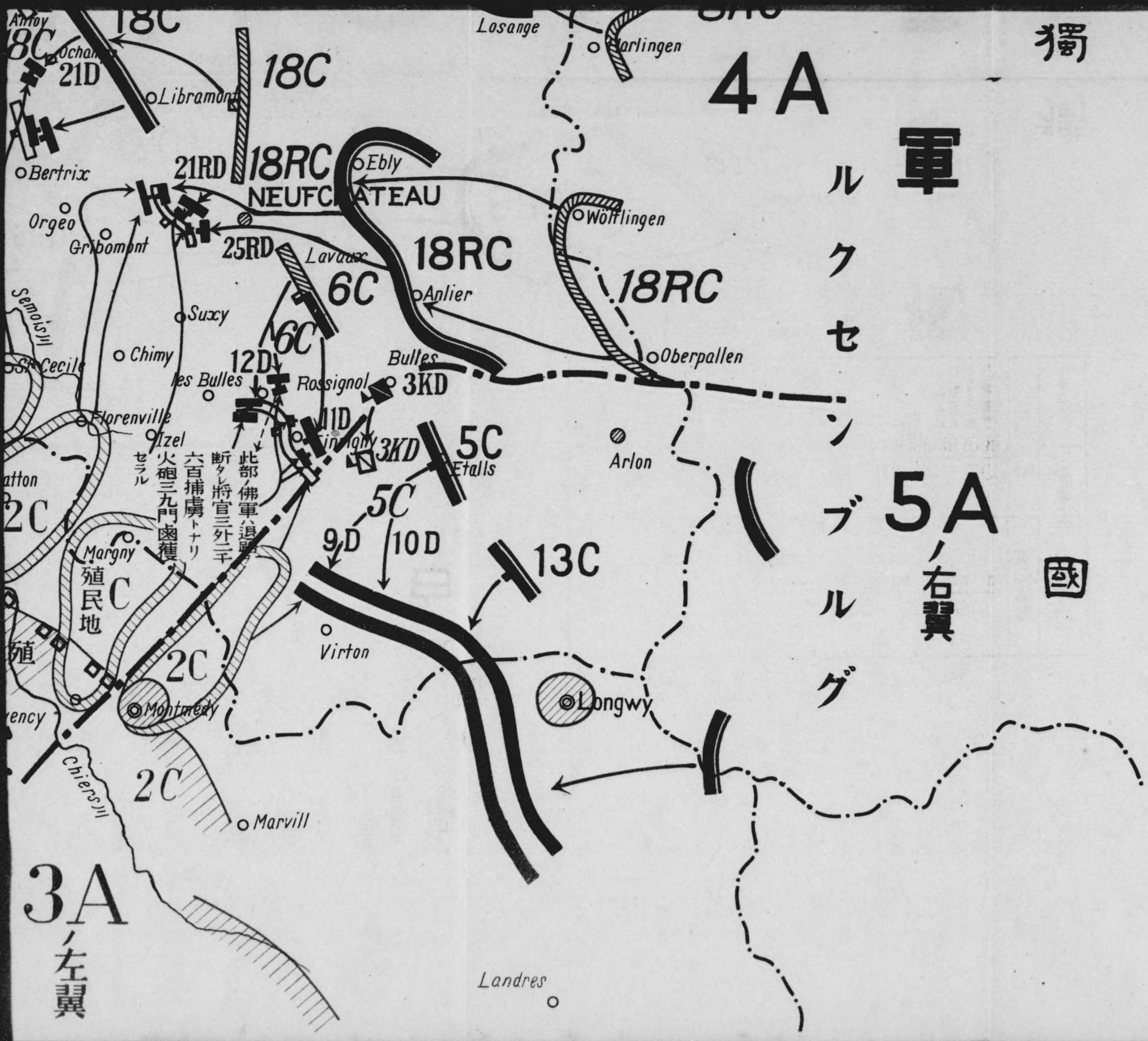
戰會境國佛獨
圖要戰遇遭軍四第獨近附一ト一ヤフ一ヌ

日二十二月八年四一九一



兵力計十師團	豫	豫		
	18C	8C		
	豫	豫	2	
	25D, 21D, 16D, 15D.			

騎兵一師團 兵力計十四師團及	豫	豫	9C	17C	12C
	KD, 50D, 52D	モロコシD	17D, 34D, 33D	22D, 23D	



4A

軍

ル

ク

セ

ン

5A

右翼

國

ブ

ル

グ

3A

左翼

- | | | | | |
|---------------|-----------------|------------------|-----------------|------------|
| (1) Mons | (5) Guise | (9) Berry-au-Bac | (13) la Fère | (17) Bray |
| (2) Charleroi | (6) Mariembourg | (10) Aisne | (14) S. Quentin | (18) Somme |
| (3) Dinant | (7) Verdun | (11) Craonne | (15) Vermand | (19) Amien |
| (4) Péronne | (8) Vauziers | (12) Laon | (16) Ham | |

第三

一九一四年八月獨佛國境會戰後ニ於ケル「サン・カンタン」

附近獨第二軍ノ遭遇戰

一、前 言(附圖第一參照)

獨西方軍ノ右翼諸軍ハ一九一四年八月國境會戰ニ於テ勝利ヲ獲ルヤ、モン⁽¹⁾、シヤルルロア⁽²⁾、⁽³⁾「デイナン」附近ノ戰場ヨリ西南方ニ追撃ヲ開始シ、第一軍ハ⁽⁴⁾「ペロ
ンヌ」地方ニ、第二軍ハ⁽⁵⁾「ギーズ」地方ニ、第三軍ハ⁽⁶⁾「マリアンブール」地方ニ向ヒ
突進シ、他方英佛軍ハ幾分戦力ノ損耗アリタリトハ謂ヘ、適時撃滅的打撃ヲ免レ
戰場ヲ離脱スルヲ得タリ。

佛軍總司令官「ジョッフル」將軍ハ八月二十五日左翼諸軍ノ退却ヲ律シ、第三、第
四軍ヲシテ⁽⁷⁾「ヴェルダン」⁽⁸⁾「ヴージエー」ノ線竝⁽⁹⁾「ベリイ・オー・バック」以東ノ⁽¹⁰⁾「エ
ーヌ」河ノ線ヲ、第五軍ヲシテ⁽¹¹⁾「クラオンヌ」⁽¹²⁾「ラーン」⁽¹³⁾「ラ・フェール」⁽¹⁴⁾「サン・カ
ンタン」⁽¹⁵⁾「ヴェルマン」ノ線ヲ保持セシメ、又英軍ヲシテ⁽¹⁶⁾「ハム」⁽¹⁷⁾「ブレイ」間⁽¹⁸⁾「ソ
ンム」河南岸ヲ守備セシメ、新編成第六軍ヲ八月二十七日以來⁽¹⁹⁾「アミアン」ノ前

方ニ集合セシメ、以テ「サン・カンタン」ヨリ「アミアン」ニ互ル正面ヨリ攻勢ヲ再開センコトヲ企圖セシモ、須臾ニシテ獨軍ノ近迫ハ此企圖ヲ實施スヘク時間ノ餘裕ヲ與ヘサルコトヲ示シ、第六軍ノ一部ハ既ニ其集合ノ途ニ於テ獨第一軍ニ依リ撃退セラレ、英軍ニ至ツテハ「ル・カトー」附近ノ敗戦ト獨第一軍ノ追撃トニ因リ二十七日「サン・カンタン」及「ギーズ」方面ニ退却シ即時ノ抵抗ノ如キハ之ヲ胸算シ得サル状態ニ在リ。

此ニ於テ佛軍總司令官ハ窮地ニ在ル英軍ヲ救援スルノ要ニ迫ラレ、佛第六軍ヲ以テ「アミアン」ヨリ獨軍ノ右翼側ニ向ヒ、同第五軍ヲ以テ「サン・カンタン」ニ向ヒ攻勢ニ進發セシメ、以テ獨右翼諸軍ノ追撃ヲ牽制センコトヲ企圖セリ。

- (1) le Cateau
- (2) Oise

敍上獨佛兩軍作戦行動ノ結果ハ八月二十八日ヨリ三十日ニ互リ「サン・カンタン」、「ギーズ」附近「オアーズ」河畔ニ於テ獨第二軍對佛第五軍ノ遭遇戦ヲ演出セリ、獨軍側ノ所謂「サン・カンタン」附近ノ會戰（佛軍ニ於テハ「ギーズ」ノ會戰ト稱ス）ナルモノ即チ是ナリ。

二、會戰ノ端緒（附圖第二）

- (1) Sambre
- (2) la Vallée Mulâtre
- (3) la Capelle
- (4) Hirson

「フオン・ビュローロ」大將ノ指揮スル獨第二軍ハ「サンブル」河畔ノ激戦（八月二十二日乃至二十四日）ニ於テ勝利ヲ獲ルヤ、英軍及佛第五軍ヲ西南方ニ追撃シ、幾多ノ小追撃戦ヲ經、且大ナル行軍努力ノ後疲勞シテ八月二十七日夕概要「ラ・ヴァレ・ミユラートル」(ル・カトー)南方九吉「ラ・カベル」(イルソン)西北二三吉)ノ線ニ達シ宿營セリ。

二十七日
於第二軍
獨熊勢
軍日夕
並同軍
迄司令
司官同
知令一
敵得七
情セル
ルノ夕

同日夕ニ於ケル第二軍ノ態勢並第二軍司令官ノ知得セル比隣軍位置ノ概要附圖第二ノ如シ。

二十七日夕迄ニ軍司令官ハ敵情ニ關シ知得スル所甚タ乏シク、僅ニ二十六日ノ空中搜索ニ依リ(二十七日ハ天候不良)英軍ノ退却カ「サン・カンタン」ヲ一般方向トシテ行ハレ佛第五軍(「サンブル」河畔ノ會戰當時其兵力約四軍團ト五師團ナルヲ確知セリ)カ「ギーズ」イルソン)ノ線ノ南方ニ退却セルコトヲ明ニセルモ、佛軍カ「オアーズ」南岸ニ於テ眞面目ナル新抵抗ヲ試ムヘキヤ、將夕軍ニ後

- (5) Nesle
- (6) le Chesne
- (7) Rumigny

衛ノミヲ殘置シテ主力ノ退却ヲ繼續セシヤニ關シテ的確ナル情報ヲ得ス、午後十時到着セル近衛軍團ノ報告ハ軍ニ獨軍前哨カ「フロアドストレー」附近ニ於テ「エトレオーボン」方向ヨリ砲撃ヲ受ケタルコト竝土民ノ言トシテ諸兵種ヨリ成ル佛軍ノ有力ナル部隊カ「アントル・ドウ・ボア」、「エトレオーボン」間「オアーズ」南岸高地及「オートレツブ」ヲ占領セルヲ報セルノミ。

獨軍司令官ノ判斷ノ變

- (1) Froidstrées
- (2) Etréaupont
- (3) Entre deux Bois
- (4) Autreppe

軍司令官ハ當初敵ノ企圖如何ニ拘ラス「オアーズ」河谷ノ占領ハ必スヤ戰鬪ヲ伴フヘキヲ豫期シ、偵察ノ結果ヲ待ツテ計畫的ニ攻撃スルヲ有利ナリト判斷シ、軍ノ右翼ノミ小距離ノ推進ヲ行ヒ其他ヲ以テ一日ノ停止ヲ行ヒ、併せて第三軍ヲシテ第二軍ニ近接スルノ餘裕ヲ得シメントセシモ、次テ受領セル通報ニ依リ二十八日ニ於ケル兩隣接軍ノ前進方向益々、第二軍ニ離隔セントスルヲ知り、(第一軍ハ左翼ヲ以テ「ソナム」河畔「ネール」ニ向ヒ、第二軍ハ第四軍ニ協力スル爲右翼ヲ以テ「ル・シエーヌ」⁽⁶⁾「リュミニニイ」⁽⁷⁾ニ向ハントス)獨軍ノ作戰計畫ノ根本觀念ニ從ヒ既ニ著シク右前方ニ前進セル第一軍トノ連繫ヲ失ハサルヘキコト

ヲ重視シ、軍ノ右翼二軍團ヲシテ「サン・カンタン」⁽¹⁾「ル・ブチー・ヴェルリイ」⁽²⁾「サン・カンタン」ノ線ニ挺進セシメ、左翼二軍團ヲシテ先ツ「イロン」⁽³⁾小流北方ニ於テ準備姿勢ヲ取ラシムルニ決シ部署スル所アリ。

軍司令官ハ二十八日朝ニ至リ二十七日夕ノ偵察ニ繋ル遲著飛行機報ヲ受領セリ、之ニ據レハ二十七日夕「オアーズ」河ノ線ニハ軍ニ僅少ナル敵ノ後衛部隊アルニ過キス、「ギーズ」、「エトレオーボン」間ノ諸橋梁ハ破壊ヲ免レアルカ如シト。恰モ此日朝霧アリテ飛行機ノ偵察ヲ許サス、此ニ於テ軍司令官ハ軍ノ左翼二軍團ヲ「オアーズ」南岸ニ推進シ且成ルヘク速ニ二軍兩群ノ離隔ヲ閉收セント欲シ命令ヲ以テ前夜ノ部署ニ修正ヲ加ヘタリ。

然レトモ軍司令官ノ意ハ須臾ニシテ更ニ轉セリ、惟ヘラク敵ニシテ若シ「オアーズ」河畔ニ於テ眞面目ナル抵抗ヲ企圖セストセハ、急速ナル退却ノ實施ニ依リ今後モ獨軍ノ銳鋒ヲ免ルヘク、果シテ然ラハ軍ハ何等ノ躊躇無ク猛烈ナル追撃ヲ敢行スルノ要アリト、即チ正午過キ「エトル」⁽³⁾ニ於テ再ヒ命令ヲ發シ右翼

- (1) le Pt. Verly
- (2) Iroi
- (3) Etreux

- (1) Fluquières
- (2) Gd. Seraucourt
- (3) St. Simons
- (4) Ribemont
- (5) Sains

兩軍團ノ前進目標ヲ「フリユキエール」⁽¹⁾「グラン・スロークール」⁽²⁾ノ線ニ變更シ、且其一部隊ヲ派遣シテ「ハム」及「サン・シモン」⁽³⁾附近「ソナム」河ノ渡河點ヲ占領セシメ、同時ニ左方ニ軍團ニ對シテモ「リブモン」⁽⁴⁾東南側ヨリ「サン」⁽⁵⁾ニ互ル線ニ前進ヲ繼續セシメタリ。

軍司令官ハ今ヤ「オアーズ」ノ渡河カ大ナル困難ナク實行シ得ヘク翌二十九日ヲ以テ中央兩軍團ノ各一師團ヲ以テ小要塞「ラ・フェール」ニ對シ攻撃ヲ準備センコトヲ期待セシナリ。

獨二十八日
諸兵團ノ
情況

二十八日第七及豫備第十軍團ハ敵ト會スルコト無ク前進シ、全ク疲勞シテ夜遅ク概ネ新目標線ニ達セリ。

第十及近衛軍團方面ニ於テハ搜索斥候ハ二十八日朝迄ニ一モ「オアーズ」河ヲ越エテ進出セルモノ無ク、諸報告ハ僅ニ敵ノ最前警戒線ヲ想像セシメ得ルニ過キス。

第十軍團ノ步兵第十九師團ノ前衛ハ「オアーズ」河岸ニ於テ豫期ニ反シテ頑強

- (1) Flavigny le Gd.
- (2) Villers les Guise
- (3) Monceau

ナル敵ノ抵抗ニ會シ、激戰ノ後夕刻ニ至リ初メテ「ギーズ」南側ノ高地ヲ占領スルヲ得タリ。師團本隊ハ漸次ニ前衛ノ戰鬪ニ加入シ歩砲兵大部ノ參戰ハ著シク遅延セリ。

同軍團ノ步兵第二十師團ノ前衛ハ午後二時過キ敵ノ抵抗ヲ受クルコト無ク容易ニ「フラヴィニイ・ル・グラン」附近「オアーズ」南岸ヲ占領セシモ次テ熾烈ナル敵砲火ニ依リ全ク制壓セラレ恰モ師團長ノ部署ニ依リ「ヴィレー・レ・ギーズ」南方高地ニ暴露布陣セル主力砲兵亦不明ノ陣地ヨリスル佛軍砲火ニ依リ甚大ナル損害ヲ蒙レリ。

此日師團主力ハ遂ニ前衛ヲ赴援スルコト無ク「オアーズ」北岸ニ止マレリ。

近衛軍團ノ步兵第一師團ハ「モンソー」附近ニ於テ敵ノ抵抗ニ會シ長時ノ渡河戰ヲ演セリ。前衛ハ本隊一部ノ加入ヲ受ケ比較的迅速ニ「モンソー」附近ノ渡河ニ成功セシモ、主力ハ渡河及南岸ノ戰鬪ノ爲午後ノ數時間ヲ消費シ、夜ニ入り全歩兵ヲ南岸ニ移スヲ得タリ。

同軍團ノ步兵第二師團ハ軍ノ左側ヲ掩護スヘキ任務ヲ有セシヲ以テ、此日步兵ノ一部ノミヲ「⁽¹⁾アングランクール」及「⁽²⁾エルロア」附近「オアーズ」ノ南岸ニ進メ、殘餘ヲ以テ同河北岸ニ止マレリ。

二十九日
ノ爲
軍
司令官
ノ
部署

軍司令官ハ二十八日夕軍左翼諸兵團ノ渡河戰ノ眞狀ヲ知得セス、翌二十九日「ラ・フェール」要塞ニ對スル攻撃ヲ準備シツツ「ハム」⁽³⁾「クレシイ」ノ線ニ前進セシコトヲ企圖シ、概要左記要旨ノ部署ヲ爲セリ。

第七軍團並豫備第十軍團右方師團ハ「ハム」及「サン・シモン」附近ノ渡河點ヲ占領ス。

豫備第十軍團左方師團及第十軍團右方師團ハ午前十一時迄ニ「⁽⁴⁾エッシニール・グラン」⁽⁵⁾「⁽⁶⁾ヴィレール・セック」ノ線ニ開進シ「ラ・フェール」要塞北正面ノ攻撃ヲ準備ス。

第十軍團ノ左方師團及近衛軍團ハ「⁽⁶⁾バルブヴィル」⁽⁷⁾「マルフォンテーヌ」ノ線ニ向ヒ前進ス。

- (1) Englancourt
- (2) Erloy
- (3) Crécy
- (4) Essigny-le Gd.
- (5) Villers-le Sec
- (6) Iarpeville
- (7) Marfontaine

夕刻到著セル最高統帥ノ一般訓令ニ據レハ第二軍ハ「ラ・フェール」、「ラーン」ノ線ヲ經テ巴里ニ向ヒ前進スヘシトアリテ、第二軍司令官ノ情況判斷及企圖ニ合致スルモノアルカ如シ。軍司令官ハ此夜第十軍團ノ報告ニ依リ同軍團カ午後六時未タ「ギーズ」及「フラヴィニイ」南側高地ヲ占領スルニ至ラサルヲ知リシモ、夜中ニ命令ノ目標線ニ近接シ得ヘキヲ胸算シ、既ニ發セル軍命令ヲ變更セサリキ。

三、二十九日ノ會戰(附圖第三參照)

二十九日獨右翼諸兵團ハ「ソナム」河及「⁽¹⁾クロザー」⁽²⁾運河「⁽³⁾サン・シモン」附近ヨリ「⁽⁴⁾ラ・フェール」西側ニ通ス、附圖第二參照ノ線ニ向ヒ前進ヲ起セリ。

豫備第十軍團ハ隣接第十軍團既ニ自軍團ト齊頭面迄進出シアルヘシト推測シ、昨夜來「オアーズ」河畔及同河彼岸ニ對シ何等搜索ヲ實施セス。此日朝豫備第十九師團ハ「サン・カントン」東南側ニ於テ行軍ノ爲比較的廣大ナル舍營地ヨリ集合中俄然佛軍ノ有力ナル兵團ニ依リ東方及東南方ヨリ攻撃ヲ受ケタリ。幸ヒ下

獨豫備第十師團
佛軍ヨリ
急襲セラ

(1) Crozat

級指揮官ノ敏活ナル處置ニ依リ破綻ヲ免ルルヲ得シモ、佛軍ハ「モア」⁽¹⁾、「シツシイ」ノ線ヨリ廣正面ニ互リ「サン・カンタン」ヲ一般方向トシテ前進中ナルカ如ク、之ニ對シ獨軍師團ハ「エッシニイ」⁽³⁾、「イタンクール」及「メスニル」⁽⁴⁾附近各所ニ分離シテ對戰シ形勢危殆ナリ。豫備近衛第二師團ハ軍團長ノ部署ニ依リ豫備第九師團ノ南翼ニ招致セラレ次テ參戰セリ。

是ヨリ先軍司令官ハ西南方ニ當リ殷々タル砲聲ヲ聞キツツ「エトルー」ヨリ「サン・カンタン」ニ向ヒ車行シ、午前十一時「オンブリエール」⁽⁵⁾ニ到リ此地ニ於テ諸情報ニ依リ意外ニモ左方兵團ハ尙「オアーズ」河畔ニ止マリ今ヤ軍ノ全正面ニ互リ激戰ノ進行中ナルヲ知り驚愕ノ念ヲ禁スル能ハサリキ。軍司令官ハ今ヤ軍ハ佛軍ノ反撃ニ對シ二群ニ分離シ、一ハ「オアーズ」北岸上ニ東面シ、他ノ一ハ同河南岸上ニ南面シテ交戰中ナルヲ知得シ、敵力兩群ノ中央部ノ間隙ニ向ヒ突破ヲ企圖スヘキヲ憂慮シ、午後十二時四十五分當時尙「ボーアン」ヨリ「サン・カンタン」ニ向ヒ前進中ナリト思惟セラレシ步兵第十三師團(半部欠)ニ命スルニ即

- (5) Homblières
- (6) Bohain

- (1) Moy
- (2) Sissy
- (3) Itancourt
- (4) Mesnil

軍司令官

步兵第十師團ヲ
致戰場ニ招
全線ニ於
テ激戰進
行ス

(1) Marcy

時東方ニ旋回シ「マルシイ」東北ニ於テ準備態勢ヲ取ルヘキヲ以テセリ。軍司令官ハ「オンブリエール」東側ニ止マリ爾後ノ數時間中ニ漸次四十五吉ノ廣正面ニ擴張セル會戰ノ現況ニ關シ其大勢ヲ明ニスルヲ得タリ。即チ豫備第九師團ノ左翼ハ「メスニル」東側附近ニ於テ優勢ナル敵ノ攻撃ヲ受ケテ苦戰シ又「オアーズ」南岸ニ於テハ第十軍團及近衛軍團ハ少クモ三軍團ヲ算スル敵ノ頑強ナル抗戰ヲ受ケ一般ニ停止ノ状態ニ在リ、第十軍團ノ右翼ハ尙「モンドリニイ」北方ニ在ルカ如クナルモ近衛軍團方面ノ戰況ニ關シテハ明瞭ヲ缺クモノアリ。

軍司令官
步兵第十師團ヲ
致戰場ニ招

右ノ情況ニ於テ軍司令官ハ自力ヲ以テ此不期戰ヲ解決スヘク決シ、目下尙本隊ヲ以テ「ソナム」河畔「ハム」北方ニ在リト豫期セラレシ步兵第十四師團ヲモ招致セントシ、第七軍團長ニ命スルニ第十四師團ヲシテ「マルシイ」方向ニ反轉シ第十三師團、第十軍團間ノ間隙部ニ於テ參戰セシムヘク命セリ。一時危殆ナリシ豫備第十九師團ノ戰況ハ既述兵團其兩翼ニ參戰スルニ及ヒ危

機ヲ一掃シ得タルノミナラス夕刻ニ至ツテハ當面佛軍ノ退却ニ尾シテ「オアーズ」西岸ノ線ヲ占領スルヲ得タリ。

軍司令官
第七軍團
長間意見
ノ相違

第七軍團長ハ午後三時半步兵第十四師團ヲ「オンブリエール」方面ニ轉進セシムヘキ軍命令ヲ受領セシモ、師團ノ現位置（既ニ「ハム」南方ニ進出ス）ニ鑑ミ「ラ・フェール」南方ヨリ佛軍ノ左側背ニ迫ルヲ有利ナリト認メ、直ニ命令ヲ履行セス、幕僚數次ノ折衝ヲ重ネ初メテ承服シ從テ師團ハ夜遅ク所命ノ方向ニ轉進ノ途ニ就ケリ。

歩砲ノ協
同適切ニ
行ハレス

「オアーズ」南岸ニ於テモ敵ノ位置及兵力ニ關スル情報ハ甚タ不確實ニシテ攻撃ハ豫期ニ反シ有力ナル佛軍ト衝突シ該佛軍ハ戰鬪經過中不斷ニ兵力ヲ培養シテ數上ノ優勢ヲ示シ、其一部ハ攻勢的ニ戰鬪ヲ遂行シ、而モ當面敵ノ兵力ハ「オアーズ」西岸ニ於ケルヨリモ一層強大ナリト目セラレタリ。本戰鬪間獨軍ノ歩砲協同ニ關シテハ適切ナラサルモノ少カラス、而モ敵砲火熾烈ナリシヲ以テ步兵ハ砲兵ノ協力無クシテ戰鬪セルヤノ印象ヲ受ケタリト云フ。斯クテ二十九日夜

第十軍團及近衛軍團ハ概ネ「モンドリニイ」⁽¹⁾「ヒュイジュー」⁽²⁾「ルメ」⁽³⁾「ヴールベ」⁽⁴⁾「オーション」ノ線ニ在テ夜ヲ徹セリ。

軍司令官
攻撃繼續
ノ決心
（二十九
日夜）

飛行機報ニ據レハ敵ハ「セール」川北方地域ニ尙戰鬪ニ使用セサル兵力ヲ有スルカ如シ、軍司令官ハ情況ノ如何ニ關セス翌日攻撃ヲ續行シ企圖スル決戰ヲ促進シ、此際主攻撃ヲ右方兵團方面ニ導クニ決セリ。而シテ此攻撃ニ當リ「ラ・フェール」南方ヨリ迂回的ニ包圍ヲ行フニ於テハ益々大ナル效果ヲ呈スヘキモ、軍司令官ハ斯ノ如キ戰略的考慮ヲ重視セス、寧ろ戰術的勝利ヲ獲得スルヲ急務トセルカ如シ。

軍司令官
第一軍團
ヲ援助ヲ
請フ

(1) Puisieux
(2) Lemé
(3) Voulpaix
(4) Haution

軍司令官ハ翌日ノ決戰ノ爲第二軍ノ全力ヲ使用スルノミナラス、第一軍一部ノ協力ヲモ最希望スヘシト爲シ、同軍ニ援助ヲ請ヒ、當日夕「サン・カンタン」西方ニアリト思惟セラレシ同軍ノ步兵第十七師團ヲ左右兩兵團ノ中央間隙部ニ招致スルノ處置ヲ取レリ、此結果トシテ步兵第十四師團ハ曩ニ命令セシ如ク「オンブリエール」方面ニ招致スルコト無ク豫備第十軍團ノ南翼附近ニ使用スルコト

ニ變更シ、敍上ノ企圖ニ基キ翌日ノ命令ヲ下セリ。

二十九日夕ニ於ケル近衛軍團ノ形勢ニ於テ、司令官ノ精神的緊張力ハ更ニ尙幾多ノ難題ヲ解決スルヲ要セリ、午後九時近衛軍團連絡將校ノ言ニ據レハ「同軍團ノ戰況甚タ困難ニシテ軍團ハ十八吉ニ互ル異常ノ廣正面ニ於テ優勢ナル敵ト對戰シ且損害大ナリ」ト、次テ步兵第十九師團ニ於テ俘虜トナレル佛第三軍團參謀長カ携帶セシ佛第五軍命令ノ紙片齎サレシカ、之ニ據レハ敵ノ主攻擊ハ本來三個軍團ヲ以テ「サン・カンタン」方向ニ企圖セラレ、軍ノ總兵力十三師團ニシテ内八師團ハ獨第十軍團及近衛軍團ノ正面ニ向ヘルヲ知レリ。

軍司令官ハ翌日ニ於ケル軍ノ苦戰ヲ豫期シ、就中左方二軍團ヲシテ敵ノ優勢ニ對シ防禦ニ固著セシムヘキヤ、或ハ「オアーズ」右岸ニ後退セシムヘキヤノ問題ヲ考慮セシカ、結局一タヒ決セシ攻撃ノ企圖ヲ固執スルヲ得タリ。

四、三十日ノ會戰繼續

佛軍ノ攻勢的動作先ヲ制スルニシテ、翌三十日佛軍ハ拂曉ヨリ其北方面ノ全線ヲ舉ケテ獨第十軍團及近衛軍團ヲ攻撃セシモ、其攻撃ハ稍々統一ヲ缺キ到ル處多クハ既ニ中距離ノ防禦火力ニ依リ擊退セラレタリ。然レトモ午前八時頃トナルヤ、佛軍砲火ハ熾盛ノ度ヲ高メ新ニ總攻撃ヲ準備スルモノノ如ク、獨兩軍團ハ此攻勢ニ機先ヲ制セラレ其前進運動ヲ見合ハスニ至レリ。而シテ午前中ハ兩軍間ニ熾烈ナル砲戰行ハレタルノ

ミニシテ遂ニ佛軍ノ攻撃ヲ見ルコト無ク經過セリ。第十軍團長ハ步兵第十三師團カ「リュシイ」、「モンドリニイ」間「オアーズ」河畔ニ到著セリトノ報ヲ得、午前十一時二十分初メテ麾下兩師團ニ攻撃前進ヲ命シ、近衛軍團長亦午後一時頃機到レルヲ見攻撃前進ヲ命セリ。

(1) Lucy

獨軍ノ攻勢的動作先ヲ制スルニシテ、翌三十日佛軍ハ拂曉ヨリ其北方面ノ全線ヲ舉ケテ獨第十軍團及近衛軍團ヲ攻撃セシモ、其攻撃ハ稍々統一ヲ缺キ到ル處多クハ既ニ中距離ノ防禦火力ニ依リ擊退セラレタリ。然レトモ午前八時頃トナルヤ、佛軍砲火ハ熾盛ノ度ヲ高メ新ニ總攻撃ヲ準備スルモノノ如ク、獨兩軍團ハ此攻勢ニ機先ヲ制セラレ其前進運動ヲ見合ハスニ至レリ。而シテ午前中ハ兩軍間ニ熾烈ナル砲戰行ハレタルノミニシテ遂ニ佛軍ノ攻撃ヲ見ルコト無ク經過セリ。第十軍團長ハ步兵第十三師團カ「リュシイ」、「モンドリニイ」間「オアーズ」河畔ニ到著セリトノ報ヲ得、午前十一時二十分初メテ麾下兩師團ニ攻撃前進ヲ命シ、近衛軍團長亦午後一時頃機到レルヲ見攻撃前進ヲ命セリ。實際ニ於テ兩軍團ノ攻撃前進ハ遲滯シ第一線ハ尙長時間ニ互テ準備砲擊ノ最重安ナルコトヲ痛感セリ。斯クテ步兵第十九師團ハ午後二時三十分、同第二十師團ハ更ニ著シク遅レテ前進ヲ開始シ、昨日勇戰セシ近衛步兵第一師團ノ第一線亦漸ク午後三時三十分乃至四時ノ頃ヲ以テ前進ヲ起セリ、蓋シ前日來ノ戰鬪

及大ナル損耗ノ結果トシテ軍隊ノ疲勞ト志氣ノ沈滯トノ致ス所ナリ。

五、會戰ノ終局

佛軍巧ニ退却ス
是ヨリ先佛軍ハ既ニ此正面ニ於テ巧妙ナル指揮ノ下ニ退却ニ就ケリ、即チ同軍ハ比較的少數ノ砲兵ヲ以テ多量ノ彈藥ヲ使用シ且全線ニ散兵幕ヲ殘置シテ長時ニ互リ企圖ヲ祕匿スルヲ得タリ。

(1) Mezières

獨軍右方諸兵團(第十七師團ヲ除ク)ハ第七軍團長ノ統一指揮ノ下ニ「メジエール」以北ノ正面ヨリ「オアーズ」谷地ヲ越エ敵ヲ攻撃スヘク部署セラレシモ、攻撃諸準備(諸偵察、砲戰等)ニ多大ノ時間ヲ徒費シ午後ニ入りテ初メテ攻撃ノ實行ヲ見タリ。而シテ「リブモン」方面ニ於テハ多數兵團僅少ナル渡河點ヲ經テ進出セシカ爲部隊ノ混淆ヲ惹起セシモ、結局午後四時ニ至リ敵ノ抵抗ヲ打破シ「リブモン」ヲ占領スルヲ得、夕刻ニ至リ漸ク此方面一帶ノ殘敵ヲ掃蕩セリ。午後一時乃至四時ニ互リ飛行機報ハ「セール」河谷ニ向フ敵ノ退却ヲ報セシモ、軍司令官ハ砲兵及行李ヲ有セサル輕快ナル步兵部隊ノミヲ以テ努メテ遠ク敵

狭小ナル地域ニ多數ノ兵團ヲ集注シテ來タス

軍司令官主力ヲ追撃ス

(1) Crépy
(2) Vervins
(3) Tavaux

佛軍總退却ノ動機

ヲ追撃セシメ、主力ヲ以テ三十日及三十一日戰場附近ニ休宿スルノ決心ヲ執レリ。斯ノ如キ決心成立ノ動機ハ一ハ軍隊ノ異常ナル疲勞ヲ顧慮セル結果ニシテ他面ニハ「ラ・フェール」要塞ノ價值ヲ重視シ敵カ「ラ・フェール」、「ラーン」兩要塞ニ依托シテ再ヒ新正面ヲ形成スヘキカ故ニ先ツ「ラ・フェール」ニ對シテ砲撃ヲ加フルノ要アリト爲セル判斷ニ基クモノナリ。夕刻遅ク到著セル飛行機情報ニ據レハ「敵ノ一般退却方向ハ「ラーン」⁽¹⁾「クレピイ」⁽²⁾「ラ・フェール」間ノ地區ニ向フコト確實ニシテ、其一部ハ「ヴェルヴァン」ヨリ南方「タヴォー」ニ向ヒ背進中ニ在リ、而シテ退却一般ノ狀態ハ良好ナル秩序ノ下ニ行ハレアルカ如シ」ト、實際ニ於テ佛軍總退却ノ動機ハ主トシテ友軍トノ戰略關係ニ依リ、當面ニ對シテハ尙交戰餘力ヲ有セリ。而シテ二十九日「サン・カンタン」方向ニ向フ主攻撃ノ失敗セシハ「ギーズ」方面ヨリスル獨軍ノ攻撃ノ爲突破正面ノ右側背ニ脅威ヲ感シタルニ因レリ。

會戰ノ成續

獨軍ハ本會戰ニ於テ僅ニ四門ノ火砲ト千七百以下ノ捕虜ヲ獲得セルニ過キズ、

第三一九一四年八月獨佛國境會戰後ニ於ケル「サン・カンタン」附近獨第二軍ノ遭遇戰

而モ其損害ハ著大ニシテ左方群ノミニテモ各軍團共ニ將校以下三千餘ニ達セリ。

六、本會戰ニ關スル觀察

1 意志力

本會戰ハ大兵團不期遭遇戰ノ一例トス(獨軍トシテ)。搜索ノ不備、各種ノ錯誤、連絡上ノ缺陷等相俟ツテ軍司令官以下ノ情況判斷ヲシテ正鵠ヲ逸セシメ其指揮ヲ困難ナラシメタリ、此種戰鬪ニ於テ指揮官ノ精神力ヲ要スルコト頗ル大ナルヲ想見シ得ヘシ。

2 威力搜索

二十七日乃至二十八日「オアーズ」河畔ニ於ケル步騎兵ノ搜索成果ハ敵軍配備ノ外廓ニ觸ルルノミニシテ内部ノ状態ニ及ハサリキ天候、地形等ノ關係不利ナルモノアリタリトハ謂ヘ火器效力發達ニ基ク輓近ノ一現象ナリ、將來小部隊ノ攻撃動作ニ依リ(要スレハ一部ノ砲兵ヲ使用シ)搜索目的ノ達成ヲ計ル

ヘキ場合少カラサルヘシ。

3 戰鬪ノ爲ノ前進

獨軍ノ「オアーズ」渡河ハ意外ニ頑強ナル敵ノ抵抗ニ遭遇シ大ナル犠牲ヲ拂ヘリ、蓋シ不準備ナル前進ノ結果タラスンハアラス若シ獨軍ニシテ豫メ師團毎ニ大部ノ砲兵ヲ展開シ其掩護下ニ「オアーズ」渡河ヲ敢行シ爾後ノ前進亦相當ノ準備ヲ以テ整然ト行フカ如クセハ實際ニ比シ遙ニ好結果ヲ得タルナラン。

4 大局ノ達觀

二十九日正午頃獨第二軍ハ左右ニ大群ニ分離シ左方群ハ戰鬪正面擴大シ直ニ徹底的ニ重點ヲ作爲シテ強力ナル攻撃ヲ遂行スルニ適セス、右方群ハ優勢ナル敵ノ急襲的壓迫ノ下ニ而モ旋回行動ヲ行ヒ尙東面シテ戰線ノ構成中ニ在リスノ如キ情況ニ於テ兩群間ノ間隙十五吉ニ達シ獨軍ノ形勢一時重大ナル危機ニ逢著セルハ之ヲ否認スルヲ得ス、故ニ軍司令官カ第一著ノ處置トシテ歩兵第十三師團ヲ該間隙部ニ招致シ敵軍突破ノ危險ヲ防止セントセシハ

蓋シ正當ナリ。然レトモ遠ク右翼前ニ挺進セル步兵第十四師團ヲモ中央間隙部ニ招致セシハ當時ノ實況ニ合セサルノミナラス受働消極ニ過キタリ、宜シク第七軍團長ノ意見ノ如ク同師團ヲ作戰上最有效ナル方向ニ使用シ更ニ第一軍ノ一部ヲモ同一方向ニ轉向セシムル如ク努力シ敵ヲ捕捉シテ可及的大打撃ヲ加フルノ著意無カルヘカラス、是レ獨軍作戰計畫ノ根本觀念ニ合致スルモノニシテ佛第五軍ヲ逸スルコト無カラシメンカ爲ニハ一部正面ノ部分的敗戦ノ如キ敢テ意ニ介スルヲ要セサルヘシ。

之ヲ要スルニ此種遭遇戦ニ於テハ屢々局部ノ戰勢急迫ヲ告クルコトアルヲ以テ應急的處置ヲ要スルコトアルモ爾後成ルヘク速ニ受働ノ態勢ヲ脱シテ先制ヲ回復シ此際局部ノ狀態ニ拘束セラルルコト無ク大局ヲ遠觀シ兵團ヲ部署スルコト必要ナリ。

5 兵力過度ノ集團

三十日ノ爲軍司令官ノ部署ハ「セリイ・レ・メジエール」ヨリ「モンドリニイ」ニ

(1) Sery-les Mezières

互ル約十吉ノ正面ニ四師團半ヲ使用セリ。斯ノ如キ兵力過度ノ集團ハ「オアーズ」河谷ノ地形攻者ニ不利ナルト相俟ツテ特ニ大ナル效果ヲ發揮セス、實際步兵第十七師團及步兵第十四師團ノ如キハ軍ニ一部ヲ參戰セシメ得タルニ過キス。凡ソ殲滅戦ノ指導ハ軍ニ攻撃前敵ノ正面ニ過度ニ兵力ヲ集團スルコトニ依ツテ得ヘキニアラス、獨舊參謀總長「シュリーフェン」元帥ノ如キモ其著ニ於テ屢々此弊ヲ指摘セリ。

6 中央突破

單純ナル中央突破ノ遂行カ如何ニ困難ナルヤハ佛軍ノ「サン・カンタン」ニ向フ主攻撃カ獨軍ヨリ右側ノ脅威ヲ受ケ容易ニ挫折セシニ見ルモ明ナリ。

7 包圍

以上佛軍中央突破企圖ノ失敗ニ鑑ミ又獨第二軍カ既述ノ如クシテ局部ノ戰況ニ拘束セラレ正面展開ノ迅速ヲ競ヒ遂ニ佛第五軍ヲ逸シタルニ觀ル時ハ大兵團ノ不期遭遇戦ニ在リテモ尙且包圍ニヨリテ決勝ヲ求ムルヲ有利トス

ル所以ヲ首肯シ得ヘシ。

8 歩砲ノ協同

本會戰ニ於テ獨軍力優勢ナル佛軍ニ對シ勇戰能ク勝勢ヲ持シタルハ平時練成ノ美果ナリト謂フヘシ、然レトモ其戰鬪指揮ハ未タ近代戰ノ要求ニ合セサルモノアリ就中歩砲兵協同ノ點ニ於テ然リトス、二十九日ノ戰鬪ニ於テ歩兵ヲシテ不十分ナル砲兵協力下ニ獨リ攻撃ノ慘苦ニ暴露セシメシ結果ハ、反動トシテ攻撃精神ノ萎靡トナリ遂ニ二十日ニ於テ適時攻撃前進ニ進發セシムルヲ得サリキ、統帥者トシテ注意スヘキ件ナリ。

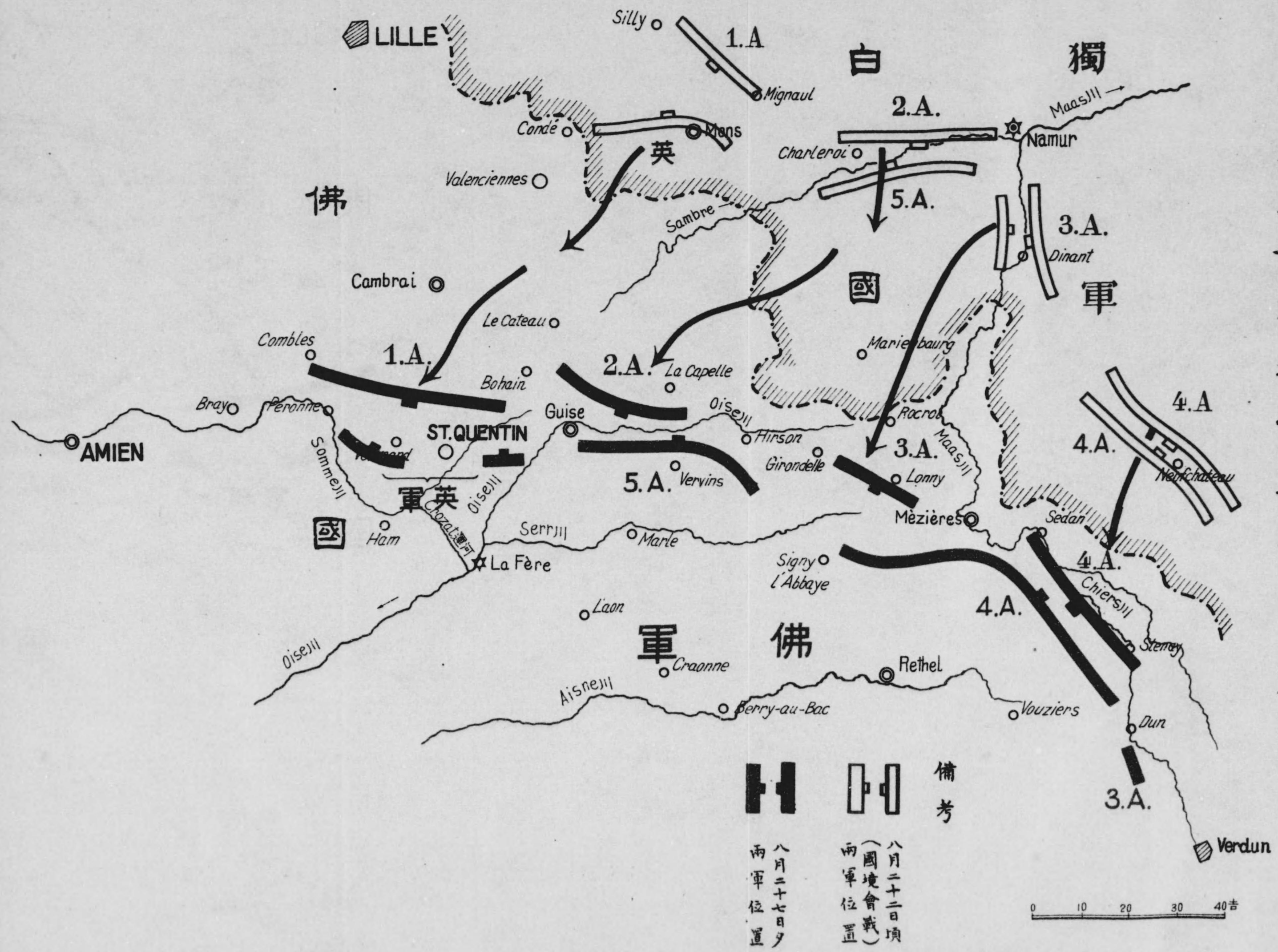
9 追 擊

獨軍司令官ハ會戰後ノ戰略追擊ヲ斷念セシモ戰勝ノ成果ヲ得ンカ爲斷然追擊ヲ敢行スルノ要アリ、甚大ナル犠牲ヲ拂ヒシ本會戰ノ成果トシテ火砲ノ鹵獲四門、俘虜ノ獲得一、七〇〇名ハ餘リニ貧弱ナリ、三十日ノ情況ニ於テ歩兵第十四、第十七師團等有效ニ正面戰鬪ニ參與シ得サル兵團ハ宜シク「オアーズ」西岸ヨリ側方追擊ニ任セシムヘキナリ。

カノエソダン會戰後ニ於テ(八月二十日)地圖

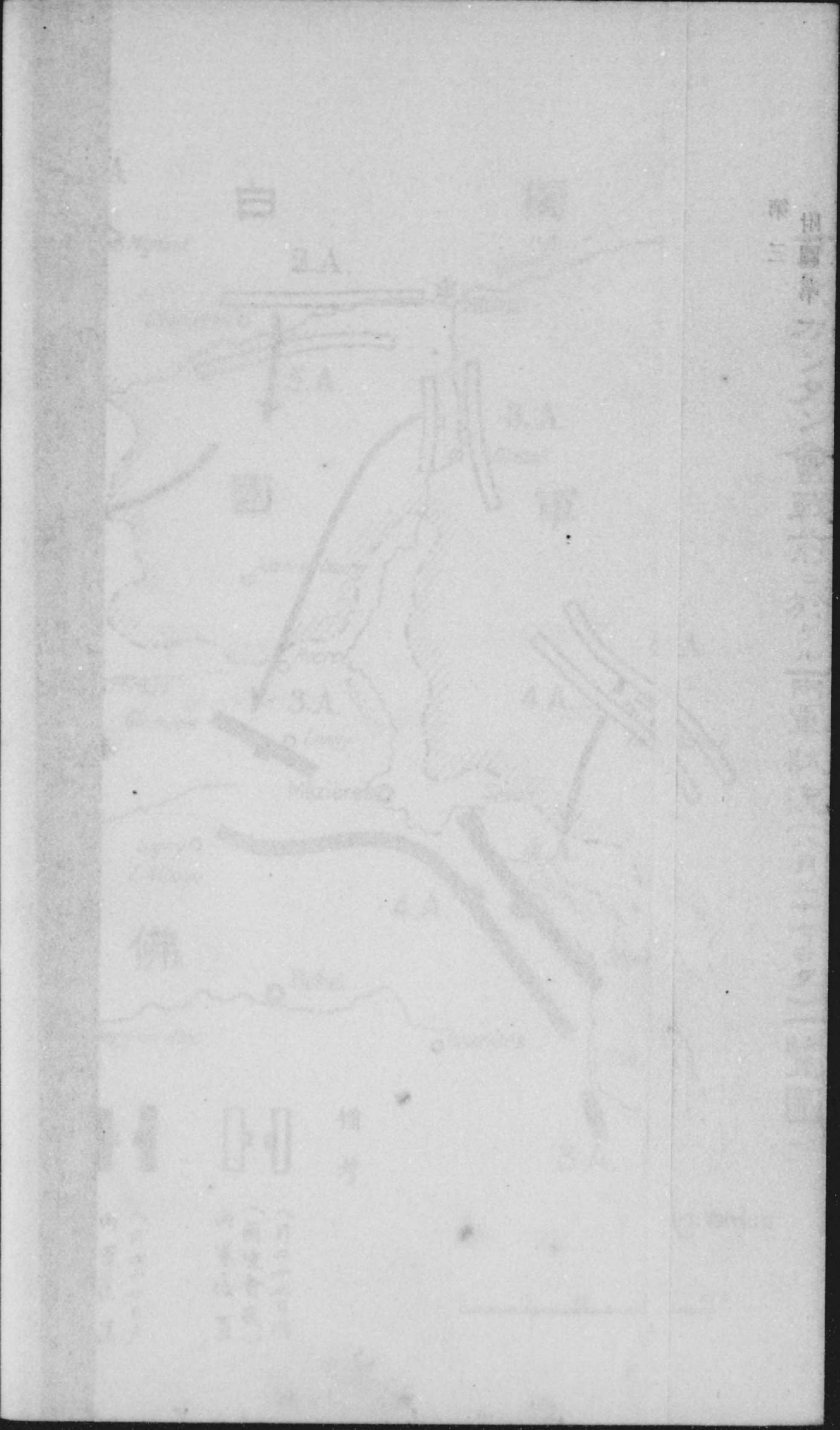
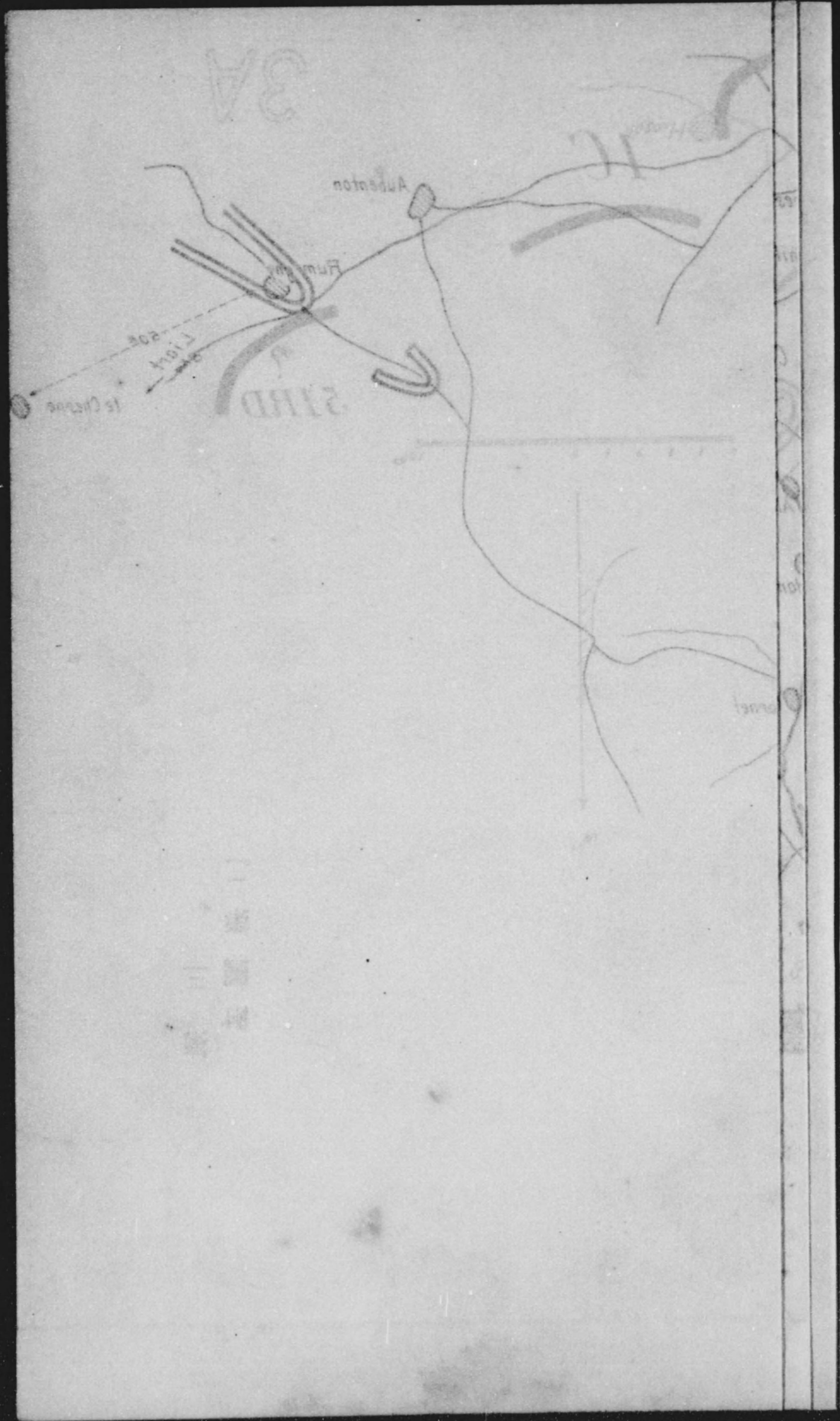


サン、カンタン會戰前ニ於ケル(兩軍狀況(八月二十七日夕)一覽圖

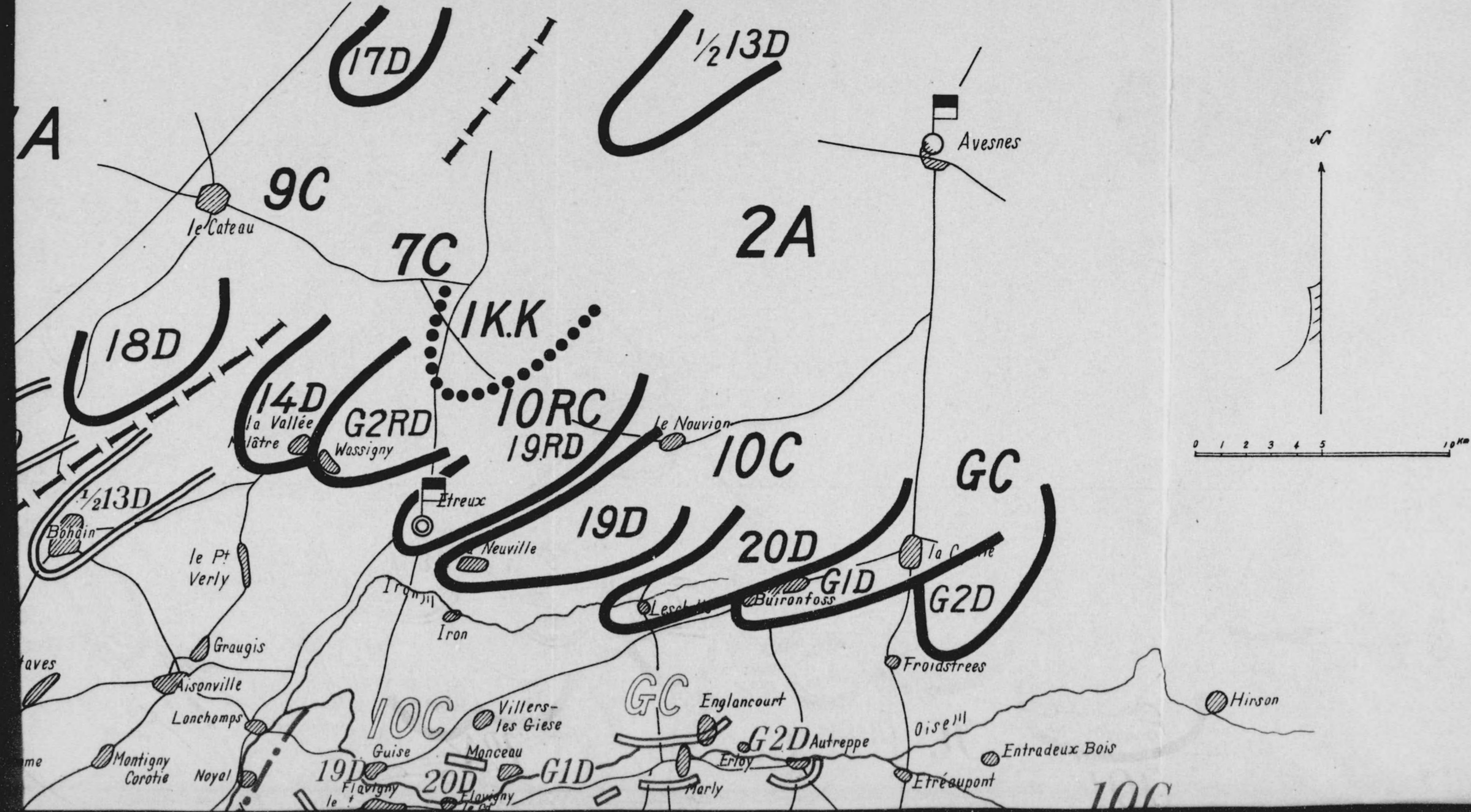


備考
八月二十七日夕
兩軍位置
八月二十二日頃
(國境會戰)
兩軍位置

0 10 20 30 40 吉



立ノ軍兩佛獨ルケ於ニ前鬪戰



第三
附圖
第二

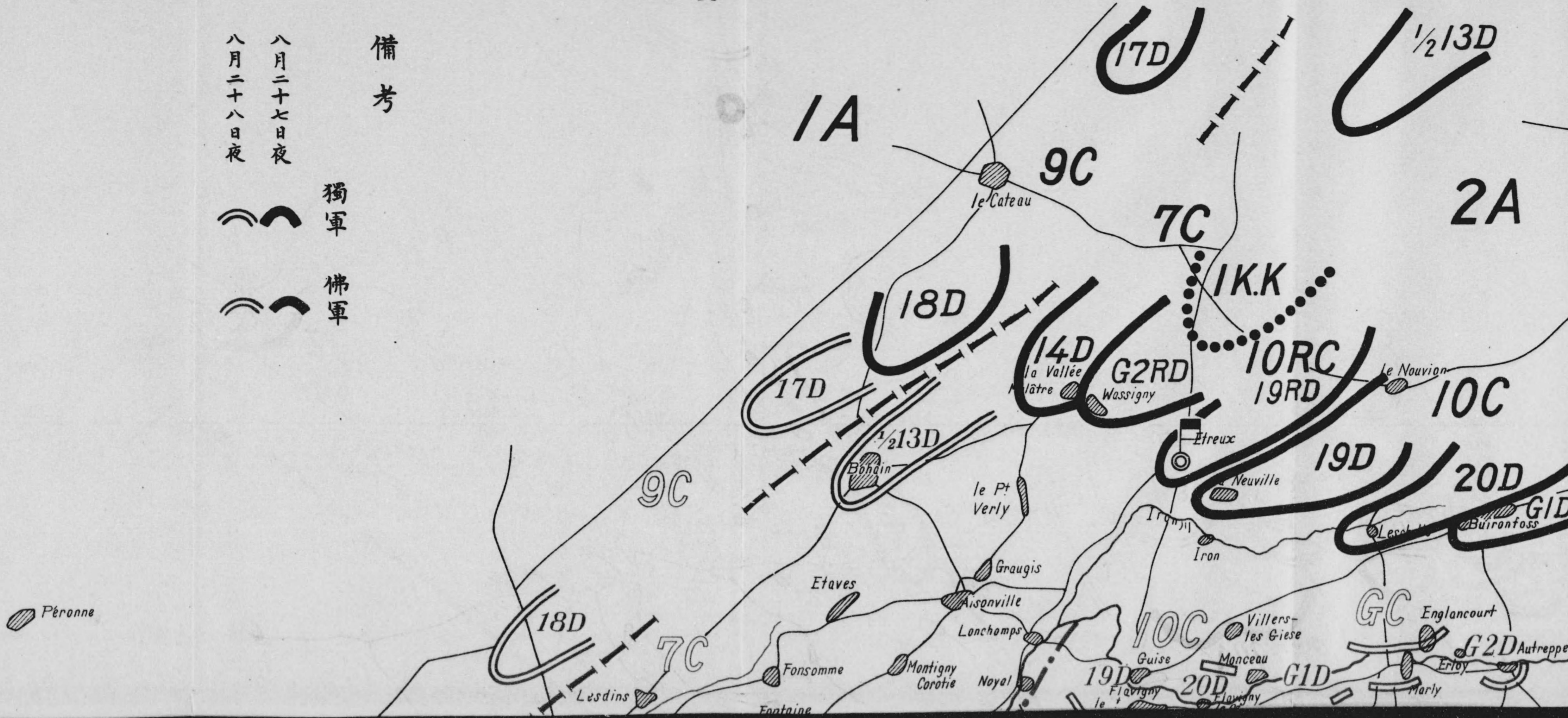
3A

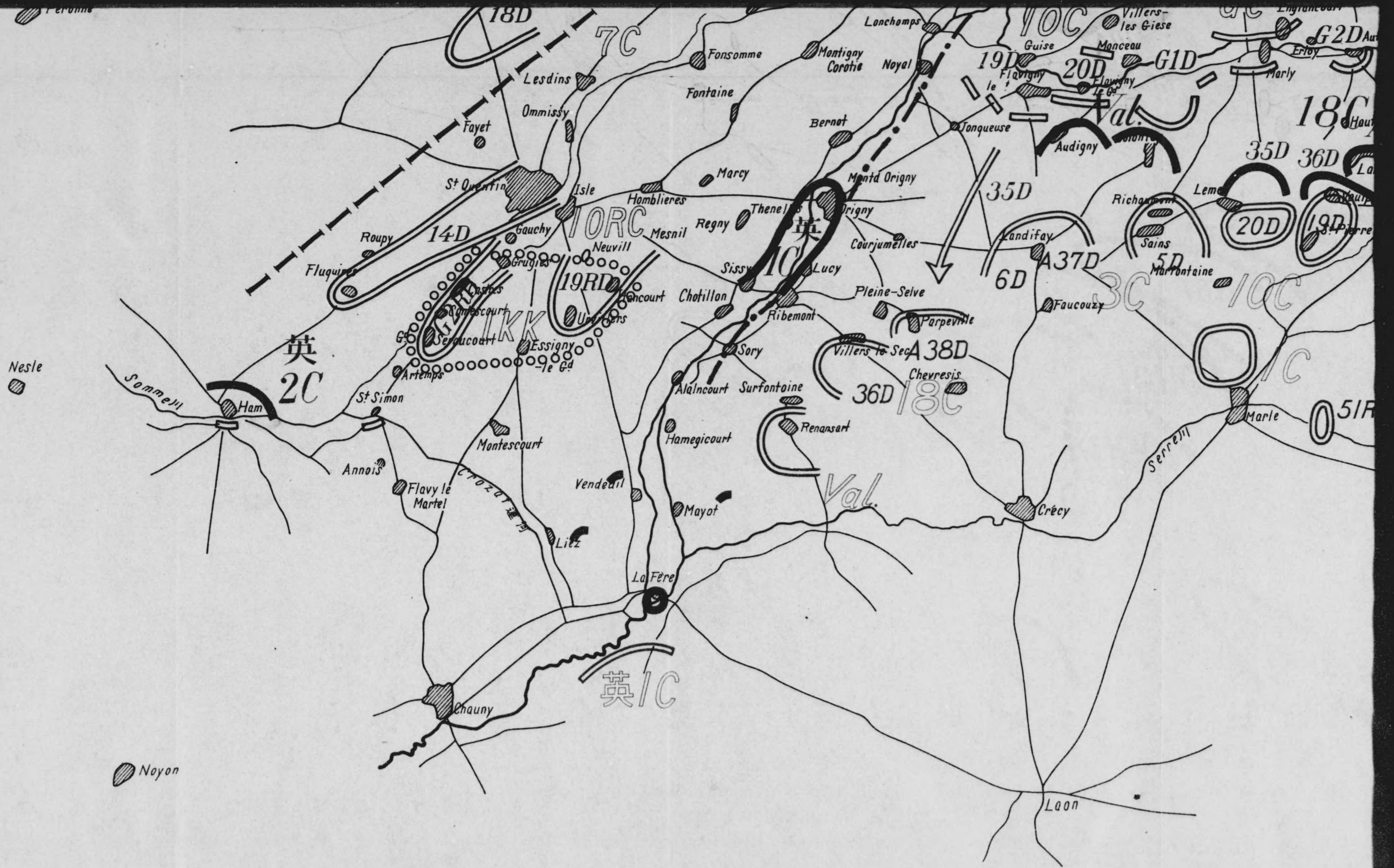
圖要置位ノ軍兩佛獨ルケ於ニ前鬪戰

八月二十七日夜
八月二十八日夜

備考

獨軍
佛軍





Nesle

Noyon

英 2C

英 1C

Laon

Serreuil

Crécy

Mayot

Litz

Chauny

Flavy le Martel

St Simon

Seroucourt

Essigny-le Grand

Ufflers

Gauchy

Roupy

St Quentin

Omissy

Fayet

Lesdins

Fontaine

Fonsomme

Bernot

Lonchamps

Montigny Corotie

Noyal

Flavigny le Grand

Guise

Manceau

Villers-les-Gise

Audigny

Jonqueuse

Montd Origny

Origny

Courjumelles

Pleine-Selve

Parpeville

Villers le Sec

Chevresis

Renansart

Hamegicourt

Alaincourt

Sory

Ribemont

Sissy

Thenelles

Regny

Mesnil

Homblieres

Neuvill

Isle

Hamblies

Fontaine

Marle

Faucouzy

Landifay

Sains Marontaine

Richampvill

Lema

Marly

Erlay

Englancourt

51R

10C

3C

6D

A37D

35D

18C

G2D

G1D

35D

6D

A38D

36D

18C

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

Val.

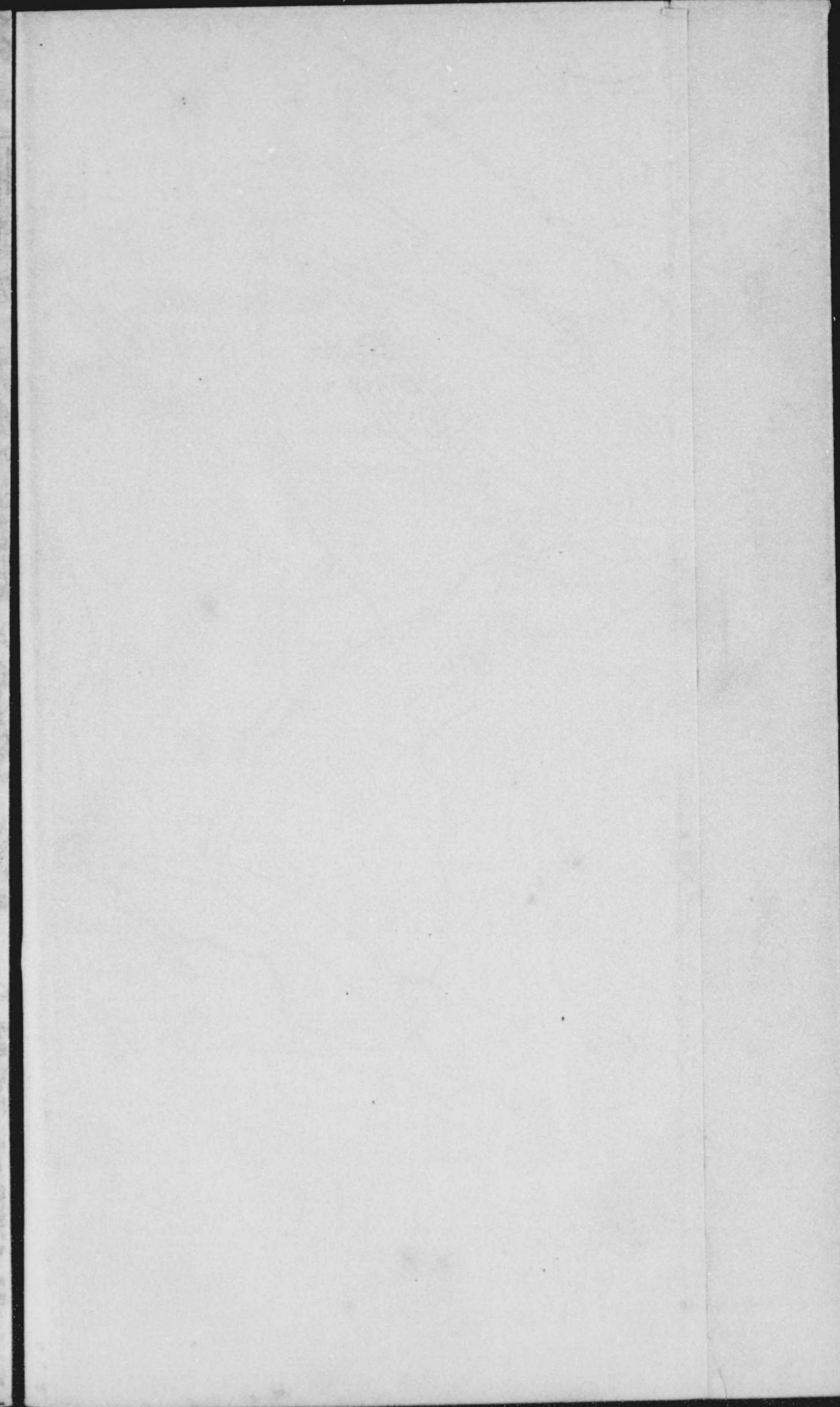
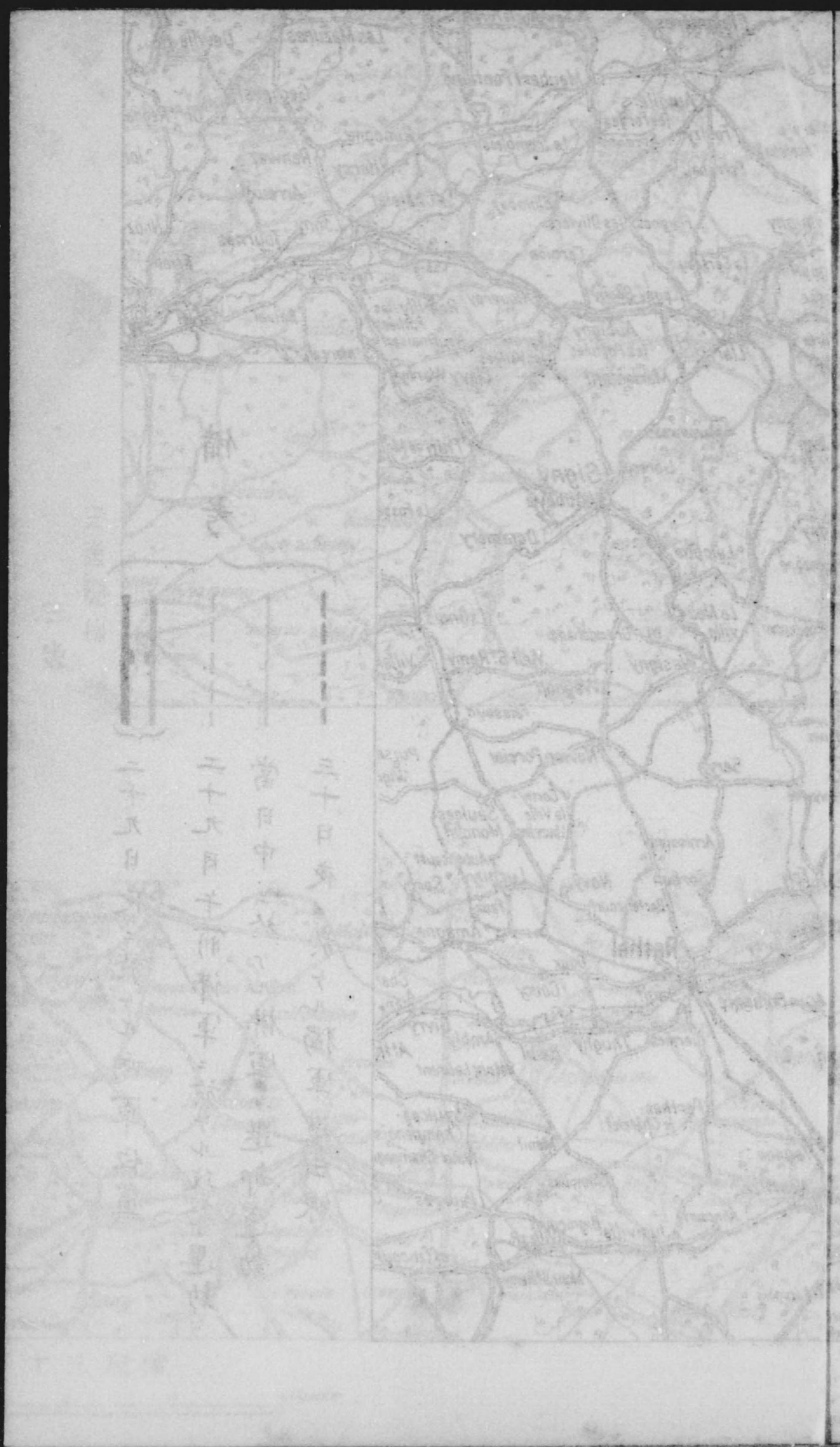
Val.

Val.

Val.

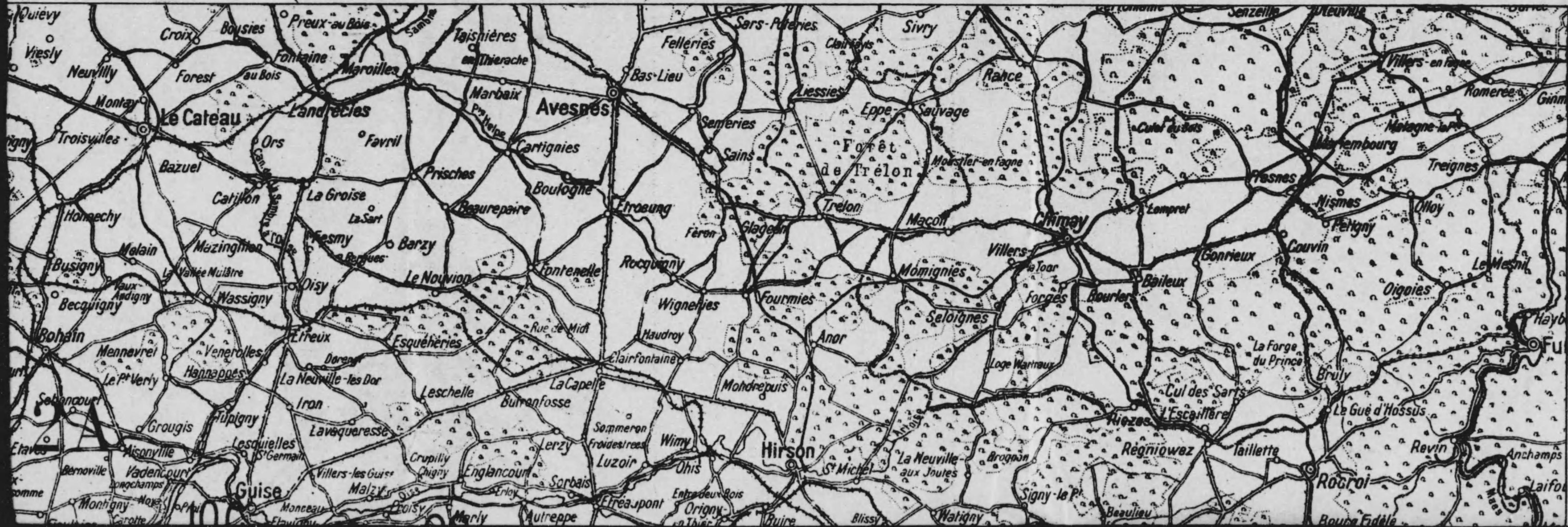
Val.

Val.



(其二)圖要戰會近附ンタンカ.ンサ

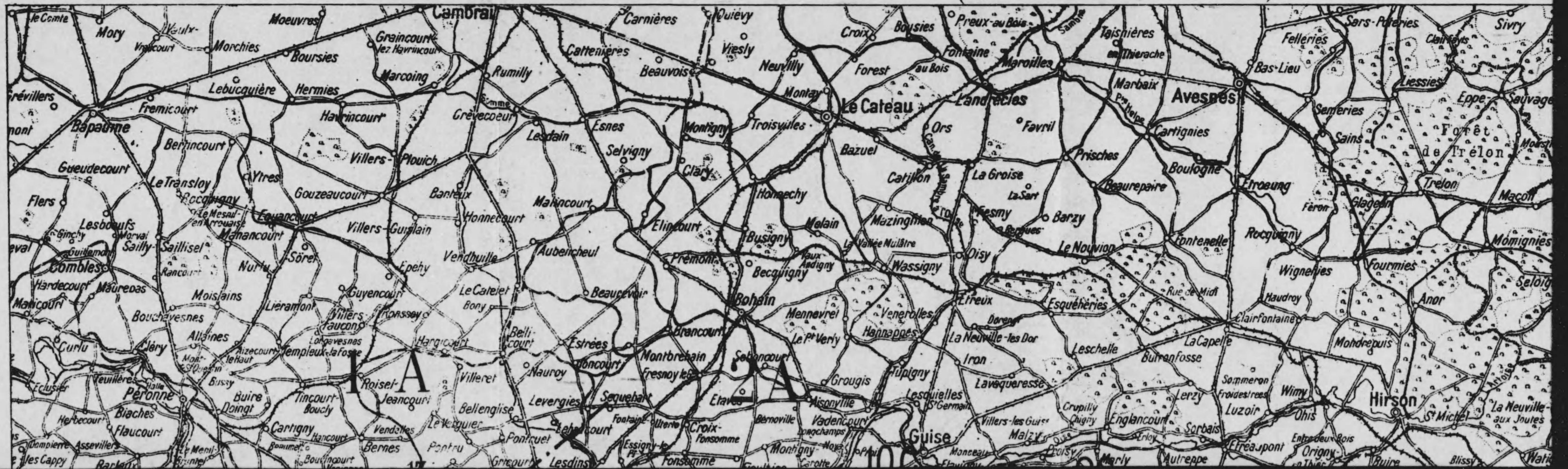
(況状ルケ於ニタ日九十二)

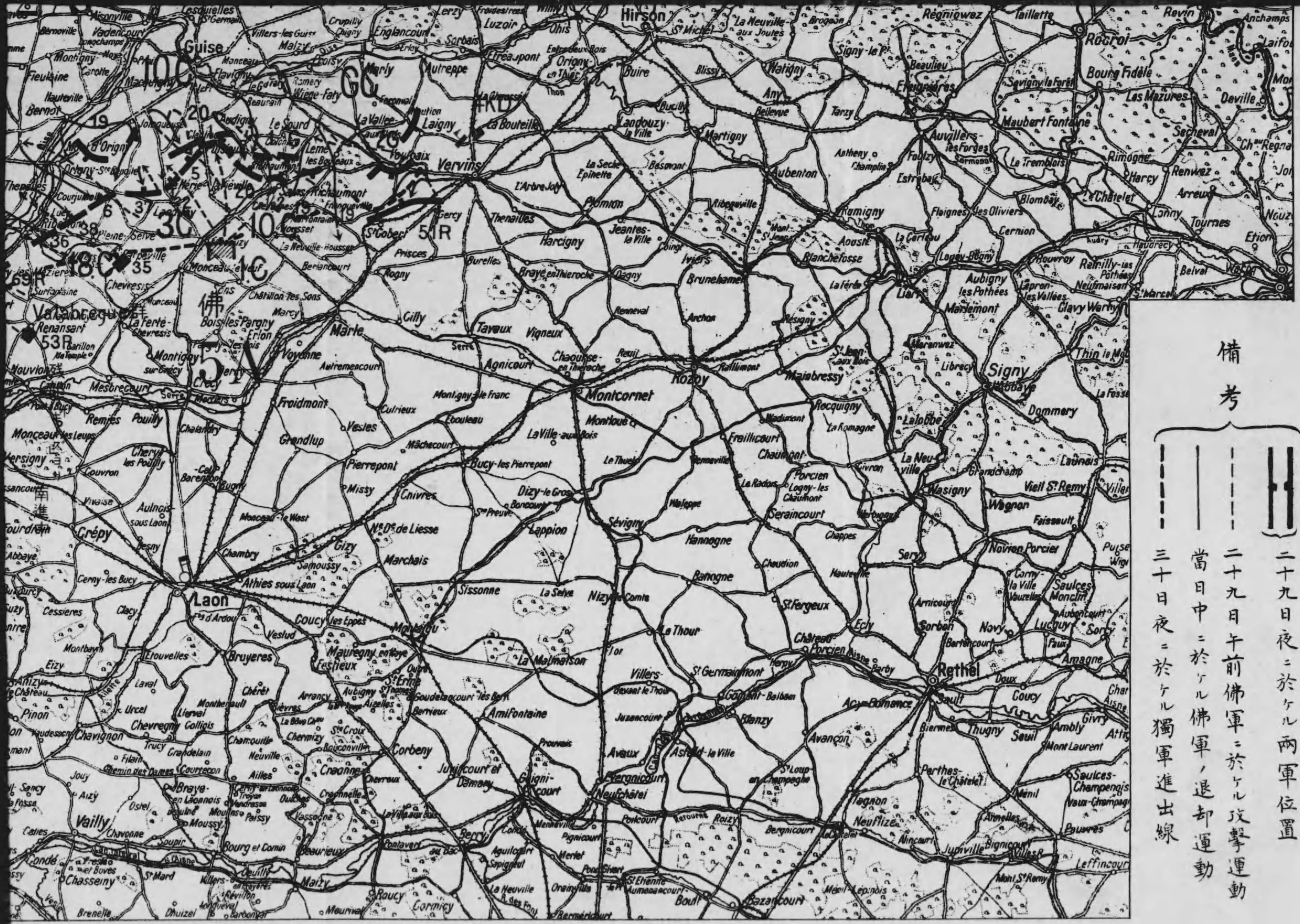


第三
附圖第三

(二其) 圖要戰會近附、ンタンカ、ンサ

(況狀ルケ於ニタ日九十二)





備考

二十九日夜ニ於ケル兩軍位置
 二十九日午前佛軍ニ於ケル攻撃運動
 當日中ニ於ケル佛軍ノ退却運動
 三十日夜ニ於ケル獨軍進出線

一ノ分万十三尺楯



第四 一九一四年東普「グンビンネン」附近ニ於ケル獨第
 十七軍團ノ遭遇戰

一、一般情況ノ梗概及戰鬪ノ端緒(附圖第一、第二參照)

一九一四年八月獨第八軍ハ露ノ第一軍(「ニーメン」軍)東普東境ヲ越エテ侵襲ス
 ルヲ知り、攻撃ノ目的ヲ以テ軍主力(第一、第十七、豫備第一軍團及豫備第三師
 團)ヲ「グンビンネン」及「アンゲラップ」河畔ニ集結シ、十九日朝以來附圖第一ノ
 態勢ニ在ツテ攻撃ノ機ヲ窺ヘリ、當面ノ露軍ハ既ニ其北翼ヲ以テ著シク獨第一
 軍團ノ陣地ニ近接シアリ。

獨軍司令官ハ有力ナル敵ノ一兵團「グンビンネン」⁽³⁾「スタルベーネン」街道附近
 ニ在リ、其右翼ヲ以テ獨軍ニ近接シ「マルウイシユケン」方面ヨリ包圍攻撃ヲ準
 備シツツアルモノノ如ク、別ニ一師團半乃至二師團ノ敵「ゴルダーブ」附近ニ在
 リテ「ダールケーメン」ニ向ハントスルモノノ如ク、爾餘ノ兵團ハ遠ク「リツク」
 方面ニ在ルヲ知り、二十日早朝ヨリ先ツ「グンビンネン」方面ノ敵ヲ攻撃スルニ

獨軍司令
 官ノ決心
 及攻撃部
 署

- (1) Gumbinnen
- (2) Angerapp
- (3) Stallupönen
- (4) Mallwischken

八月十日
 獨軍第十
 八師團ノ
 態勢

- (5) Goldap
- (6) Darkehmen
- (7) Lyck

決シ之ニ關スル命令ヲ下セリ、部署ノ概要次ノ如シ。

豫備第一軍團ヲシテ「ゴルダープ」方面ノ敵ニ對シ軍ノ右側ヲ掩護セシメ、豫備第三師團ヲ取敢ヘス⁽¹⁾「クッテン」ニ招致シ、第一軍團ヲシテ其意見具申ニ基キ北翼ヨリ攻勢ニ移轉セシメ、第十七軍團ヲシテ先ツ第一軍團ノ右側「ワルテルケイメン」⁽³⁾「ベルカレン」⁽⁴⁾「フリッケン」ノ線ニ向ヒ前進セシム。

- (1) Kutten
- (2) Walterkehmen
- (3) Perkallen
- (4) Plicken
- (5) Augstupönen
- (6) Girnen
- (7) Grünweitschen

軍司令官ハ第十七軍團ノ右ノ如キ前進ニ依リ「アウグストベーン」附近ニ於テ第一軍團ニ對シアル敵ノ左側背ヲ有效ニ攻撃シ得ヘキヲ期待セリ。

獨第十七軍團長騎兵大將「フォン・マッケンゼン」ハ十九日午後前記軍命令ヲ受領スルヤ、直ニ兩師團（歩兵第三十五及第三十六師團）ニ前進ヲ命シ、二十五日餘ノ夜行軍ヲ以テ天明前其準備地域タル「ブリッケン」⁽⁶⁾「歩兵第三十五師團」及其南方「ギルネン」⁽⁶⁾（歩兵第三十六師團）附近ニ達セリ。

獨第十七軍團長ノ獲タル敵情及斷情

是ヨリ先午後八時第一軍團ヨリノ通報ニ依レハ「スタルベーン」街道南方ノ敵ハ微弱ニシテ多クモ一師團ニ上ラス、從ツテ第十七軍團ニシテ「グリユー

- (1) Trakehmen
- (2) Rominte
- (3) Pissa
- (4) Jodozuhnen

ンワイチエン」ヲ攻撃セハ容易ニ敵ノ左翼ヲ席卷シ得ヘシト。然ルニ午後九時半ニ至リ更ニ「第一軍團右翼（ケイニヒスベルグ）總豫備」ハ本夜露軍ノ攻撃ヲ受クヘク、又露ノ第三軍團及第四軍團ノ歩兵第四十師團ハ「トラケイメン」⁽¹⁾及其南方ヲ經テ前進シツツアリ、恐ラク「アウグストベーン」ヨリ「ワルテルケイメン」ニ互ル⁽²⁾「ロミンテ」川ノ彼岸ニ停止スルナラントノ第一軍團通報アリ、同時ニ敵カ數縱隊トナリテ「ビッサ」川南方地區ヲ前進シテ「ワルテルケイメン」ヲ占領シタリトノ報告竝全ク之ト反對ニ夜間ニ於テ「ワルテルケイメン」ニハ全ク敵兵無シトノ報告ニ接ス、綫上ノ情報ハ眞偽區々ナルモ少クモ有力ナル敵カ「ロミンテ」川彼岸ニ存在スヘキヲ豫測セシムルニ足ルモノアリ、然ルニ第十七軍團長ハ軍司令部ト同様、敵ノ北方群ノ南翼ハ第一軍團ニ對シ西北方ニ前進中ナルヲ以テ、軍團ハ容易ニ敵ノ側面ヲ攻撃シ得ヘシトノ判斷ノ下ニ二十日拂曉東北方ニ前進シ、以テ速ニ第一軍團ヲ援助スルニ決シ、歩兵第三十五師團ヲシテ其右翼ヲ以テ「ベルカレン」ヨリ「ヨドツトネン」ニ向ヒ前進セシメ、歩兵第三十

第四 一九一四年八月東普ヘゲンピンネン附近ニ於ケル獨第十七軍團ノ遭遇戰

軍團ノ攻
撃部署

六師團ヲシテ「ワルテルケーメン」ヲ經テ右ノ攻撃ヲ援助シ、且南方ニ對シ警戒セシム、軍司令部ハ敍上ノ部署ヲ是認シ之ニ基キテ直ニ攻撃ヲ實施スヘキヲ命セリ。

二十日拂曉「フオン・マツケンゼン」將軍ハ「ギルネン」北方高地ニ到レリ、兩師團ノ諸隊ハ何レモ疲勞困憊ノ極ニ達セルモ短時間ノ休憩ノ後勇ヲ鼓シテ前進セリ。

露軍ノ情
況

露第一軍ハ十九日夕要圖第二ノ態勢ニ在リ、軍司令官「レンネンカンフ」大將ハ軍隊ノ疲勞ト補給上ノ困難トヲ顧慮シ、十九日眞面目ノ戰鬪ヲ惹起セサル程度ニ於テ成ルヘク前方ニ占位シ、二十日其位置ニ在ツテ休止センコトヲ企圖シ、命令スル所アリ。

- (1) Puspurn
- (2) Szirgupönen
- (3) Sodehnen

露第三軍團長(第四十師團ノ主力ヲ併セ指揮ス)ハ之ニ基キ二十日「プスベルン」⁽¹⁾「スチルグベーン」⁽²⁾「ソデーネン」⁽³⁾ノ線ヲ占領セント欲シ、十九日夜遅ク命令ヲ下シ、二十日午前五時迄ニ第二十五師團ヲシテ「プスベルン」⁽¹⁾「スチルグベーン」⁽²⁾「ウエルデリン」⁽¹⁾ノ地域ヲ、第二十七師團ヲシテ「マチシケーメン」⁽²⁾「ワルシレーゲン」⁽³⁾ノ地域ヲ、第四十師團ヲシテ「ソデーネン」⁽³⁾附近ヲ占領セシム。

- (1) Werderin
- (2) Mattischkehmen
- (3) Warschlegen

一、戰鬪經過(附圖第三參照)

兩師團ノ前進ハ當初敵ノ大ナル抵抗ヲ受クルコト無ク順調ニ進捗シ、步兵第三十六師團ハ午前八時半「グリュエーンワイチェン」南方地區、同第三十五師團ハ午前九時頃「ヨドツォーネン」北方地區ニ達セリ、然レトモ此頃ヨリ敵火ノ被害漸ク高マレリ。

步兵第三
十五旅團
長ノ獨斷

午前九時頃第一軍團ノ通報將校步兵第三十五師團ノ左旅團タル第八十七旅團長ノ許ニ來リ「第一軍團ノ攻撃有利ニ進展中ニシテ軍團長「フオン・フランソア」將軍ハ第十七軍團カ「スチルグベーン」ニ向ヒ突進シ敵ノ退路ヲ遮斷セハ最大ノ成果ヲ收メ得ヘキヲ確信スル」旨通報セリ、是ニ於テ旅團長ハ獨斷ヲ以テ第一軍團ノ希望ニ應シ其旅團ヲ提ケテ北方「ピッサ」川ニ向ヒ轉進スルニ至レリ。

戰場ノ地形

軍團長敵情判斷ヲ

- (1) Schwentischke
- (2) Sodinehlen
- (3) Soginten

軍團長ハ「ベルカレン」東方地區、後「グリューンワイチエン」西方平地ニ於テ兩師團ノ迅速ナル前進状態ヲ視察セリ。地形ハ「⁽¹⁾シユウエンチシユケ」川ニ至ル迄ハ平坦開濶セル波狀地ナルモ、該川東方ハ起伏地ニシテ加フルニ獨立家屋無數ニ散在シ、通視極メテ困難ナリ。當時第一軍團長ヨリ該軍團前面ノ敵兵退却ヲ開始シタルコト竝第十七軍團ノ「スチルグペーネン」ニ向フ前進ヲ希望スル旨ノ通報アリシヲ以テ、軍團長ハ敵兵總退却ニ移リタルカ如ク判斷シ「シユウエンチシユケ」川後方ニ於テ若干ノ抵抗ヲ受クヘキヲ豫想セルニ過キス。飛行機ノ報告亦午前七時「ゲンビンネン」東方鐵道線路ヨリ「ロミンテ」森林ニ互ル間ノ地域ニ車輛縱列ト露軍ノ露營跡トノ外敵兵ヲ認メサルコトヲ示セリ。又午前十時乃至同十一時ノ間ノ飛行機報告ニ依レハ「敵ノ南翼ハ「スチルグペーネン」南方三吉⁽²⁾「ソヂネーレン」附近ニ在ルモノノ如ク、該地ヨリ「ロミンテ」森林ニ至ル間ノ地域ニ於テハ「マチシケーメン」附近ニ砲兵、⁽³⁾「ソギンテン」附近ニ混成支隊（砲兵ヲ有スル混成聯隊）在ルノミ」ト、是ニ於テ「フオン・マツケンゼン」將軍ハ

軍團豫備加入第一線

- (1) Enzuhnen
- (2) Kaselehken

敵ノ側背ヲ衝カンカ爲、軍團豫備（步兵第三十六師團ノ步兵第百二十九聯隊及砲兵⁽¹⁾）「エンツトーネン」方向ニ使用ス。此時偶々敵カ「ゴルダーブ」ヨリ北進中ナリトノ報ニ接シタルヲ以テ軍ノ右翼兵團タル豫備第一軍團ノ未タ尙遠ク離隔シ在ルニ鑑ミ、步兵第三十五師團ヨリ步兵一聯隊及砲兵ヲ抽出シテ新ニ軍團豫備トナセリ。

軍團ノ攻撃失敗ス

軍團ノ諸隊ハ「シユウエンチシユケ」川ヲ越ユル頃ヨリ大部分展開シ一部工事ニ據レル敵ニ衝突シ、猛烈ナル火力就中砲兵火ノ下ニ損害續出セリ。最右翼ノ第一線ニ使用セラレタル步兵第百二十九聯隊ハ「⁽²⁾カゼレーケン」附近ノ敵ヲ擊退シ得タルモ、爾後頑強ナル敵ノ抵抗ニ遭遇シテ攻撃進捗セス、其北方ニ於ケル步兵第三十六師團ノ各部隊ハ右翼ニ於テ若干ノ進出ヲ爲セルモ「ソデーネン」以北「シユウエンチシユケ」川東岸高地ニ對スル攻撃ハ準備セル火力ノ爲ニ壓倒セラレ最後ノ豫備ヲ投セルニ拘ラス殆ト進捗セス、更ニ其北方步兵第三十五師團方面ニ於テ右翼旅團ハ「マチシケーメン」方向ニ使用セラレシカ、該

方面ニ於テモ敵ハ靱強ナル抵抗ヲ持續シテ攻撃停頓シ、左翼旅團ハ「ウエルデルン」附近最初ノ衝突ニ於テ敵ヲ擊破シ「スチルグベーン」附近ニ突進セシモ、此攻撃ハ右側ヲ暴露シ次テ該方向ヨリ有力ナル敵ノ逆襲ヲ受ケシ爲異常ノ苦境ニ陥リ損害特ニ大ナリ。

午後ニ至リ軍團ノ攻撃ハ全線ニ互ツテ頓挫セリ。

露軍ノ情 當面露軍ニ在リテハ第三軍團ハ既述ノ如ク早朝宿營地ヲ發シ午前五時迄ニ「シ

ユウエンチシユケ」河畔ニ陣地ヲ占領スヘキ企圖ニ在リ、然レトモ命令傳達ノ遲延等ニ依リ豫定ノ如ク陣地ヲ占領スルヲ得ス、右翼第二十五師團及左翼第四十師團ニ於テハ大部分工事ニ據ルノ暇無ク豫定陣地線附近ニ於テ殆ト獨軍ト遭遇戰ヲ交フルノ狀ヲ演セシモ、前方部隊ノ觸接ニ依リ獨軍ノ來攻ヲ知得シ、且地形ノ關係有利ナリシ爲、衝突時ニ於ケル火力組織ハ露軍側優越ヲ占メ、特ニ各警戒部隊ノ主力ハ夜來構築セル工事ニ據レリ、尙中央第二十七師團ハ既ニ午前十時頃ヨリ所命ノ地點ヲ占領スルヲ得シヲ以テ、十分ナル戰鬪準備ヲ以テ對

戰スルヲ得タリ、各方面ノ戰鬪ハ露軍側ニ於テモ大ナル損害ヲ生セシモ、能ク守勢ニ於ケル露兵ノ靱強ナル長所ヲ發揮シ、到ル處獨軍ノ攻撃ヲ挫折セシムルヲ得タリ。

三、退却

退却ノ動機

獨軍ノ攻撃ハ功ヲ急キシ爲必要ノ準備ト秩序トヲ失ヒ、歩兵ハ殆ト全ク遮蔽セル敵ノ組織的火力内ニ孤立シテ突進シ、其稠密ナル隊形ハ被害ヲシテ益々大ナラシメタリ、多クノ砲兵中隊ハ急進セル歩兵ヲ援助セントシテ暴露前進シタルヲ以テ多大ノ損害ヲ生シ、而モ露軍砲兵ハ能ク其位置ヲ掩蔽シアリシヲ以テ、適時之ヲ發見制壓スルヲ得ス。斯クテ如何ニ後方部隊ヲ注加スルモ、敵火ハ忽チ之ヲ消滅シ、玆ニ初陣ノ將卒ハ熾烈ナル敵火就中砲兵火ニ依リ痛ク震駭セシメラレ、啻ニ前進力ヲ失ヒシノミナラス、今ヤ敵火中ニ駐止スルコトサヘ困難トナレリ。

露軍側記事ニ依レハ此日獨軍側ノ戰鬪動作頗ル拙劣ニシテ濃密ナル散兵線、集

結セル縱隊ヲ以テ突進シ、露軍火線ニ近ク騎馬シテ指揮スル指揮官アリ、一砲兵大隊(全大隊ニアラス隨伴砲兵二中隊ナリ)ノ如キハ「グリユーンワイチェン」街道上ヲ露軍陣地前千二百米迄縱隊前進シ發射一發ニシテ擾亂セラレ後刻全部鹵獲セラレタリト。

午後三時遂ニ「グリユーンワイチェン」東方ノ部隊先、退却運動ヲ開始セリ、該運動ハ各級指揮官ノ努力ニ依リ一時之ヲ阻止スルコトヲ得タルモ、幾モ無クシテ再ヒ開始セラレ、其餘波ハ主トシテ北方ニ波及セリ、是レ該方面ニ於テハ「スチルグベーン」ニ對スル歩兵第八十七旅團ノ攻撃失敗シ諸隊既ニ動搖シツツアリシヲ以テナリ。

「フォン・マッケンゼン」將軍ハ其幕僚ト共ニ疾驅前方ニ進出シテ退却ヲ阻止セントセシモ、雪崩ノ如キ退走部隊ハ今ヤ如何トモ爲ス能ハス、此危急ノ際ニ方リ歩兵第三十六師團ノ右翼ヨリハ有力ナル敵軍ノ前進ヲ報シ來ルアリ「フォン・マッケンゼン」將軍ハ眼前ニ以上ノ情況ヲ視テ思ヘラク、「今ヤ露軍ハ此機ヲ逸

セス攻勢ニ轉シ來ルヘク、軍團諸隊ノ志氣沮喪既ニ斯ノ如ク、且薄暮漸ク迫リタルヲ以テ部隊ヲ堅固ナル障碍物ノ後方ニ收容スルノ外無カルヘシ、歩兵第八十七旅團ハ既ニ退却セリ」ト、斯クテ爾餘ノ軍團諸隊ニ對シテモ亦「ロミンテ」川後岸ニ向ヒ退却シ、該地ヲ固守スヘキ命令ヲ下セリ。

獨軍ノ情況斯ノ如ク危殆ニ瀕シ居タルニ係ラス、露軍ハ之ヲ利用スルコトヲ爲サス、何レノ方面ニ於テモ追撃シ來ラサリシカハ「フォン・マッケンゼン」將軍ハ再ヒ退却ヲ阻止センコトヲ企圖セリ、其結果歩兵第三十六師團ノ右翼及中央ハ退却ノ渦中ヨリ脱シテ概ネ晝間ニ獲得セル位置ヲ保持シ、左翼ハ師團長ノ努力ニ依テ「ワルテルケーメン」東北方高地ニ停止セリ、歩兵第三十五師團ハ「ロミンテ」川後方「ベルカレン」附近ニ集合セリ。

此夜軍團ハ他方面ノ戰況上軍命令ニ依リ戰場ヲ離脱シ「アングラップ」川西方ニ退却セリ。

四、損害

兩軍ノ損 此日ノ戰鬪ニ於ケル軍團ノ損害ハ極メテ大ニシテ歩兵ノミニテモ約八千人即

チ總兵力ノ約三分ノ一ヲ失ヒ將校ノ死傷二百名ニ達セリ。

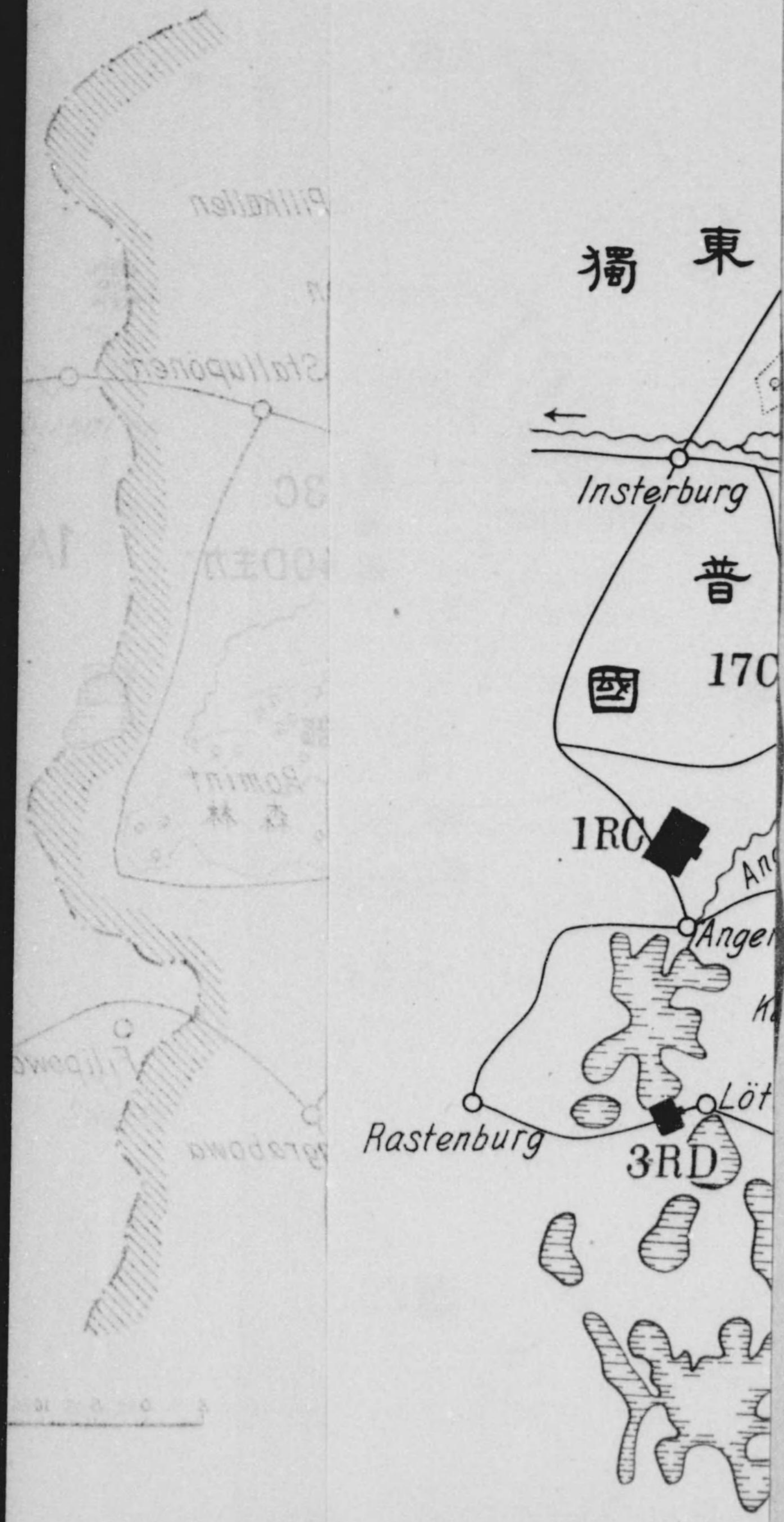
露第三軍團ノ損害亦少カラス、第二十五師團將校以下三、一八四、第二十七師團同九七一、第四十師團同二、〇五三ヲ算セリ、但シ兩翼師團ノ各一部ハ獨軍ノ他ノ兵團ニ對セシカ故ニ獨第十七軍團ニ對セシモノノ損害ハ此數ヨリハ多少鮮カルヘシ。

五、本戰鬪ニ關スル觀察

本戰鬪ニ於テ獨軍攻撃失敗ノ根本原因ハ敵情ニ關シ相當判斷ノ資料憑據ヲ得タルニ係ラス、先入的謬見ニ捉ハレ刻々入手セル敵情ニ即シテ至當ナル判斷ヲ爲スコトヲ怠リ、只管隣接兵團救援ノ功ヲ急キタル結果、攻撃ノ遂行ニ必要ナル諸秩序ヲ缺キタル點ニ在リ、即チ攻撃ハ奮進的氣勢ヲ以テ敢行セラレタルモ、搜索、戰鬪準備、統制、步砲ノ協同等ニ關スル著意不十分ニシテ選定セル攻撃方向亦適當ヲ缺ケリ、加フルニ平時ノ練成未タ近代戰ノ實相ニ應セス部隊ノ行動ニ

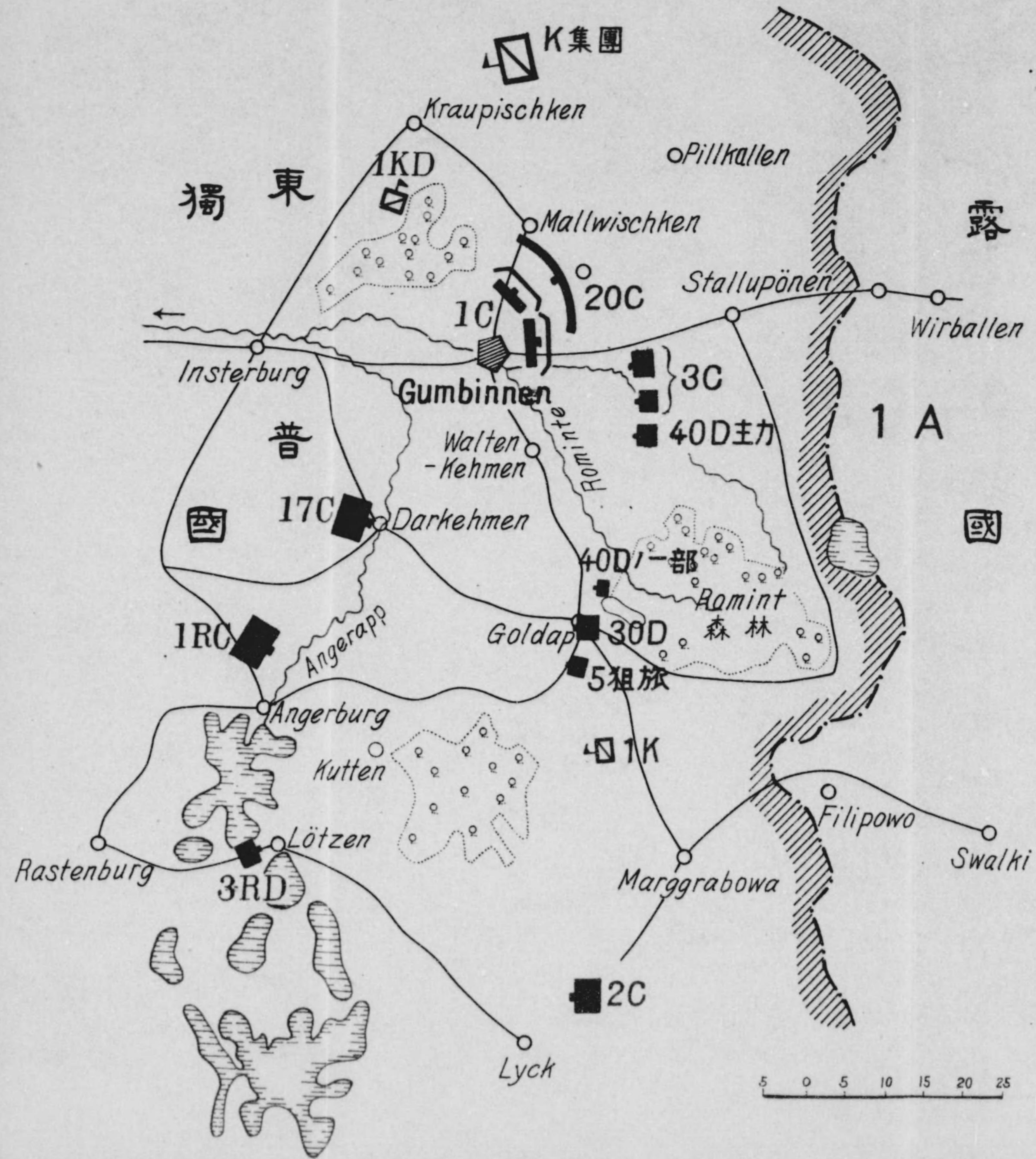
シテ火力ノ關係ヲ輕視スルモノ少カラス、爲ニ遮蔽シテ戰鬪ヲ準備セル敵ト衝突スルヤ、其組織的火力ニ依リ瞬時ニ甚大ナル損害ヲ蒙リ其慘烈ナル火力ハ初陣ノ戰士ヲ震駭シテ遂ニ一部恐慌ヲ伴フ敗走ヲ惹起スルニ至レリ。抑、奮進的氣勢ヲ以テ迅速猛烈ニ戰勝ヲ求ムルハ主義トシテ甚タ可ナリト雖モ、單純ニ攻撃成功ノ主因カ秩序ヨリモ運動ノ迅速ニアリト思惟スルニ至ツテハ最近戰役ノ經驗ニ背戾スル所ニシテ本戰鬪ハ明瞭ニ之ヲ例證スルモノナリ。

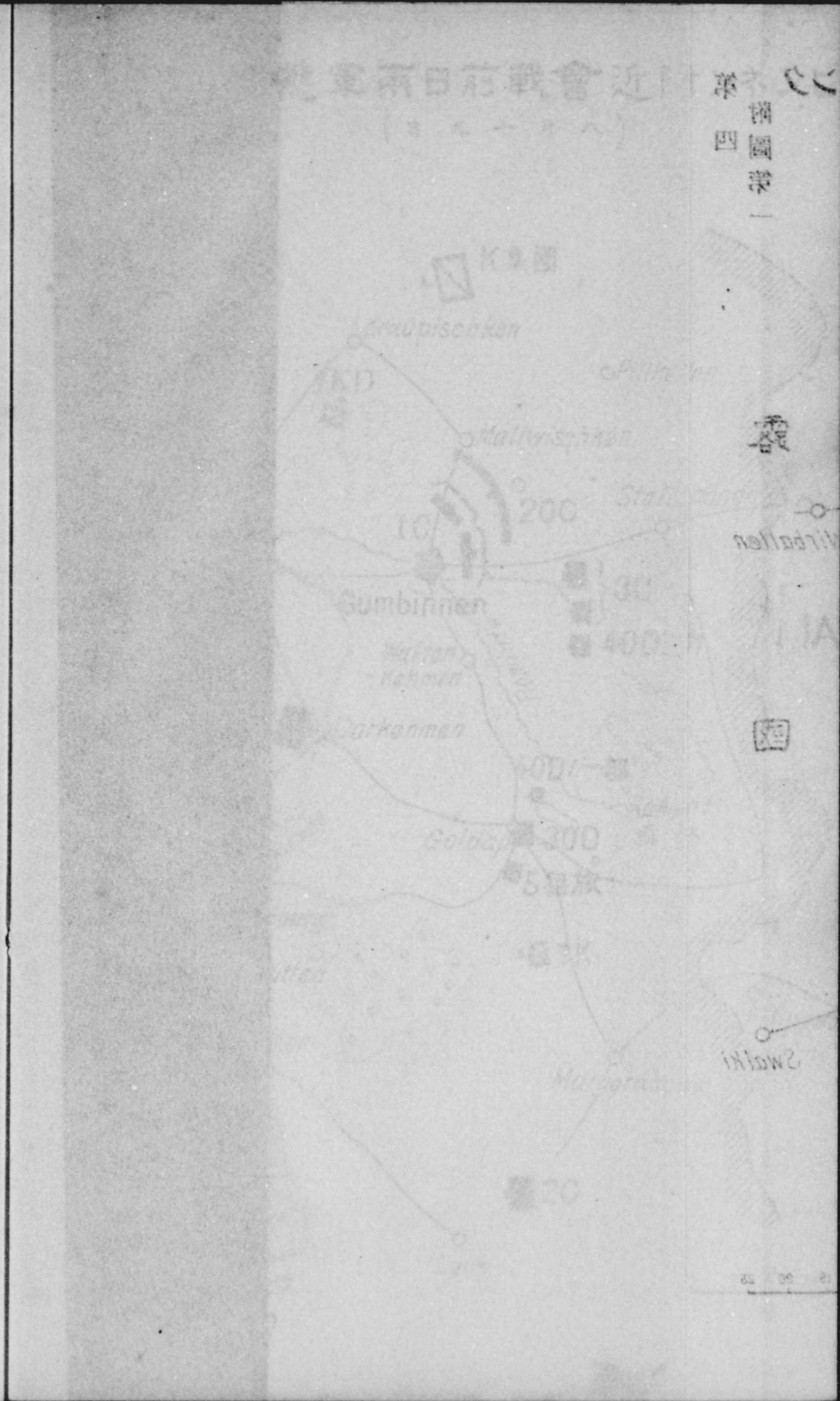
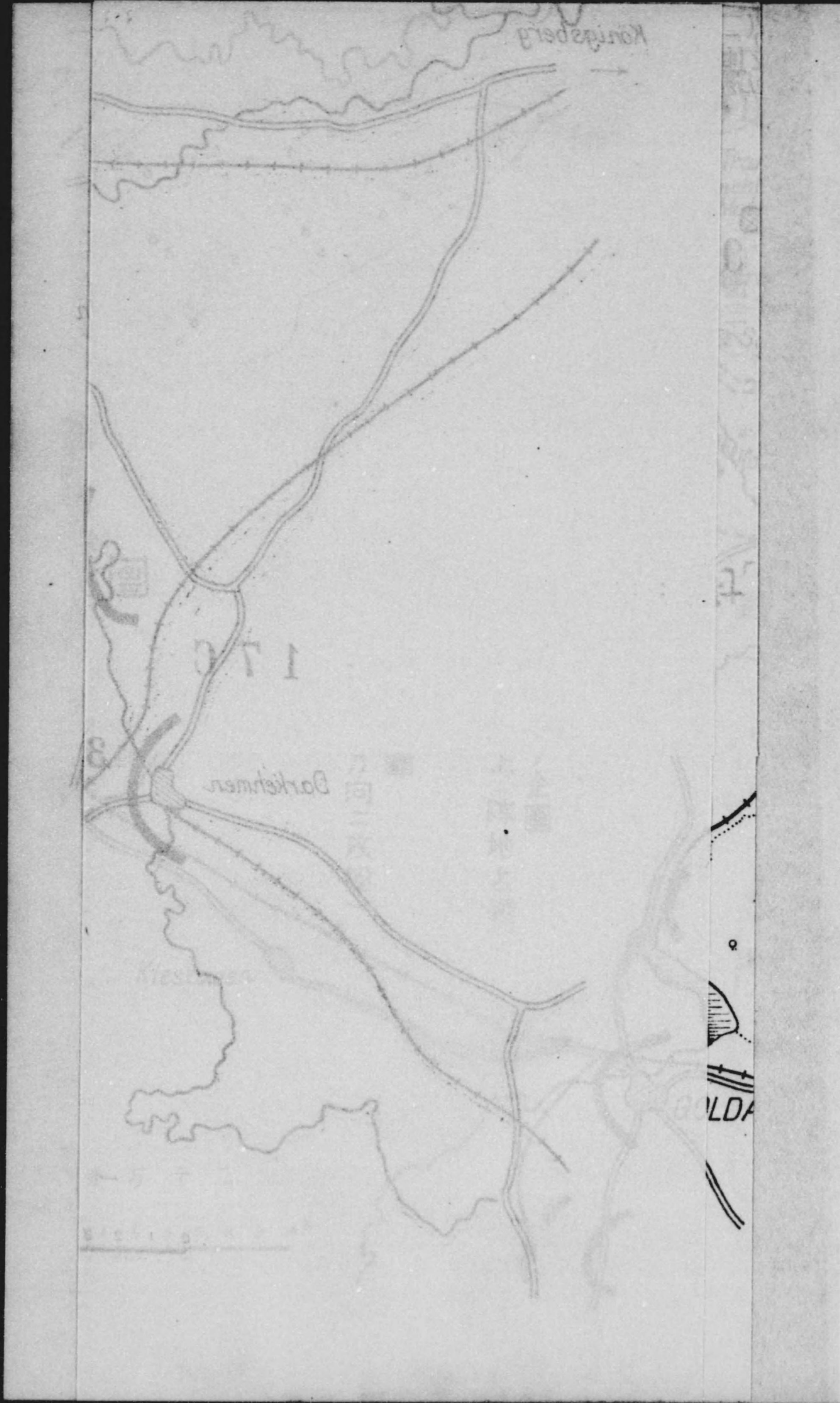
勢一覽圖



圖覽一勢態軍兩日前戰會近附ンネンビンク
(日九十月八)

第四
附圖
第一

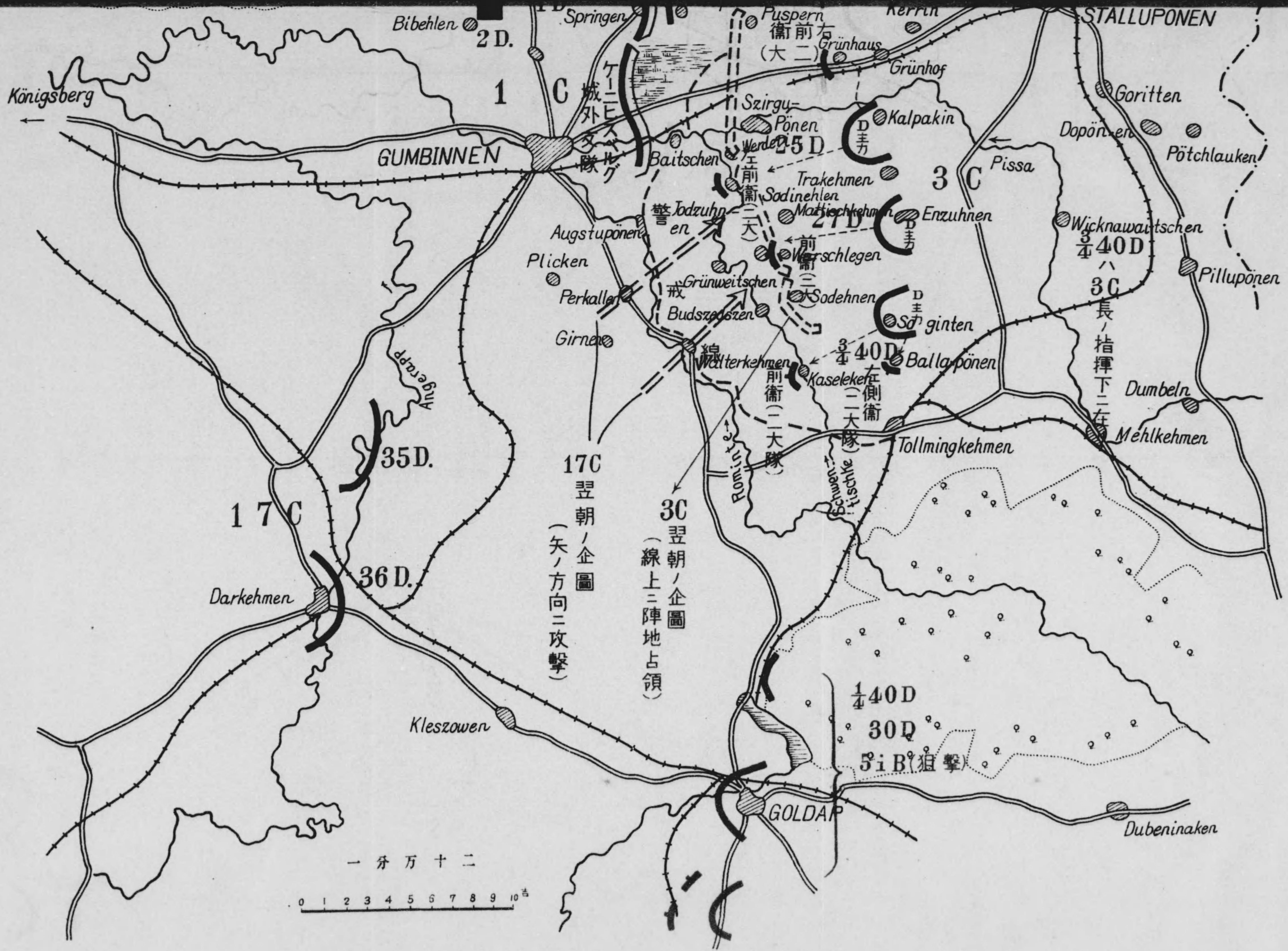




圖要置位團軍三第露前戰近附ンネンビング
 (夜日九十月八)

第四
 附圖第二

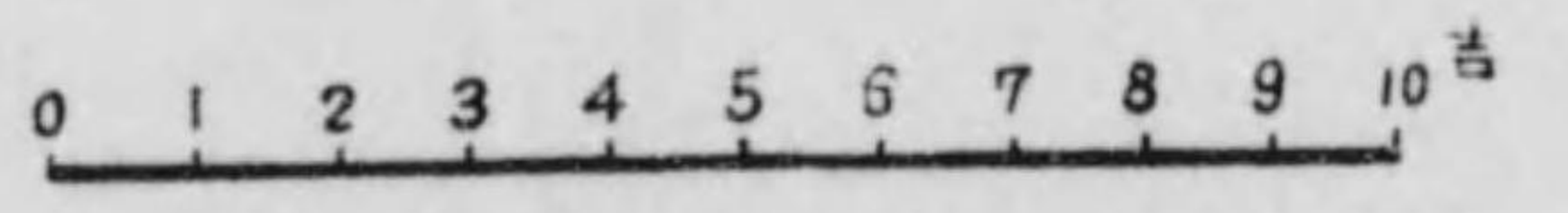


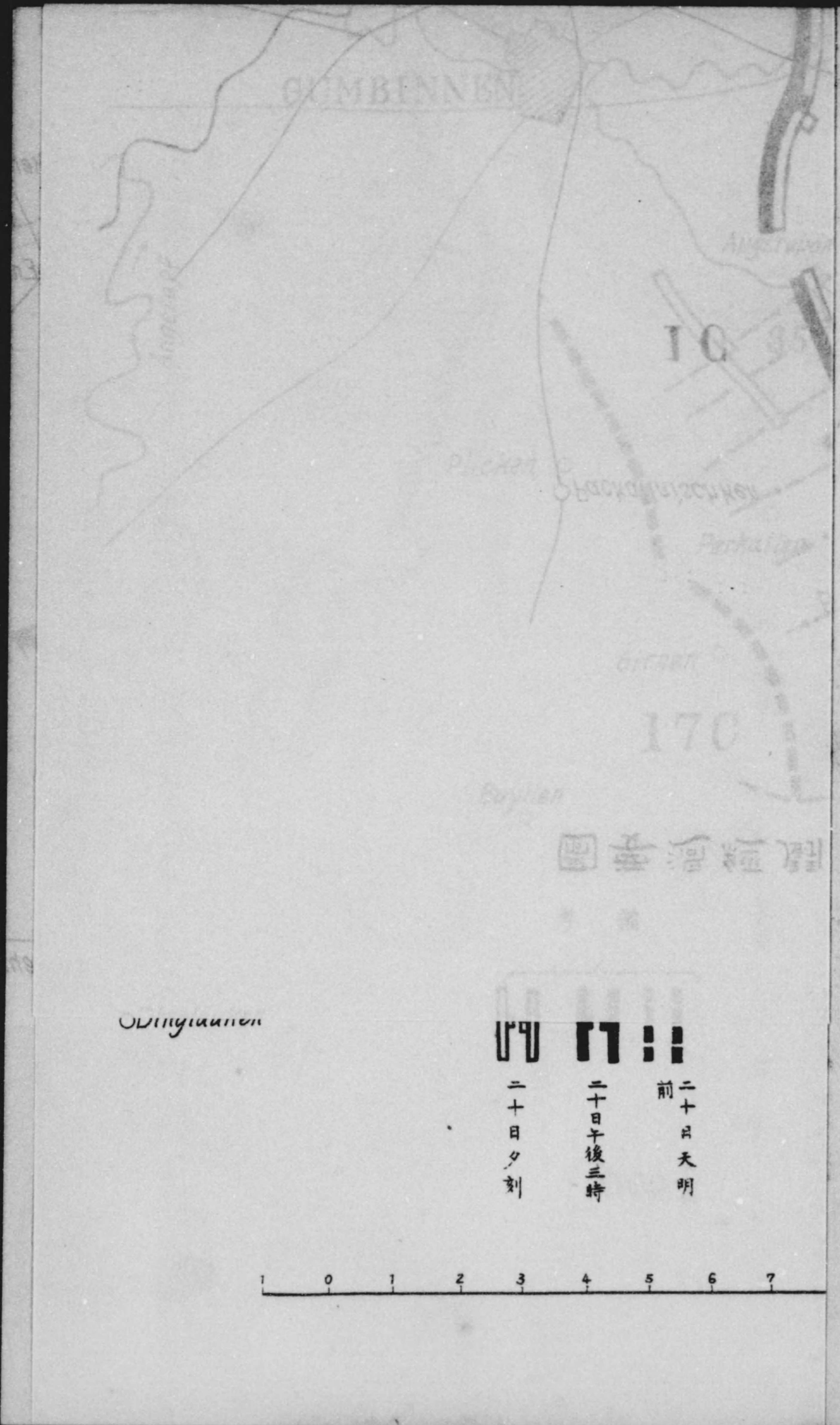


17C
翌朝ノ企圖
(矢ノ方向ニ攻撃)

3C
翌朝ノ企圖
(線上ニ陣地占領)

一分万十二





GUMBINNEN

179

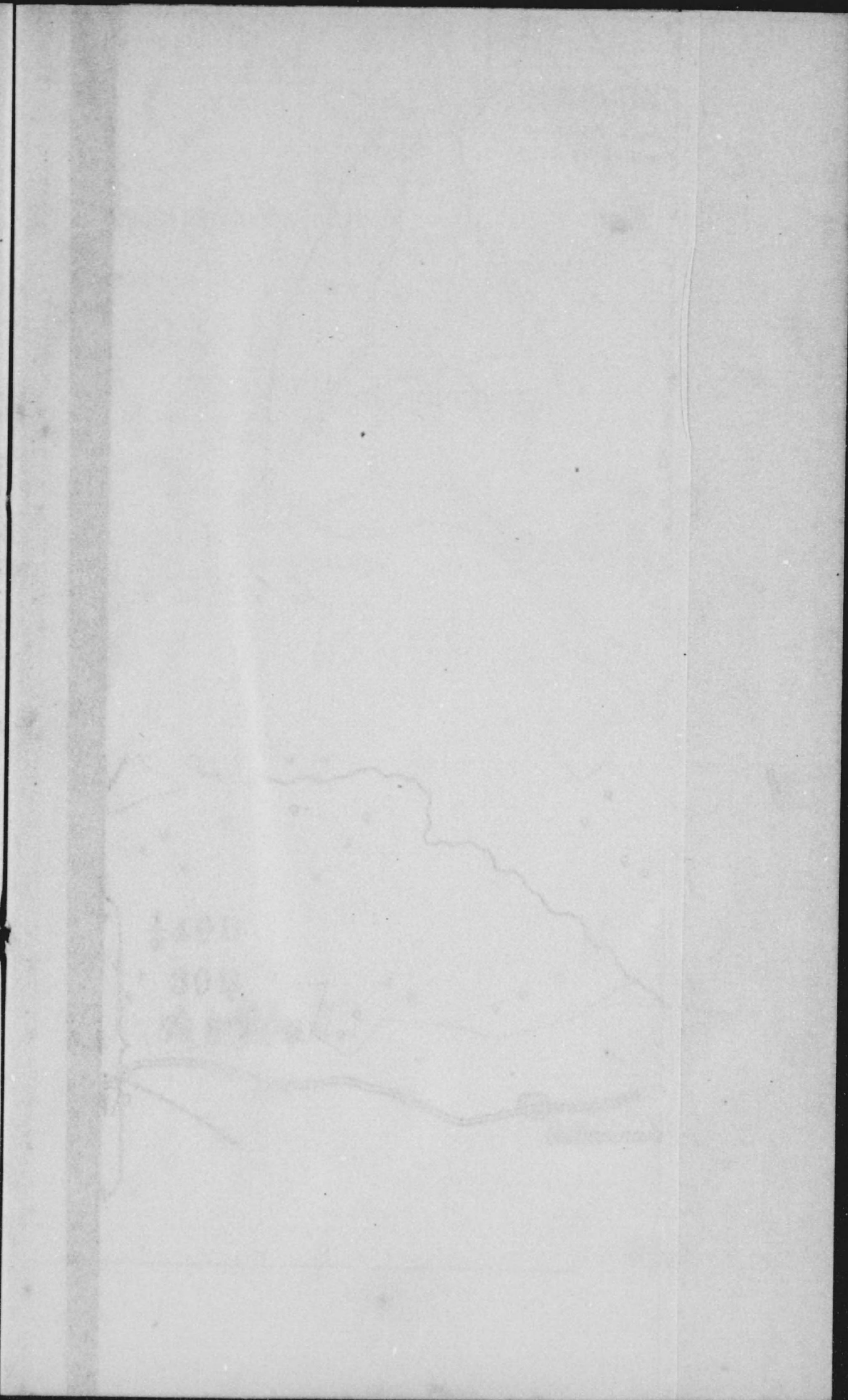
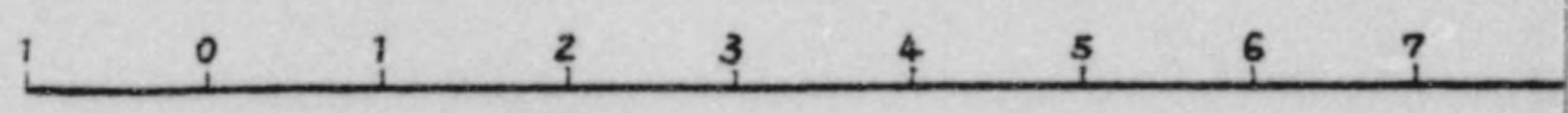
177

175

Dinglaunen

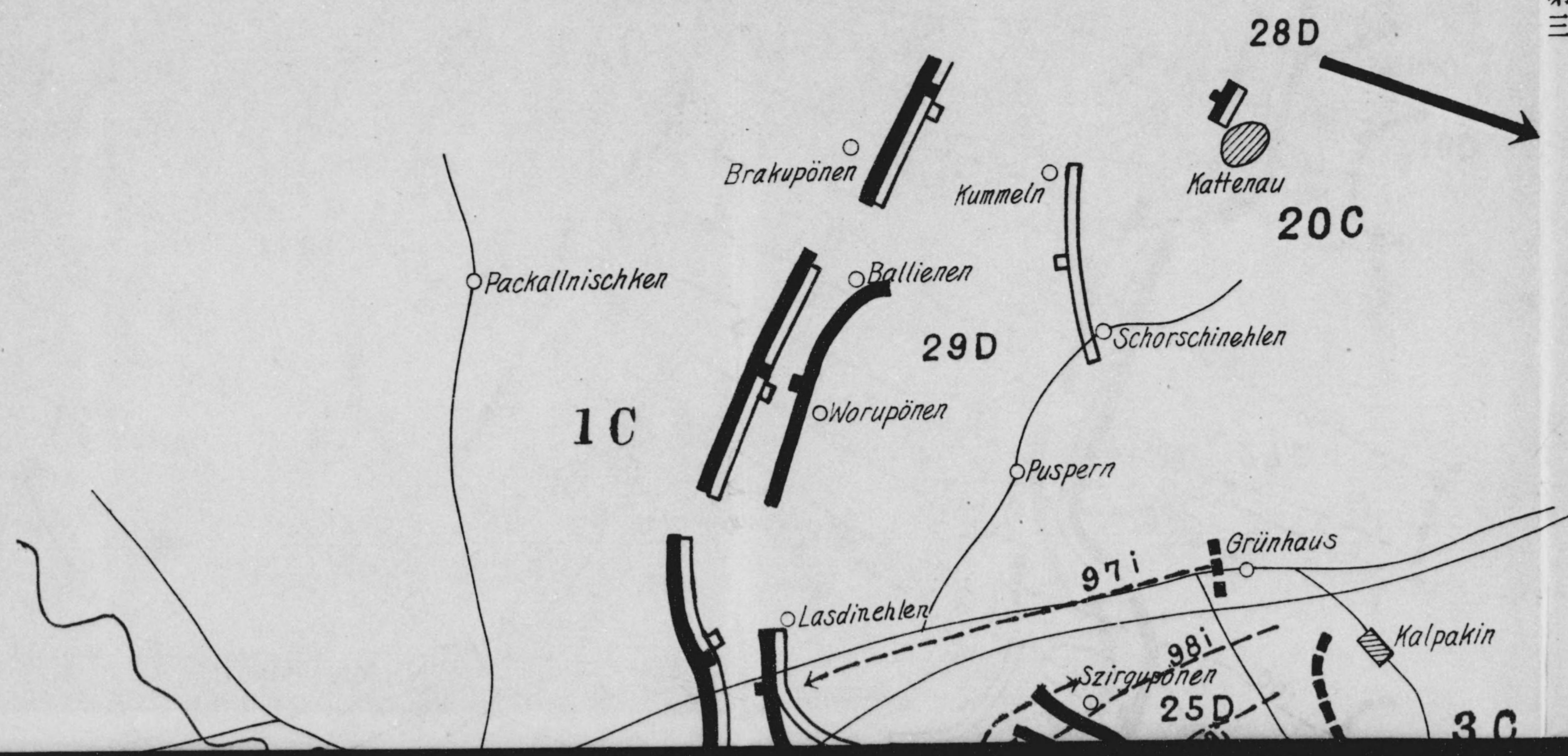
179 177 175

二十日夕刻
二十日午後三時
前二十日天明



圖要過經戰團軍七十第獨近附ンネンビン
(刻夕至乃朝日十二月九)

第四
附圖
第三



第五

一九一四年八月「タンネンベルヒ」會戰ニ於ケル獨第八軍東

部兵團ノ「グロース・ベッサウ」附近ノ遭遇戰

一、戰鬪ノ端緒(附圖第一、第二參照)

「フオン・ブリットウイツ」大將ノ指揮スル獨第八軍(第一、第十七、第二十、豫備第一軍團、豫備第三師團並騎兵第一師團ヲ基幹トス)ハ一九一四年八月一部(第二十軍團ヲ基幹トス)ヲ以テ東普南境ニ於テ「ナレウ」地方ノ露第二軍ニ對シ、其主力ヲ以テ東普東境ヲ越エテ西進中ナリシ露第一軍ヲ「グンビンネン」地方ニ迎へ、八月二十日之ヲ攻撃セシモ勝敗決セス、偶々露第二軍東普南境ヲ越エテ北進中ナルヲ報セラレシヲ以テ、軍司令官ハ戰ヲ廢メテ「ワイクゼル」河畔ニ向ヒ退却スルニ決シ、諸兵團ヲシテ夫々鐵道輸送及徒步行軍ヲ以テ西方ニ移動セシム。此間(二十二日)軍司令官ノ更迭アリ、新軍司令官「フオン・ヒンデンブルク」大將職ヲ取ルニ及ヒ退却ヲ中止シ露第二軍ヲ攻撃スルノ決心ヲ確立シ、會戰ノ爲軍ノ主力ヲ第二十軍團ノ戰場(「ギルゲンブルグ」附近)ニ近ク集結セント欲

「グンビンネン」附近ノ會戰

- (1) Narew
- (2) Grimbinnen
- (3) Weichsel
- (4) Gilgenburg